



③

④

⑤

## 葉色見本

### 黄化率割合と刈取り適期



● 鞍月支店	237-6240	238-0006	● 地域事業課	266-5220	268-8170
● 大徳支店	267-1288	267-5253	● 農機課	268-6220	266-5228
● 戸板支店	265-5148	224-5148	● 販売指導課	266-5003	268-0444
● 二塚支店	249-3478	249-3458			
● 三馬支店	242-7256	243-2350	● ホームページもご覧ください。		
● 米丸支店	291-2215	291-2263	<a href="https://www.is-ja.jp/c-kanazawa/">https://www.is-ja.jp/c-kanazawa/</a>		

# 令和8年 金沢 営農ごよみ



高品質金沢産米づくり  
JA金沢中央・金沢営農協議会



生産者の皆様方には、この営農ごよみを活用していただき、高品質な金沢産の米づくりに励んで下さい。  
尚、ご不明な点がございましたら、JAにご相談下さい。

目次

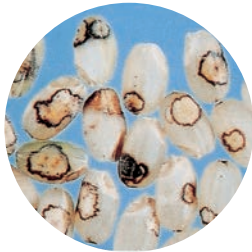
- 『高品質金沢産米づくり運動』について . . . . . 1～4
- 異物混入対策について . . . . . 5
- 水稻用除草剤の上手な使い方、選び方 . . . . . 6～13
- 知っていますか？「RACコード」 . . . . . 14
- ヒエ対策特集 おすすめ除草体系 . . . . . 15
- 藻類の対策について . . . . . 16
- イナゴ対策について . . . . . 17
- 農作業安全対策について . . . . . 18～19
- 水稻初期除草剤の使用時期に注意してください . . . . . 20～21
- 野焼きは法律で禁止されています . . . . . 22
- 道路の泥汚れ防止について . . . . . 23
- 水稻除草剤の切替え推奨品 . . . . . 24
- Jコート入り一発肥料「NEOシリーズ」について . . . . . 25
- コシヒカリ一発肥料の選定にあたって . . . . . 26
- 高温障害対策特集 . . . . . 27～29
- 〈営農情報〉気象変動に左右されない米づくりをめざして . . . . . 30～31
- 水稻肥料銘柄一覧 . . . . . 32
- 水田畦畔等除草剤の使用について . . . . . 33
- 水稻防除剤の登録内容（令和7年10月登録現在） . . . . . 34～35
- 本田除草剤の登録内容（令和7年10月登録現在） . . . . . 36～37
- ゆめみづほ栽培ごよみ . . . . . 38～39
- コシヒカリ栽培ごよみ . . . . . 40～41
- 雑草防除基準・病害虫基幹防除基準 . . . . . 42～43
- 3月の作業（は種） . . . . . 44～45
- 4月の作業（育苗、荒起し・代かき、基肥施用） . . . . . 46～49
- 5月の作業（田植え、除草剤散布） . . . . . 50～51
- 6月の作業（中干し、溝切り、中間追肥施用） . . . . . 52～53
- 7月の作業（穂肥施用、基幹防除） . . . . . 54～57
- 8月の作業（水管理、適期刈取り） . . . . . 58～59
- 9月の作業（乾燥、籾すり、出荷） . . . . . 60～63
- 10月の作業（土づくり） . . . . . 64～65
- 農地の有効利用を応援します . . . . . 66
- JAが提案する今後の稲作省力体系 . . . . . 67
- BB肥料側条基肥開度目安表 . . . . . 68～75
- 農作業の工程管理（自己点検）に取り組もう . . . . . 78～82
- 令和8年産 水稻生産履歴記録簿 . . . . . 83～90
- 稲の病気の種類・着色粒の種類 . . . . . 91
- 稲の害虫の種類 . . . . . 92
- 水田の主な雑草 . . . . . 93



整粒歩合 80%  
以上の良質米



登熟不良による  
乳白粒



カメムシによる  
斑点米

高品質金沢産米づくり運動

基本目標

- 1等比率 90%以上
- 整粒歩合 80%以上
- 乳白粒 3%以下
- 胴割粒 2%以下
- 着色粒（斑点米） 0
- コシヒカリ  
玄米タンパク含有率 6.5%以下
- ゆめみづほ  
玄米タンパク含有率 7.0%以下

重点事項

- 着色粒（カメムシ斑点米）発生防止
- 乳白粒発生防止
- 胴割粒発生防止

令和8年度「高品質金沢産米づくり運動」実施事項

斑点米、乳白粒、胴割粒の発生防止をめざして

- 「10の推進技術」の実施
- 「6つの1か月対策」の徹底
- 土壌分析に基づく土づくり、深耕の実施



# 高品質金沢産

〔10の推進技術〕・〔6つの1か月対策〕・〔総合的な土づくり〕

# 米づくり運動

を实践し、おいしくてきれいな金沢産米を食卓へ届けよう

## 1 10の推進技術って……なに？

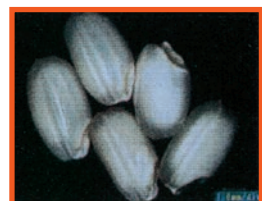
お米の品質を落とす主な要因には、①米粒が白濁する乳白粒、②米粒に亀裂が入る胴割粒、③カメムシによる斑点米があげられます。

それらの発生を抑え、きれいなお米に育てあげるためには、必要な技術がいくつかあります。

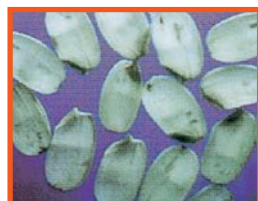
うま・きれ+1運動では、10の技術の実践を推進し、高品質なお米の生産を目指しています。

下の表で、1つずつ確認してみてください。たぶん、日頃からみなさんが実践されている技術ばかりのはずです。

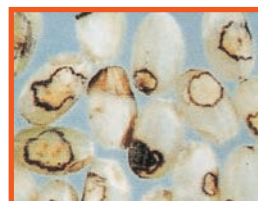
つまり、10の推進技術とは、もはや当たり前とも言える「基本技術」であり、みんなで継続して徹底することで、高品質な金沢産米を安定して食卓へ届けるために必要な技術です。



〔乳白粒〕



〔胴割粒〕



〔斑点米〕



## 10の推進技術

★どれだけ実践しているか、チェックしてみましょう！

推進技術	目標	チェック
1 播種量 (うす播きの励行)	・1箱当たり130g (太植による過剰生育の抑制)	
2 育苗日数 (健苗の育成)	・播種から田植えまで <b>1か月以内</b> (初期育成の確保)	
3 植付本数 (細植えの励行)	・1株当たり3～4本 (適正茎数の確保)	
4 栽植密度 (優良茎の確保)	・地帯・作型に応じた適正な栽植密度の徹底 (適正茎数の確保)	
5 適正な施肥 (栄養凋落防止 と登熟向上)	・高温登熟に対応した基肥一発施肥への切り替え ・ <b>生育状況に応じた追加穂肥の実施</b>	
6 田植え時期 (早植えの防止)	・5月田植えの励行 (過剰生育の防止)	
7 中干し・溝切り (遅発分げつの抑制)	・田植え <b>1か月後</b> からの実施 (過剰生育防止) ・中干し期間 <b>1か月</b> (コシヒカリ) の遵守	
8 除草・防除 (畦畔等の除草と カメムシ防除の徹底)	・7月上旬までの追加除草 ・水稻の生育ステージにあわせた適期防除の実施	
9 水管理 (飽水管理の徹底)	・中干し後から出穂までの <b>約1か月</b> (コシヒカリ) の飽水管理 ・出穂から刈取り直前までの <b>1か月以上</b> の飽水管理	
10 刈取時期 (適期刈取りの励行)	・籾の黄化程度に応じた刈取り	

## 2 6つの1か月対策って……なに？

「水稻」は「水の稲」と書くとおり、お米の生産にとって水は最も重要な要素であり欠かすことのできないものです。その水は、みなさんがご存知のとおり、上手に活用することで、お米の食味・品質・収穫は安定します。

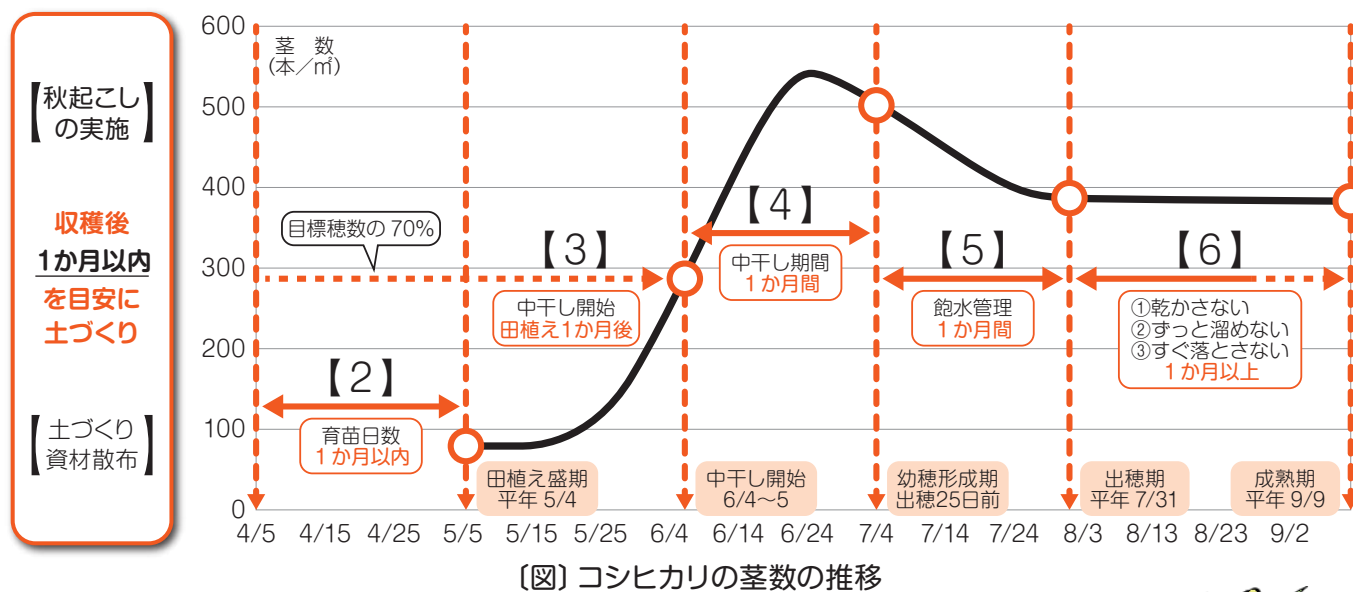
6つの1か月対策とは、お米の生育期間中の水管理を中心とした管理対策を、1か月ごとに区切りシンプルに整理したもので、うま・きれ+1運動の大きな技術柱の1つとなっています。

本対策も、10の推進技術と同様で、必要な「基本技術」であり、本年産から「6つの1か月」を意識し、対策を実践していきましょう。



## 6つの1か月対策のポイント

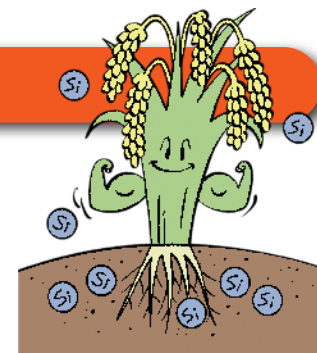
- 【1】刈取り後**1か月以内**を目安とした土づくり (秋起こし)
- 【2】育苗日数は、**1か月以内** (20～25日間)
- 【3】中干し開始は、田植え**1か月後**
- 【4】中干し期間は、**1か月間** (コシヒカリ)
- 【5】中干し後から出穂までは、**約1か月間** (コシヒカリ) の飽水管理
- 【6】出穂から刈取り直前までの**1か月以上**は、①乾かさない・②ずっと溜めない・③すぐ落とさない



## 3 総合的な土づくりの実践

土づくりに必要なリン酸・ケイ酸・腐植が不足し、更に夏の高温による品質低下や倒伏などによる収量減少が増えてきております。まずは、基本の土づくりをしっかり行い、稲体を強くしましょう。

詳細については、30～31ページをご確認ください。





# 米の食味について

ご飯の食味は、粘り・硬さのような物理的要素や、香り・うま味などの化学成分に支配されている。物理的要素は、米の食味に対し7～8割も寄与している。

粘りは、主にデンプンを構成しているアミロースとアミロペクチンが関係しており、アミロースの含有率が高くなると粘りが弱くなって食味が劣る。

硬さはタンパク質と関係しており、タンパク質含有率が高い米は、ご飯が硬く、粘りが弱くなって食味が劣る。

## 食味値について

	食味との関係	主な変動要因
タンパク質	高いと食味低下	窒素の施用量、施用時期など
アミロース	低いと食味よい	品種特性、登熟温度など
水分	低いと食味低下	乾燥調製など
脂肪酸	低いと食味よい	貯蔵中の温度、湿度など

## 良食味生産のポイント！

基本技術を励行し、健康なイネを栽培し、稔りをよくすることが重要である。適期作業、適正施肥、適正な防除の実施が良質米生産へとつながる。

### 玄米タンパク質 低下対策

〈目標〉 コシヒカリ6.5%以下 ゆめみづほ7.0%以下

#### ○生育・地力に応じた穂肥の施用

地力が低く、登熟後半に凋落しやすい地帯では緩効性肥料（穂肥一発肥料、有機入り等）を活用する。

#### 土づくり

有機物、土壌改良剤を施し、保肥力の高い土壌をつくる。秋は5cm、春は作土深15cmを目標に耕深を確保する。

#### 水管理

適期に中干し、溝切りを実施する。  
出穂後は飽水管理で根の活力を維持する。

#### 収 穫

適期収穫に努める。  
〈籾黄化率目安〉 高温年85%・平年90%

## 異物混入対策について（注意）

近年、消費者・実需者のお米の安全・安心に対する要望は年々高まっており、特に異物混入に対してはとても敏感になっています。悪気がない場合であっても、大きな問題に発展する恐れがあります。

玄米に混入する異物としては、駆除剤・異品種の米・小石・草の種・ワラくず・ゴミ等であり、農機具の使用前や品種の変更時に十分な清掃で混入防止対策をお願い致します。このような事故が発生しないよう、**納屋や作業場所のネズミ対策には、駆除剤を使用しない**ようお願い致します。

ネズミが住み着く理由は、エサとなる米粒などが残っていることが原因です。このため、**掃除を徹底的に行うことが一番の対策**になりますが、どうしても侵入を防ぐことが出来ない場合は、**粘着シート**など異物混入の危険が少ないものを利用下さいますようお願いいたします。



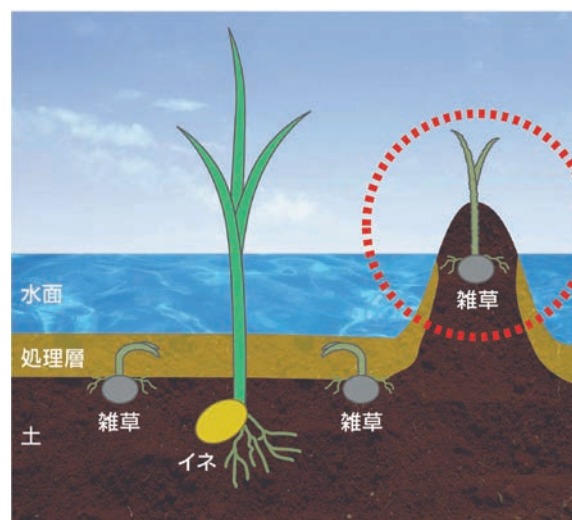
# 水稻用除草剤の上手な使い方、選び方

## 管理のポイント

- 1 ていねいな代かきは、除草効果を引き出す第一歩
- 2 あぜの管理で漏水防止
- 3 稲は適正に植え付け、薬害を避けましょう
- 4 水管理は除草剤の効果安定のキーポイント
- 5 除草体系を見直してみましょう
- 6 薬剤の散布時にはしっかり水を入れましょう
- 7 代かきから田植えまでの期間を短くしましょう
- 8 除草剤を選定する際のポイント

### ポイント 1

## ていねいな代かきは、除草効果を引き出す第一歩!



### ●代かきが ていねいでないと…

田んぼが均平にならず、田面が水から出ます。そうすると、薬剤の処理層ができずに草が生えることにつながります。

### 砕土が粗いと…

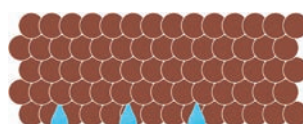
効果ムラが生じます。



- 処理層が不均一(効果ムラ)
- 間隙(かんげき)から深層に水が流れる

### 砕土が細かいと…

薬剤のもつ残効期間がフルに発揮されます。



- 処理層が均一になりやすい
- 深層浸透を抑える

ていねいな代かきは、均一で安定した処理層をつくれます。

田んぼの均平化を心がけましょう。

代かきは雑草を埋め込むだけではありません。代かきで田面が均一になると、除草剤の処理層も均一になります。また、代かきがていねいだとも水持ちが良くなるので、除草剤の残効も期待できます。

### ポイント 2

## あぜの管理で漏水防止!

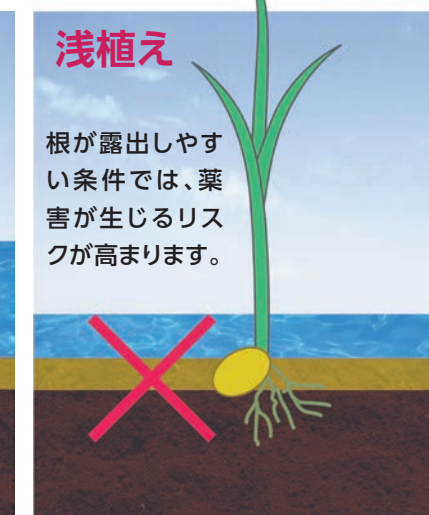
田んぼの水が田んぼの外に流れ出ると、除草剤の効果も低下します。あぜはモグラ等の穴や崩れがないようにしっかり整備し、あぜ波板や畦畔シートなどを使って漏水を防ぎましょう。



### ポイント 3

## 稲は適正に植え付け、薬害を避けましょう!

移植深度3cmを確保しましょう。



## 薬害の起こりやすい条件

- 1 砂質土壌・漏水田・植穴の戻りの悪いほ場・軟弱苗の植え付け。
- 2 除草剤処理後の高温、未熟有機質の発酵によるワキ。
- 3 極端な浅植え、浮き苗、浅水管理、入水の遅れ(田植同時)。
- 4 除草剤散布後の補植。
- 5 散布量、使用時期の間違い。
- 6 藻等の発生や浅水条件での除草剤散布。

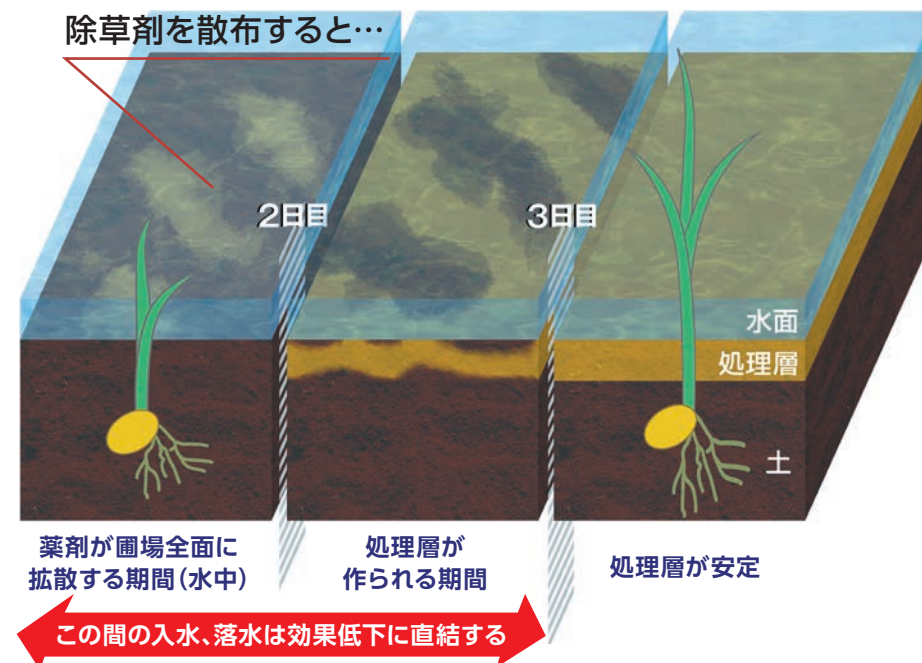


ポイント  
4

## 水管理は除草剤の効果安定のキーポイント!

田植え時期に使用する初期剤や初中期一発剤と呼ばれる除草剤は、土壌表面に**処理層**をつくり、雑草の発生を抑えます。

### ●水稻除草剤の効果の仕組み

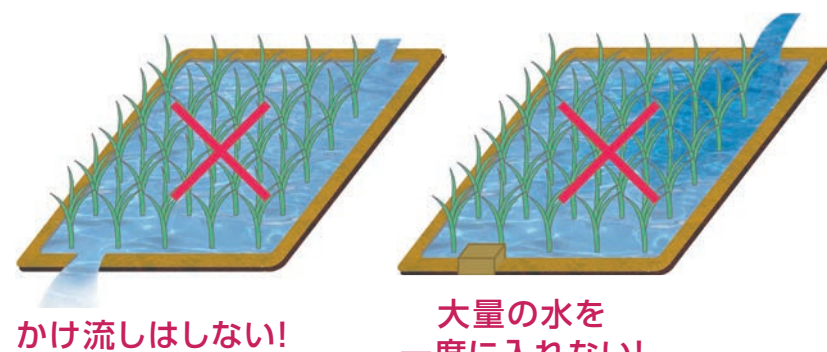


### 処理層をしっかり作るための水管理 (注意点)

- 1 除草剤がよく拡散するように、十分な湛水状態にしてください。
- 2 除草剤散布後3～4日間は通常の湛水状態を保ってください。
- 3 散布後7日間は落水・かけ流しをしないでください。
- 4 除草剤散布後は田んぼに入らないでください。散布後の補植はしないでください(除草剤散布前に済ませる)。
- 5 水持ちが悪いほ場でやむを得ず入水するような場合はなるべく静かに入水してください。

散布後、処理層が形成・安定するまで約3日間かかります。この間の急激な入水・落水は効果の低下に直結します。

3日間は湛水を保つことを心がけ、7日間の止水管理を守りましょう。

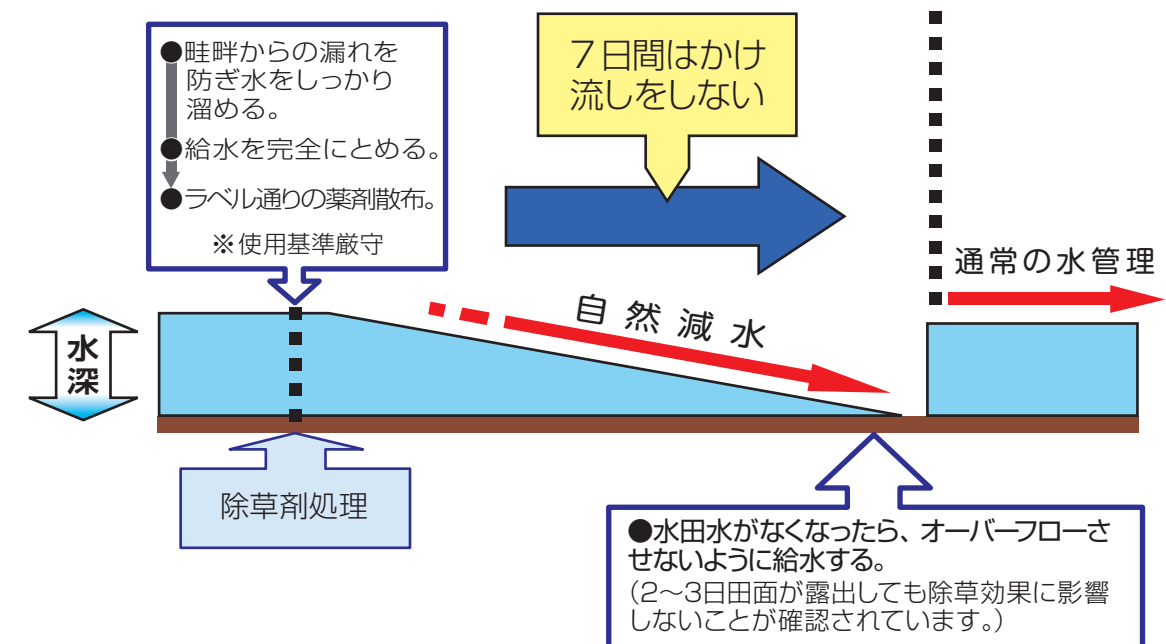


### 提案

## 除草剤散布後の止水管理(水田水がなくなるまで給水しない)

除草剤を処理した後7日間は水田水が水田外に出ないように排水口を止め、水田水がなくなるまでの期間は給水も止める方法です。

### ●止水管理の模式図



この止水管理を行うにあたって

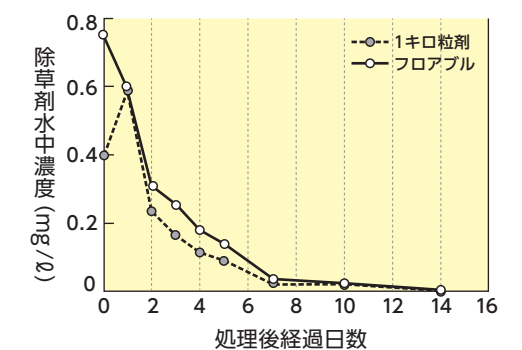
- 1 畦畔を水漏れがないように整備する。
- 2 田面の露出がないように水を溜める。
- 3 排水口を水漏れしないようにふさぎ、給水口を止める。

### 注意点

- 以下の場合は適宜給水して湛水に努めてください。ただし、オーバーフローしないように注意が必要です。
  - ① 低温対策等、栽培上湛水が必要な場合
  - ② 処理翌日に田面が露出するような漏水田
- 田面が露出後ひび割れるような場合は給水する(オーバーフローに注意)。

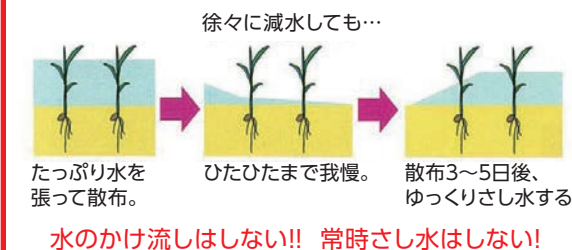
右図のとおり、散布後数日(7日後まで)は除草剤成分が水中をただよっています。その期間に水田水をオーバーフローやかけ流しすると除草剤成分を流すことになるため、除草剤の効果を十分に発揮することができません。止水板を高めに設置するなどの準備してから除草剤を散布しましょう。

■水稻用除草剤処理後の水田水中濃度測定結果の一例



(財) 日本植物調節剤研究協会研究所試験圃場における測定結果

### 水持ちが悪い田んぼでは?



### いつも水口周辺に雑草が残ってしまうのはなぜ?

水口周辺は、水の動きにより処理層がなくなりやすく、除草剤の効果がなくなってから雑草が発生しやすいです。

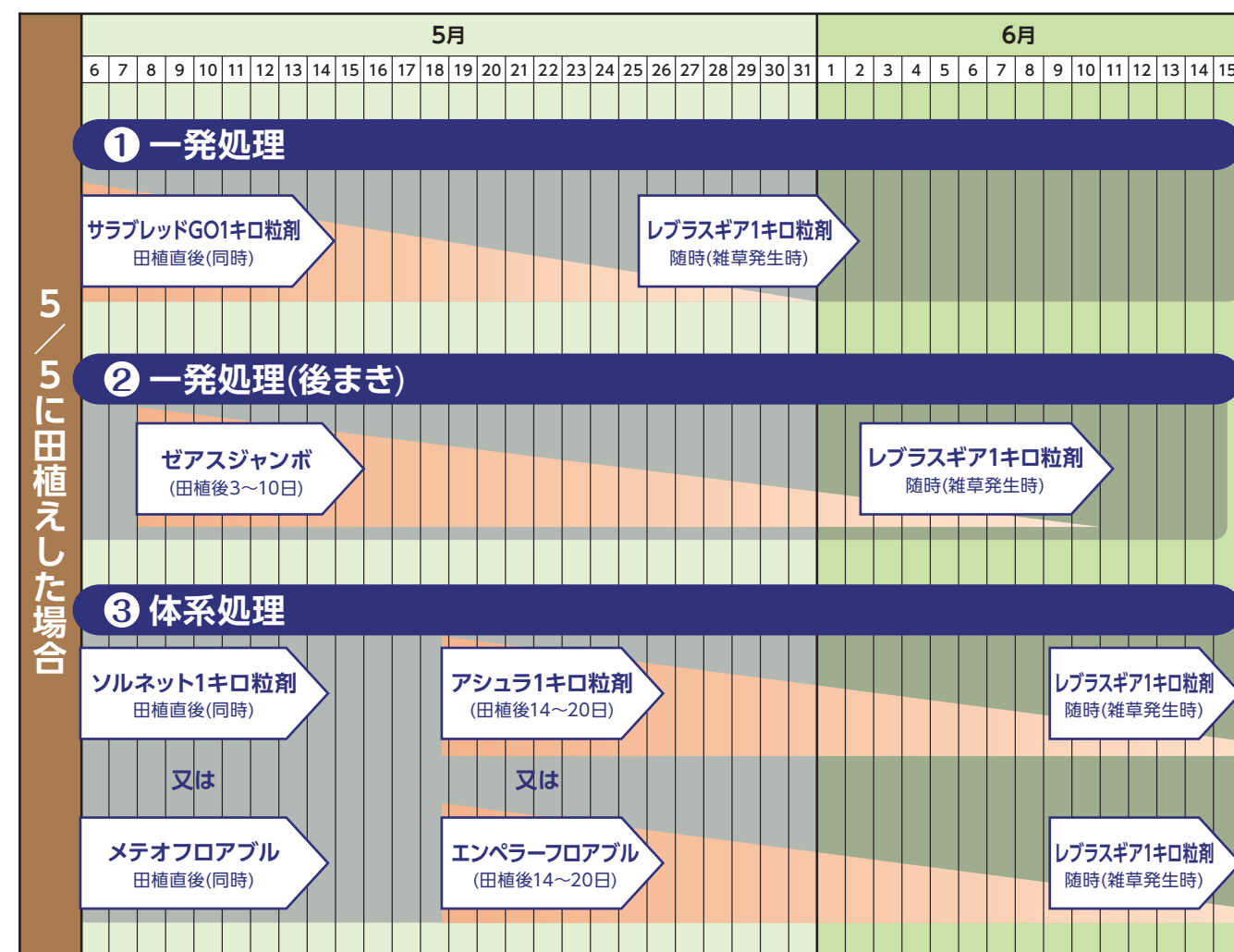






## 除草体系を見直してみましょう!

水稻除草剤は使用するタイミングによって、除草効果に差が出やすいです。特に、長期発生する雑草にお困りの方は、下記を参考に除草体系を見直してみましょう。



### ① 一発処理(田植直後・田植同時)

#### メリット

散布時期を逸することなく、初期の雑草を防除しやすい。田植同時散布が可能であれば、最も省力に散布することができる。

#### デメリット

発生期間の長い多年生雑草や後発のヒエを取りこぼす可能性が高く、中後期除草剤の散布が必要になる場合がある。結果的に薬剤コストが高くなってしまう。

次ページの除草方法がおすすめ

### ② 一発処理(後まき) 除草剤の散布時期を、田植後3~5日後にする

#### メリット

稲の活着がすすんでおり、植穴も埋まっているので薬害が発生しにくい。十分な湛水状態を確保できる。水田水の濁りが少なく、泥も落ち着いている。

除草剤の処理層がしっかり作れるため、除草効果が長く続く

#### デメリット

初中期一発剤の散布時期を逸すると、雑草が大きくなりすぎるため、十分な除草効果を得られない(取りこぼす)。散布の労力が必要。

ジャンボ剤や豆つぶ剤、フロアブル剤は、動力散布機を使用しなくても、畦畔からの散布のみで処理可能です。

### ③ 体系処理 初期剤(田植え同時可)+初中期一発剤

#### メリット

初期剤の抑草効果がプラスされるため、上記②の抑草期間よりさらに長い効果が期待できる。

#### デメリット

初中期一発剤散布の労力が必要。追加で初期剤を使用するため、薬剤コストが高くなる。

②、③の除草方法は薬剤コストと労力が増えてしまいますが、除草効果が大きくなるので以下の期待ができます。

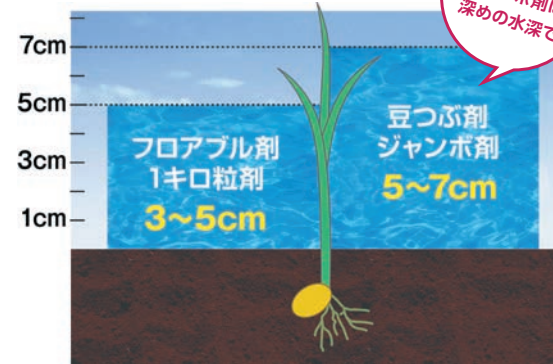
- 高価な中後期剤の散布割合を減らす(薬剤費、労賃の軽減)。
- 収穫前の雑草抜き取り作業の軽減(労賃の軽減)。
- 水田内カメムシの発生減少、稲の生育良好(収量、品質向上)。



## ポイント6 薬剤の散布時にはしっかり水を入れましょう!

### 除草剤散布前～散布時の水管理

- 1 除草剤散布時に田面が露出しないように  
たっぷり湛水しましょう。
- 2 畦畔からの水漏れをチェックしましょう。
- 3 散布前にもう一度、**水口・水尻**をチェック  
しましょう。
- 4 減水深が2cm/日以上<sup>※</sup>の漏水田では除草  
効果が落ちます。



## ポイント7 代かきから田植えまでの期間を短くしましょう!

雑草は、代かき直後から動き出します。代かきから田植えまでの期間が長いと、その間に雑草が生長しますので、除草剤の散布遅れにならないように注意してください。

田植日が同じでも代かき日が早いと雑草の生育が早まります

代かき日	田植日	ノビエ2.5葉期に達する日		
			代かき後日数	田植後日数
4/26	5/5	5/16	20日	11日
4/29		5/18	19日	13日
5/ 2		5/20	18日	15日

(注) 金沢アメダスデータ、年平均気温による推定

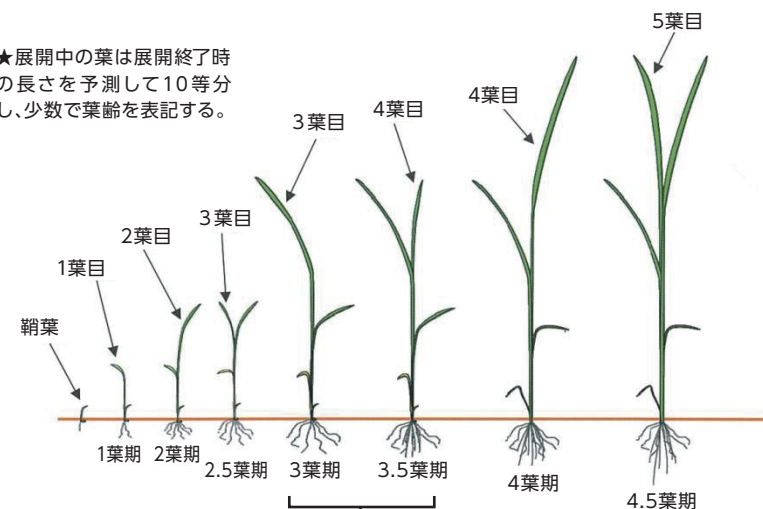
気温が高い年は、雑草の生育が早まります

区 分	代かき日	ノビエ2.5葉期に達する日	
			代かき後日数
平 年	5/2	5/20	18日
暑い年(H10)		5/17	15日
寒い年(H 8)		5/25	23日

(注) 金沢アメダスデータ、年平均気温による推定

上記にあるようにノビエの生長は早いので注意が必要です。また、3葉以上になると1葉が枯れ始めるため葉齢を間違わないように注意してください。

★展開中の葉は展開終了時の長さを予測して10等分し、少数で葉齢を表記する。



この頃には1葉は枯れ、消失していく

## ポイント8 除草剤を選定する際のポイント

無くしたい雑草にターゲットを絞り、目的を達成したら剤を変更しましょう。  
(初中期一発剤はヒエの残効の高いものを選定しています)



### ヒエ

初中期一発剤 / エンペラー、サラブレッド GO、アシュラ  
中 後 期 剤 / ヒエクリーン、レブラスギア、ワイドパワー

#### 取りこぼし対策

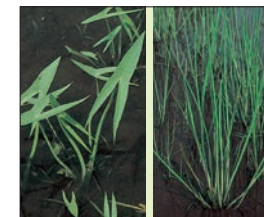
前年のヒエ発生が多い場合は、翌年の発生量も多くなります。少しでもヒエの取りこぼし(後発生)が見えたら中後期除草剤を散布しましょう。また、**ヒエクリーン**は残効性があるため、ヒエの発生前の散布でも効果があります。ヒエが見えなくも、中干し後に散布すると、抑草効果が期待できます。4葉以上のヒエが見えたら**クリンチャー1キロ粒剤**(1.5kg/10a)を、5葉以上の場合は**クリンチャーEW**の散布をお奨めします。



### ホタルイ

初中期一発剤 / ベッカク、エンペラー、サラブレッド GO、アシュラ  
中 後 期 剤 / レブラスギア、バサグラン、アトカラSジャンボ MX

※ホタルイは種の寿命が長いので、単年の結果で判断しない



### オモダカ・クログワイ

初中期一発剤 / ベッカク、エンペラー、サラブレッド GO、アシュラ  
中 後 期 剤 / アトリ、レブラスギア、バサグラン

※刈跡の除草を行うと効果的に減らすことができる



### コナギ

初中期一発剤 / ベッカク、エンペラー、サラブレッド GO、アシュラ  
中 後 期 剤 / レブラスギア、バサグラン、ワイドパワー

※ハート型の葉が出る前に対策する



### クサネム

初中期一発剤 / サラブレッド GO、ベッカク、アシュラ  
中 後 期 剤 / レブラスギア、ノミニー、アトカラSジャンボ MX

※畦畔近くからの発生が多いため、畦畔防除との合わせ技が効果的



### イボクサ

初中期一発剤 / ベッカク、エンペラー、アシュラ  
中 後 期 剤 / レブラスギア、ノミニー、アトカラSジャンボ MX

※畦畔近くからの発生が多いため、畦畔防除との合わせ技が効果的



# 知っていますか？「RACコード」

## 1 RACコードとは？

RACコードとは、世界的な農薬製造会社の国際団体が定めた農薬の分類コードの事で、同じ作用性の農薬グループを一つにまとめて、それぞれの農薬にコード番号を付しています。

殺虫剤は「IRAC」、殺菌剤は「FRAC」、除草剤は「HRAC」といいます。

RACコードは、製品ラベルやチラシなどに表示されています（※）。農薬工業会のHP等でも確認することができます。また、P36～37「本田除草剤の登録内容」にもHRACコードが記載されています。

※すべての製品ラベルやチラシにRACコードが記載されているわけではありません。



## 2 RACコードを活用したローテーション防除

農薬を繰り返し使い続けていると、正しく使っているはずなのに薬剤が効かなくなったと感じることはありませんか？その原因は薬剤抵抗性・耐性が原因かもしれません。

同一銘柄や同じ効き方（作用性）の農薬を使い続けることにより、効果の高い農薬を散布しても生き残る害虫が現れ、被害を防げなくなることがあります。これを薬剤抵抗性がついたと言います。殺虫剤だけでなく、殺菌剤でも同じ作用性の薬剤を何度も使用すると、耐性菌の発達を促し農薬の効果が低下します。

対策として「ローテーション防除」をお奨めしますが、単に別銘柄の農薬に変更する・別成分が含まれている農薬に変更するだけでは、同じ作用性の農薬を選んでしまい、連用散布となってしまう場合があります。

そうならないためにも、RACコードにより農薬の作用性を確認し、異なる作用性の農薬を選び、正しいローテーション防除を行いましょう！



HRACコード：1

HRACコード：1

HRACコード：1

HRACコード：2

ヒエ対策  
特集

## おすすめ除草体系

【初期剤（田植同時可）+ 初中期一発剤 + 中後期剤】

メリット

初期剤の抑草効果がプラスされるため、一発処理より長期間抑草効果が得られる

- 5月の水温・気温が低い場合は、後発ヒエに注意！！  
一発剤での処理ができない可能性も高いため、ヒエクリーン等の中後期剤を活用！！



## 収穫までに除草できなかった場合

—— 秋作業で雑草を減らそう ——

### ○石灰類の効果

- ① 石灰窒素はノビエの休眠を覚醒させる効果があります。
- ② 稲刈後、できるだけ早く石灰窒素を全面散布することで、地表に落ちているノビエ種子の休眠が覚醒され発芽し、冬の寒さで枯死します。
- ③ 発芽には18℃以上の高温が15日ぐらいと発芽できる土壌水分が必要です。秋に発芽しなかった場合は、春先、田植え前に一斉に発芽しますのでこの時にすき込みます。

・使用方法：10aあたり40kg施用

- ・注 意 点：① 散布してから1か月後に田起こしを行ってください。  
② 窒素成分が含まれるので、翌春の基肥量を2割程度減らしてください。



### ○「プリグロックスL」の散布

- 刈取後に発生するヒエの除草と、薬液を直接種子に付着させることで発芽を抑えます。毎年散布することで雑草の発生量を低減できます。

・使用方法：10aあたり100倍希釈を150リットル散布してください。

- ・注 意 点：秋起こしする前に散布する必要があります。





# 藻の発生が目立つようになっていませんか!?!>

田植後に晴天が続き、水温が20℃前後になると、基肥と稲わらや堆肥などの有機物が微生物により分解され、水田の水は窒素やリン酸が豊富となり藻類・表層はく離が発生します。

**アミミドロ**

みかん袋のような五～六角形の網状1～30cmの大型藻類

**アオミドロ**

触るとぬるぬる滑る根元から先まで均一の太さ

**表層はく離**

土壌粒子と藻類が絡まって膜ができる

**被害例**

稲のなぎ倒し

ジャンボ剤の拡散不良

**多発すると。。。**

- ・水温の低下を伴い、稲の生育を遅延
- ・風により稲苗のなぎ倒しなどの被害が発生
- ・ジャンボ剤などの高拡散剤の拡散を妨害

⇒ **発生前の防除を!**

## 藻類の対策方法

### 発生前

#### 1.初期除草剤「先陣」の使用

ジメタメトリン、ピラクロニルの2成分が藻類の発生を抑えます。藻類発生前の使用をおすすめします。

#### 2.水の入替え

藻類が発生し始めると、水面に薄い膜のようなものができてきます。この段階で水を入れ替えることで、藻類の発生をリセットします。



### 発生後

#### 1.専用除草剤「モゲトン」の使用

藻類の光合成を阻害し、枯らします。快晴の日の朝の散布が最も効果的です。

#### 2.田面を干す

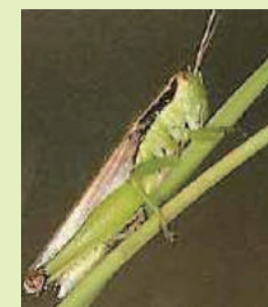
落水して2～3日軽く田面を干すことで藻類を枯らします。ガス湧きが多いほ場では、ガス抜き効果も得られます。



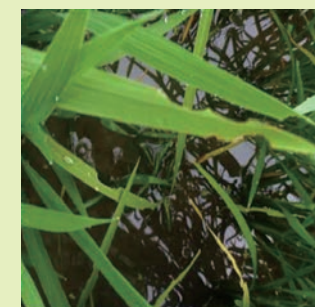
<近年、水田周辺でイナゴの発生が目立つようになっていませんか!?!>

## イナゴ対策

- ◆イナゴは幼虫・成虫ともに葉を食害し、幼虫時は下位葉を主に食害、大きくなるにつれて上位の葉に移行し食害量も多くなります。
- ◆出穂後に、止葉や次葉の食害が多くなると登熟歩合や千粒重が低下して減収します。また、腹白粒など未熟粒と死米が増加し整粒歩合が低下します。



コバネイナゴ



食害された稲の葉

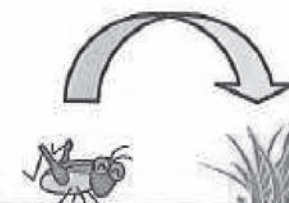
## イナゴの一生

4月～6月



畦畔等で越冬した卵が、春になってふ化します。ふ化の期間が長いので、だらだらと発生します。

6月～7月



幼虫が水田内に侵入し稲を食害し始めます。発生が多く、止葉を食害されると収量にも影響します。

7月～9月



成長したイナゴは、食欲が旺盛で、発生量が多いと被害が大きくなります。産卵は9月上旬頃から始まり、雑草の多い農道や畦畔地際部に産まれます。

### 対策① 育苗箱施薬

**Dr.オリゼリディア粒剤**を育苗箱処理するとほ場へのイナゴ侵入初期に効果を発揮します。

※紋枯病も発生する場合はヨーバルプライムEV箱粒剤を使用。

**ミコで叩くのが効果的!**

**ほ場内のイナゴの増加を抑え、被害を防ぎます**



### 対策② 本田防除

水稻生育時期にイナゴが発生した場合  
トレボン粉剤DLを10aあたり3～4kg散布します。発生初期(6月中旬～7月上旬)の散布が効果的です。



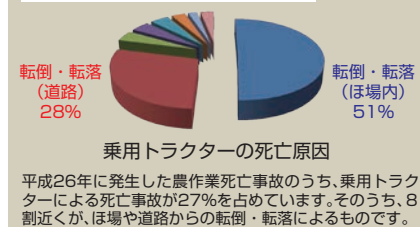
# 農作業安全対策について

## 主な農作業事故の発生状況と対策

### ①トラクターが転倒・転落し、投げ出されて機体の下敷きになった。



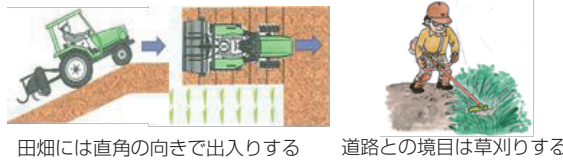
乗用トラクターによる事故の実態



安全キャブ・フレームのあるトラクターを使用し、シートベルト着用を徹底する



作業環境を確認し、危険性に配慮する



田畑には直角の向きで出入りする

道路との境目は草刈りする

作業が終わったら、昇降路を上がる前にブレーキの連結ロックをする



### ②草刈りしていたところ、足を滑らせて草刈り機で足を切った。



安定な姿勢を保って作業できるように、作業前に点検し、準備をしておく



足場の確保

つまずきそうなところに目印をつける

ヘルメット、フェイスガード、安全靴、機械の安全カバーなどの防護を徹底する



### 刈払機事故の4つの特徴

#### 1 斜面・法面での不安定な姿勢による事故 (29.5%)

- 傾斜地・法面は滑りやすい
- ⇒小段の設置、スパイク靴の着用

#### 3 詰まりなどの除去時の事故 (18.2%)

- 回転を止めず、草の詰まりなどを除こうとして
- ⇒確実にエンジンを切ってから

#### 2 回転刃による事故 (接触、飛散物) (29.5%)

- キックバックや小石、チップの飛散
- ⇒防護の徹底、飛散物カバーを外さない

#### 4 周辺環境に起因する事故 (15.9%)

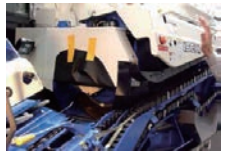
- 草むらの中に潜む杭や空き缶など
- ⇒慣れた場所でも事前確認

3～5月は春の農作業安全確認運動、9～10月は秋の農作業安全確認運動です。下の事例を参考に農作業安全の対策を行って下さい。

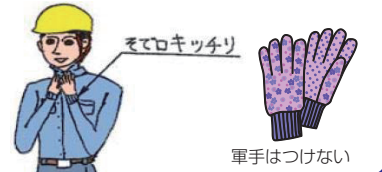
### ③コンバインで手こぎ作業を行っていたところ、手が巻き込まれた。



緊急停止装置のついた機械を使用し、停止ボタンの位置などを確認しておく



適切な服装で作業し、機体の中に手を入れないようにする



軍手はつけない

ほ場の出入り口の整備を行う。また、進入退出路をバックで走行させるときは、補助者による誘導や確認を行う。



### コンバイン事故の4つの特徴

#### 1 移動・走行中の事故 (34.7%)

- 後退時に確認不足
- ⇒補助者による誘導、合図の確認

#### 2 作業中の詰まり除去時の事故 (20.4%)

- 機械を止めずに詰まり除去
- ⇒エンジン停止の徹底

#### 3 点検・整備中の事故 (16.8%)

- 回転部への注油、詰まり除去で
- ⇒作業手順の順守

#### 4 手こぎ作業の際の事故 (14.3%)

- 衣服がチェーンに引っかかり
- ⇒作業に適した服装の徹底

### その他にも、農作業中には次のような事故が発生しています。

#### 熱中症



夏に屋外で農作業をしていて、熱中症になった。

暑いときの作業  
・作業時は定期的に日陰で休む。  
・のどが渴いていなくても、定期的に水分補給をする。

#### 大風・豪雨のとき



増水時に田の見回りに行って、水路に転落した。

※事故割合は日本農村医学会資料より引用

※画像は環境省、(国研)農研機構、農水省HPより引用



農家の皆さんへ

# 農薬散布後の止水期間は

# 7日間!

水田用除草剤や本田粒剤の  
散布後7日間は落水やかけ流しをしない!

7日間は  
かけ流しを  
しない!

7日間は  
落水  
しない!

畦からの  
漏水にも  
注意する!

効果の安定・環境への影響軽減のために、  
移植前の散布でも、必ず7日間止水しましょう。

JAグループ 全農

農薬工業会

## 水稻初期除草剤の使用時期に注意してください

水稻除草剤の移植前・播種前の使用時期が変更となりました。

移植前・播種前の使用は「**7日前まで**」です

適用内容変更後

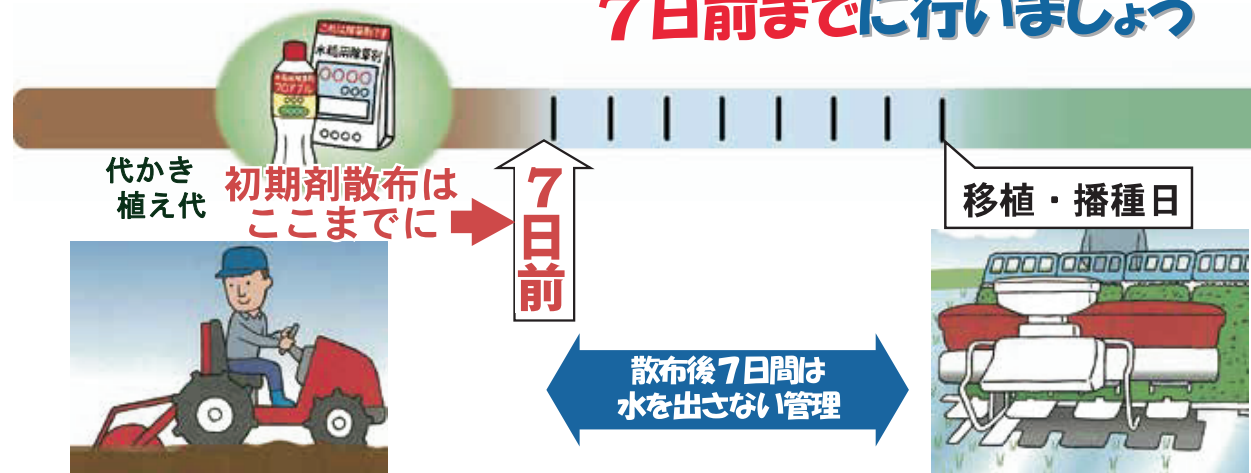
移植栽培の使用時期は

植代後～移植**7日前**まで  
植代時（移植**7日前**まで）

直播栽培の使用時期は

直播の代かき後～は種**7日前**まで  
直播の代かき時（は種**7日前**まで）

移植前や播種前に農薬を使用する場合は、  
**7日前までに行いましょう**



水稻除草剤の移植前、播種前の使用時期が登録変更されました（平成24年8月）

水稻初期除草剤の使用時期は、これまで「植代後(時)～移植4日前まで」「代かき後(時)～播種4日前まで」の適用がありましたが、これからは、移植や播種の前に使用する場合は、移植又は播種の「**7日前まで**」の使用となります。移植または播種の前日～6日前の間は、農薬は使用できません。誤って使用した場合は農薬取締法の違反であり、罰則の対象となりますので必ず守ってください。

農薬の使用時期を守り、農薬散布後の止水管理を徹底します

水田での除草剤や粒剤を散布した後は、農薬が土壌などに  
落ち着くまでの7日間は、田面水を圃場外に出さない水管理を  
徹底してください。

7日間の止水管理は、農薬の効果を十分発揮させるとともに、  
周辺環境の保全に繋がります。





## 「野焼き」は原則として法律で禁止されています (廃棄物の処理及び清掃に関する法律)

農作物の残さは、なるべく焼却せずに、堆肥にするなど、土づくりに有効活用しましょう。

ただし、農林業を営むために、やむを得ないものとして行われる焼却については、法律の例外として認められています。

節度を守り、必要最小限の範囲で行ってください。

ごみ減量推進課まで  
ご確認ください。

やむを得ない場合、焼却が認められているもの

(例)「稲わら」「籾殻」「剪定枝」「いもの蔓」などの農作物の残さ

※ ほ場内で発生し、燃やすゴミとして搬出することが困難なもの。

いかなる場合でも、焼却してはいけないもの

(例)「ビニール」や「支柱」などの農業用資材

## やむを得ず焼却する場合は、次のことを必ず 守ってください。

- 近くの住民に迷惑がかからないよう、時間帯や風向きなどに配慮してください。
- 焼却している間は、火の側から離れないでください。
- 焼却できるものは、あくまでも法律の例外として認められたものに限りです。  
ビニールや生活ゴミ等は、絶対に焼却しないでください。
- 法律の例外として認められているものであっても、万が一、近隣の住民等から苦情が発生した場合は、すみやかに焼却を止めてください。

火災との誤解を避けるため、焼却する前には必ず、最寄りの消防署(出張所)とごみ減量推進課へ、電話連絡(火災とまぎらわしい煙または火災を発するおそれのある行為の届出)をしてください。

(例):「今から、○○(場所)で、△時間、□□を焼却します。」

なお、近隣の住民等から消防署へ通報があった場合には、消防車が出動する場合があります。

# 道路の泥汚れ防止に ご協力ください

道路に落ちた大きな泥や土のかたまりは、歩行者や車両の通行に支障をきたし、地域住民の迷惑になるうえ、交通事故の原因にもなるため大変危険です。



農作業後に公道に出る際は泥を落としていただくよう、  
ご協力をお願いします。



# 水稲除草剤の切替え推奨品

## 一発除草剤

### 1 バッチリ サラブレッドGO

一発剤



一発剤



#### 【メリット】

- 3成分 ⇒ 4成分で除草力アップ
- 長期ヒエ残効が特徴のオキサジクロメホン配合

### 2 ベンケイ ベッカク

一発剤



一発剤



#### 【メリット】

- 安全性の高い白化剤フェンキノトリオン配合

### 3 アッパレZ アットウZ

一発剤



一発剤



#### 【メリット】

- ヒエ葉齢が3 ⇒ 4にアップ
- 白化剤が入ること、イボクサ・クサネム等の特殊雑草にも高い効果

### 4 ガンガン ゼアス

一発剤



一発剤



#### 【メリット】

- 長期ヒエ残効が特徴のオキサジクロメホン配合
  - ホタルイに卓効を示す新成分ベルダー配合
- ※ガンガンジャンボは販売終了となりました

## 後期除草剤

### レブラス レブラスギア

中後期剤



中後期剤



#### 【メリット】

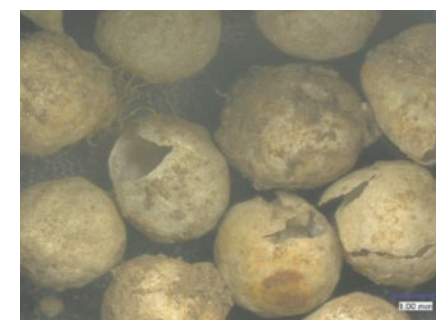
- レブラスのパワーアップ版
- 枯らす力がアップし、より大きな雑草を枯らすことができる

# 「Jコート入り一発肥料」「NEOシリーズ」好評販売中!!

1

## 新規原料「Jコート」を使用!

被膜の崩壊性を高め、ほ場外への流出を今までよりも抑えられる環境に配慮した被覆肥料です。



2

従来の一発肥料に比べ10a当たりのコストが低減!  
含有成分を見直すことで、コスト減を実現しました!

【早生用】

## BB 早生一発くんNEO

(ネオ)

N-P-K

28-7-9

基準施肥量 40~50kg



【コシヒカリ用】

## BB コシー一発くんNEO β

(ネオ ベータ)

N-P-K

25-8-10

基準施肥量 35~40kg





# コシヒカリー発肥料の選定にあたって

## 環境に配慮した新肥料



### BB コシー発くんNEO $\beta$

N-P-K  
25-8-10

従来と比べて殻の崩壊性が高い被覆肥料を配合しているため、殻のほ場外への流出の軽減に役立つ、穂肥重点型の肥料です。

**施肥量** 側条施肥：35～40kg／10a  
全層施肥：45kg／10a

## 追加穂肥の省力化に



### BB コシー発くんDX24

N-P-K  
24-14-10

地力低下や近年の異常高温により、生育後半の窒素が不足し、登熟が不十分なほ場、追加穂肥でもう少し収量を取りたいほ場にお勧め。

**施肥量** 側条施肥：35～40kg／10a  
全層施肥：45kg／10a

## バランスの良い定番肥料



### BB 新コシー発くん特号

N-P-K  
20-17-10

有機入りコシー発くんと比べ、チッソ含量は同じですが、基肥を減らし、穂肥を増やした肥料です。

**施肥量** 側条施肥：35～40kg／10a  
全層施肥：45kg／10a

## 高温障害対策特集

今年は夏に高温が続いた影響で、乳白米の多発などにより県下全体で米の品質が低下しました。

**乳白米(粒)が多く混入した米は等級が低下**して米の買取価格が安くなり、生産農家の所得に深刻なダメージを与えます。

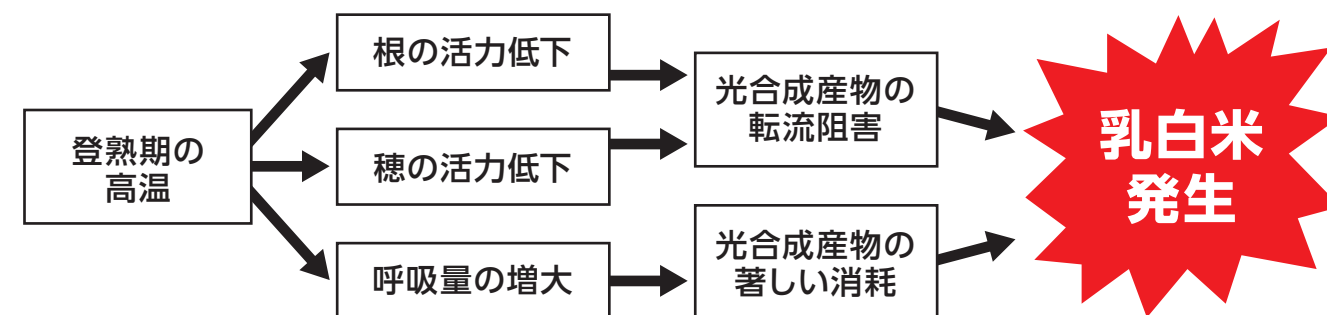
地球温暖化の影響により今後も高温年となる可能性がありますので、しっかり対策を行いましょう。



## 乳白米発生の原因と対策

出穂から出穂後15日の夜温が高い場合に乳白米が発生しやすいことがわかっています。

＜高温条件と乳白米発生との関係＞



このような条件を回避、または乳白米発生を軽減するための対策は以下の通りです。

### ○作付での対策

高夜温になりやすい時期に出穂後の時期が重ならないよう、田植え時期をずらすことが効果的です。

### ○耕種的対策

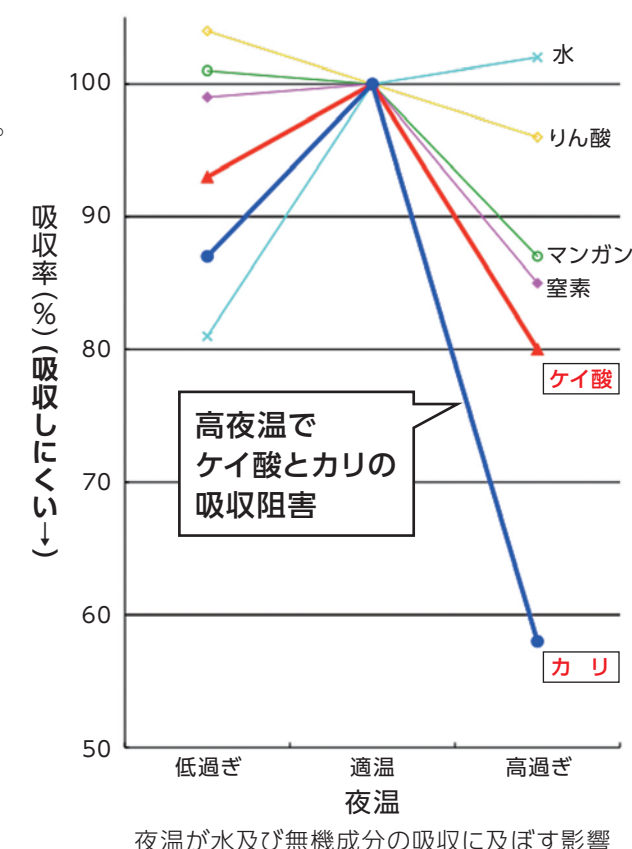
単位面積あたりのもみ数が多いと乳白米が発生しやすくなります。  
過剰なもみ数抑制のための栽培が必要です。

**対策** ①植付け本数の抑制  
②最高分けつ期までの窒素の適量・適期施肥(過繁茂にしない)

### ○栄養的対策

高夜温条件では水稻の養分吸収が悪くなります。また、根痛みやもみの過乾燥を防ぐ丈夫な稲体づくりが大切です。

**対策** ①カリ、ケイ酸などを十分に施用する(丈夫な稲体づくり)  
②追加穂肥の施用





## 高温障害に強い稲づくりに効果的な「けい酸加里プレミア」

### ○「けい酸加里プレミア」でケイ酸とカリを補給

水稻は夜温が高い場合、カリ、次いでケイ酸の吸収が悪くなります。ケイ酸とカリの十分な施用が丈夫な稲体づくりに不可欠です。

「けい酸加里プレミア」は効果の高いケイ酸とカリを同時に施肥でき効果的です。



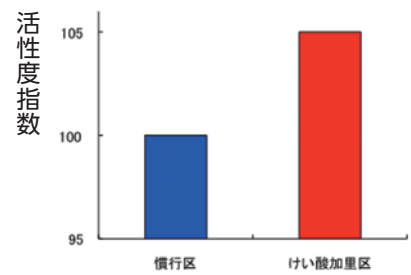
「けい酸加里プレミア」の肥料成分

保証成分(%)				含有成分(%)	
く溶性加里	可溶性けい酸	く溶性苦土	く溶性ほう素	石灰	鉄
20	34	4	0.1	7～12	2～5

### ○けい酸加里の乳白米軽減効果

けい酸加里は根の発育を促進し活力を維持するため、高温条件に耐える健全な稲体をつくれます。

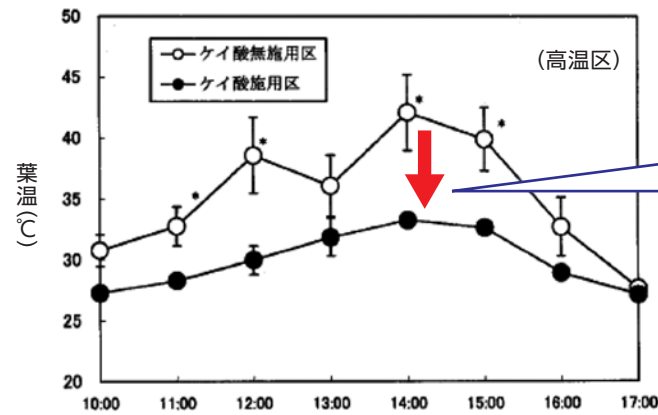
#### ①けい酸加里施用で高温に負けない根をつくる



水稻根の活性度(出穂期)  
(福島農試、α-ナフチルアミン酸化力を測定)

けい酸加里施用によって根量が増え、根の活性も高まります。

#### ②ケイ酸施用でイネの葉の温度が下がる(クーラー効果)

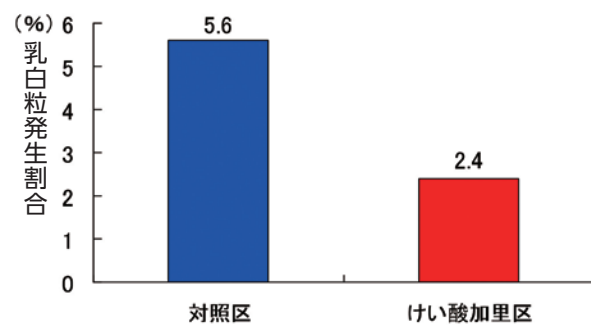


平均で  
5.7℃低下

図 ケイ酸施用が水稻の止葉葉温の日変化に及ぼす影響(2006年9月2日)  
(金田ら:秋田県立大 2010)

ケイ酸施用によって根の活性が高まり、蒸散が多くなるため、イネの葉の温度が高くなるのを防ぎます。

#### ○けい酸加里施用により乳白米の発生が軽減されました。



高温登熟条件下の玄米外観品質におよぼすケイ酸質肥料の効果  
(金田:秋田県立大 2012 グリーンレポートNo.511 一部改編)

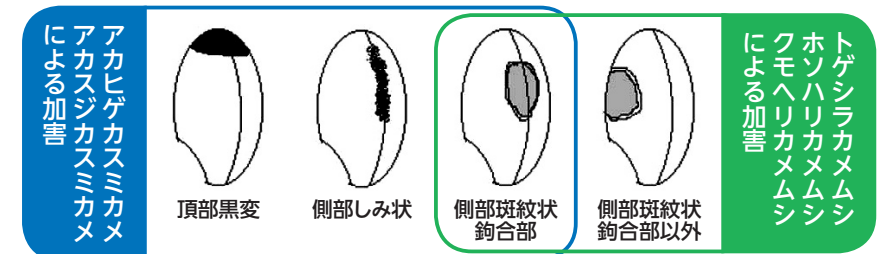
○「けい酸加里プレミア」の施用で高温障害に強い稲をつくりましょう。

## 玄米の品質を落とす種類と発生要因とその対策

種 類		発 生 要 因		軽減対策
		気象面	生育・管理面	
未熟粒	乳心白粒	胚乳部中心が白色不透明なもの ・出穂後～20日間の高温(27℃以上)急激な籾穀成熟でデンプンの供給がおいわず、部分的にデンプンが不足して発生する ・主に日照不足で発生助長 ・登熟中期のフェーン ・高夜温	・籾数過多・倒伏 ・弱勢顕花での発生が多い→養分競合 ・幼穂形成期の稲体窒素濃度が低い(葉色低下)と増加 ・胚乳細胞の過大と養分蓄積不足 ・出穂後～20日間の葉色が淡くなる	・土づくりの実施 ・作土深の確保 ・ケイ酸質資材の施用 ・籾数の適正化(3万粒/㎡以内) ・倒伏防止 ・登熟後半までの水分確保・葉色維持 ・出穂期が高温の時期に当たらないよう田植を遅くして高温を回避 ・夜間通水により昼夜温の差を作る
	腹白粒	米粒の腹部分が白色不透明なもの ・登熟中期の高温 ・低温ではほとんど発生しない	・登熟期間の稲体の活力低下(出穂前後～成熟期までの水不足、生育後半の栄養不足) ・登熟期間の葉色が淡いと多発 ・登熟後期のデンプン蓄積不良→ソース(茎葉)能力やシンク(玄米)能力の凋落	・土づくりの実施 ・作土深の確保 ・ケイ酸質資材の施用 ・登熟後半までの栄養状態の維持 ・出穂期の適正な葉色の確保 ・登熟後半までの水分補給(早期落水は避ける) ・出穂期が高温の時期に当たらないよう田植を遅くして高温を回避 ・夜間通水により昼夜温の差を作る
	背白粒	米粒の背部が白色不透明なもの ・登熟中後期の高温27℃以上で多発 ・低温ではほとんど発生しない		
	基部未熟粒	米粒の基部が白色不透明なもの ・登熟後期の高温27℃以上で多発 ・背白粒よりさらに後半のデンプン蓄積不良 ・低温でも発生する		
	その他未熟粒	充実の十分な粒。扁平で厚みが薄い、縦溝が深いもの等 ・フェーン等による枝梗の枯れ上がり ・登熟期間の気温日較差が少ない過高温による登熟阻害	・中干しの不徹底 ・過剰な基肥等により、生育量が過剰 ・穂肥量の過不足 ・選別の不徹底 ・遅発分げつ過剰による生育のバラつき ・出穂のバラつきによる登熟がバラつき	・土づくりの実施 ・作土深の確保 ・ケイ酸質資材の施用 ・中干し実施により籾数の適正化(3万粒/㎡以内) ・倒伏防止 ・粗植を避ける
被害粒	胴割粒	米粒に亀裂が入っている等 ・出穂後10日間の高温(特に最高気温) ・登熟期間中の高温乾燥(フェーン等) ・出穂後30日～成熟期の多照 ・圃場で軽微に発生(立毛胴割)もある	・高温登熟時の水不足 ・早期の落水 ・刈遅れ	・登熟後半までの栄養状態の維持 ・登熟後半までの水分補給(早期落水は避ける) ・高温時の刈遅れを防止 ・出穂期が高温の時期に当たらないよう田植を遅くして高温を回避 ・フェーンが予測される場合はあらかじめ入水
	着色粒	カメムシ類による斑点米等 ・生育期間の気温が温暖に推移 ・登熟期間の高温 ・幼穂形成期の低温少日照(ふわれ発生)	・畦畔雑草でのカメムシ類の増殖 ・適期防除の不徹底 ・畦畔、農道等の雑草処理の不備	・草刈りの徹底 ・出穂後適切なカメムシ防除 ・出穂期が高温の時期に当たらないよう田植を遅くして高温を回避

※表中に27℃とあるのは、平均気温である。

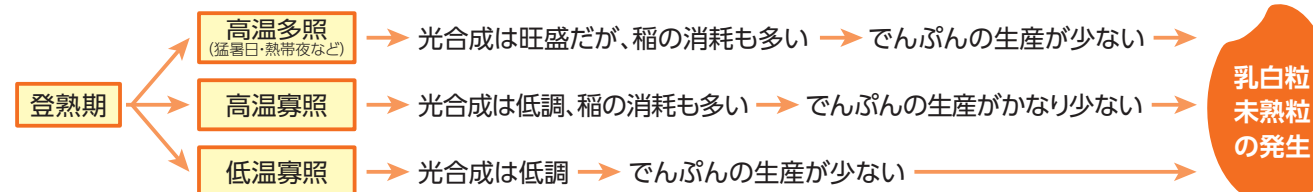
※籾中のデンプンの詰まる順序①中心部(登熟初期)→②腹側(登熟中期)→③背側(登熟後期)→④基部(登熟後期)





# 気象変動に左右されない米づくりをめざして!!

〈現 状〉ここ近年、7～8月の気象が平年と大幅にちがっている。





〈対 策〉

- (1) 適切な水管理で健全な根づくりの実践→6月の中干し+収穫直前までの間断通水
- (2) 過剰な窒素施用を回避→穂肥時は葉色・草丈・茎数・幼穂長を確認
- (3) 秋季の土づくりの励行→ケイ酸+稲わらのすき込み(浅耕)
- (4) 春季の深耕による根域の確保→目標15cm



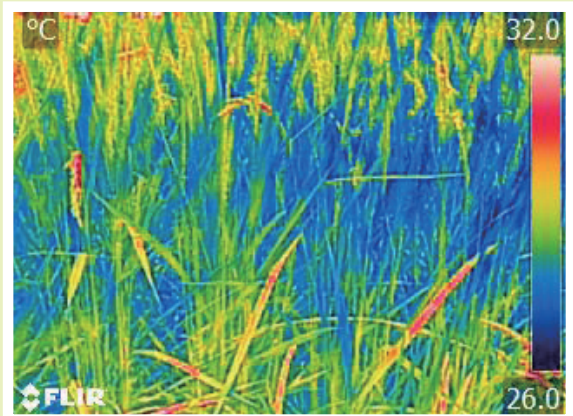
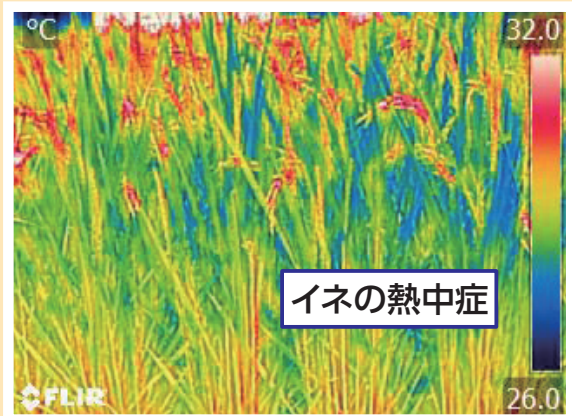
「土づくり」と「春季の深耕」が不足しています

(1) 深耕の効果確認：春季の荒耕で深く耕すとどうなるのか？

実 証 区	慣 行 区
春季に15cm以上荒耕	通常の荒耕(12～13cm)
	
●根量全体のボリューム・細根の量についても実証区が勝っている。深耕により根域拡大が図られた。	

米づくりの基本である「土づくり」には、**ケイ酸施用**と**春季の深耕**が重要です。単年度で結果は見えにくいですが、継続して取り組みれば気象変動に左右されない米づくりが実現できます。

(2) ケイ酸効果の確認：ケイ酸をしっかり効かせたらどうなるのか？

実 証 区	慣 行 区
ケイ酸を施用した場合 (BB けい酸アップ・コシー発くん)	ケイ酸を施用していない場合
	
●ケイ酸の効果で稲体が硬くなり、葉がぴんと立ち、受光態勢が良くなった。	
	
●サーモグラフィーで撮影すると、実証区の方の温度が1～2度低かった。実証区の稲は、高温のストレスも少なく、体力の消耗も少ないことから、登熟向上が期待できる。	

※葉温の違いを赤外線写真(サーモグラフィー)で撮影

けい酸加里入りの一発肥料を使ってみませんか

ケイ酸が米づくりを助けます

BB けい酸パワー・コシー発くん



N-P-K  
10-15-12  
苦土2  
ケイ酸12

施肥量 70～80kg/10a

BB けい酸アップ・コシー発くん



N-P-K  
15-15-10  
苦土1  
ケイ酸12

施肥量 45～55kg/10a



# 水稲肥料銘柄一覧

区分	肥料名	規格	成 分 (%)					備 考
			N	P	K	有機	その他	
育苗期	稲10号	20kg	10	10	10			苗床・床土用肥料
	液肥10号	5kg 20kg	10	5	8			育苗期追肥
基 肥	BB 有機入820号（みさと）	20kg	8	12	10	52	Mg1	JA金沢中央、有機含量の高い基本の基肥
	BB いしかわ有機入056号	20kg	10	25	16	18		コシヒカリ・早生どちらでも
	BB コシー発くんDX24	15kg	24	14	10		(N.基肥分8% 穂肥分16%)	追加穂肥不要のコシヒカリ一発肥料
	BB コシー発くんNEO β (ネオ ベータ)	15kg	25	8	10		(N.基肥分10.5% 穂肥分14.5%)	被覆尿素(Jコート)使用の一発肥料（穂肥不要）
	BB 新コシー発くん特号	15kg	20	17	10		(N.基肥分6.5% 穂肥分13.5%)	温暖化対策の一発肥料（穂肥不要）
	BB 有機入りコシー発くん	15kg	20	12	11	20	(N.基肥分9% 穂肥分11%)	金沢用に設計されたコシヒカリ一発肥料（穂肥不要）
	BB けい酸パワー・コシー発くん	15kg	10	15	12		Mg2 Si12	新コシー発くん特号にけい酸加里を加えたもので、中間追肥の省力が図れます。
	BB けい酸アップ・コシー発くん	15kg	15	15	10		Mg1 Si12	新コシー発くんにけい酸加里を加えたもので、中間追肥の省力が図れます。
	BB 早生一発くんDX28	15kg	28	13	9		(N.基肥分9.5% 穂肥分18.5%)	追加穂肥不要の早生一発肥料
	BB 早生一発くんNEO (ネオ)	15kg	28	7	9		(N.基肥分10.2% 穂肥分17.8%)	ゆめみづほ用に設計された、被覆尿素(Jコート)使用の一発肥料(穂肥不要)
	BB スリム早生一発くん	15kg	24	10	10		(N.基肥分10% 穂肥分14%)	ゆめみづほ用に設計された、一発肥料（穂肥不要）
中間追肥	BB PKけいさん	20kg		13	11		Mg4 Si17 B0.05	登熟促進、根張り促進、倒伏防止に、必ず施用しましょう。
	粒状草木加里	20kg		2	30	100	Mg3	登熟促進、根張り促進、倒伏防止に
	けい酸加里プレミア	20kg			20		Mg4 Si34	けい酸とカリを同時に補給することで、倒伏や高温障害に強くなります。
穂肥	BB 有機入り追肥526号	20kg	15	2	6	30	Mg1	JA金沢中央、基本の穂肥
土づくり	BB スーパーけい酸	20kg		3			Mg6 Si26 AL45	登熟促進、根張り促進、倒伏防止に、必ず施用しましょう。
	BB パワフル大地	20kg		12	5		Mg9 Si20 AL27	10a当たり60kg施用で堆肥150kg相当の効果が得られる省力土づくり肥料
	BB 鉄腕ソイル	20kg					Mg1 Si20 AL34 Mn0.5 Fe16.5	高溶ケイ酸に加え、鉄を多く含有し、高温障害・秋落ちを予防します
	ケイカル（粒）	20kg					Mg5 Si30 AL45	ケイ酸補給で稲体を強化し倒伏防止、病害虫に対して強くなる
	ようりん（粒）	20kg		20			Mg12 Si20 AL45	健全な稲を育て多収の効果がある。まき易い粒状タイプ

※一発肥料は基本的に穂肥がいらないように設計されておりますが、高温年の場合は多少穂肥が必要になる場合があります。  
※表示成分 N＝窒素 P＝りん酸 K＝カリ Mg＝苦土 Si＝ケイ酸 B＝ホウ素 AL＝アルカリ Fe＝鉄 有機＝有機含量

# 水田畦畔等の除草剤の使用

区分	薬剤名 (成分)	使用時期	10a当たり使用量			使用回数
			薬量		希釈水量	
			一年生雑草	多年生雑草		
水田 畦畔	ラウンドアップマックスロード (グリホサート)	雑草生育期(収穫前日まで)	200～500ml	500～1000ml	通常散布50～100L 少量散布25～50 L	3回以内
	グリホエキス液剤 (グリホサート)	雑草生育期:草丈30cm以下 (収穫14日前まで)	250～500ml	500～1000ml	50～100 L	2回以内
	バスタ液剤 (グルホシネート)	雑草生育期:草丈30cm以下 (収穫7日前まで)	500～1000ml	500～1000ml	100～150 L	3回以内
	ザクサ液剤 (グルホシネートP)	雑草生育期 (収穫7日前まで)				
	カーメックスD水和剤 (DCMU)	雑草発生前～雑草発生初期	150～300 g	－	70～100 L	2回
	ダイロンゾル (DCMU)	雑草発生前～雑草発生初期 :草丈15 c m以下	200～250ml	－	100L	
	2, 4-Dアミン塩 (2.4PA)	雑草生育期:草丈30cm以下 (収穫30日前まで)	100g	100g	100 L	3回以内
	カソロン粒剤6.7 (DBN)	秋冬期～春期の雑草 (11月中下旬～降雪前)	4～6kg	4～6kg	－	1回
休耕田	ラウンドアップマックスロード (グリホサート)	雑草生育期	200～500ml	500～1000ml	通常散布50～100L 少量散布25～50 L	3回以内
	バスタ液剤 (グルホシネート)	雑草生育期:草丈50cm以下	500～1000ml	500～1000ml	100～150 L	3回以内
農道、公園、庭園、堤とう、駐車場、道路、運動場、宅地、のり面、鉄道等	ラウンドアップマックスロード (グリホサート)	雑草生育期	200～500ml	500～1000ml	通常散布50～100L 少量散布25～50 L	3回以内
	グリホエキス液剤 (グリホサート)	雑草生育期:草丈30cm以下	500ml	1000ml	100 L	
	バスタ液剤 (グルホシネート)	雑草生育期	500～1000ml	1000～2000ml	100～200 L	3回以内
	ザクサ液剤 (グルホシネートP)	雑草生育期				
	サンダーボルト007 (グリホサート、ピラフルフェンエチル)	雑草生育期:草丈50cm以下	500～1000ml	500～1000ml	100 L	3回以内
	カソロン粒剤6.7 (DBN)	雑草発生前～雑草発生初期	6～9kg	10～15kg	－	3回
	カーメックスD水和剤 (DCMU)	雑草発生前～雑草発生初期 (多年生は、生育初期～生育中期)	300～600g	1000～2000g	100～200 L	3回以内
	2, 4-Dアミン塩 (2.4PA)	雑草生育期:草丈20cm以下	100～200g	200～300 g	70～100 L	3回以内

◎ラウンドアップマックスロード、グリホエキス液剤、サンダーボルト007は同じ成分（グリホサート）を含んでいます。  
例：水田畦畔で使用する場合  
①ラウンドアップマックスロード3回 → ○  
②グリホエキス3回 → ×（グリホエキスは使用回数2回までのため）  
③グリホエキス2回 + ラウンドアップマックスロード1回 → ○  
④グリホエキス2回 + ラウンドアップマックスロード2回 → ×  
（上記2剤の場合、グリホサートを含む除草剤の総使用回数は3回までのため、4回目は使用できない。）

◎カーメックスD水和剤、ダイロンゾルは同じ成分を含んでいます。水田畦畔で使用する場合はどちらか2回までしか使用できません。  
◎使用回数は前作の水稲収穫後からカウントされます。（水稲→水稲の場合）



# 水稲防除剤の登録内容

令和7年10月登録現在

薬剤名	適用病害虫	使用量	使用時期	使用方法	使用上のポイント
テクリードC フロアブル	もみ枯細菌病、苗立枯細菌病、褐条病、ばか苗病、いもち病、ごま葉枯病、苗立枯病（リゾープス菌・トリコデルマ菌）	200倍	浸種前	24時間種子浸漬	
ダコレート 水和剤	苗立枯病（リゾープス菌、トリコデルマ菌、フザリウム菌）	400～600倍	播種時～緑化期 但し播種14日後まで	育苗箱の上から均一に散布する。	いもち病（苗いもち）は播種時400倍／1回
タチガレエースM 粉剤	苗立枯病（ピシウム菌、フザリウム菌）、ムレ苗防止、根の生育促進	6～8g／1箱	播種前	育苗土壌に均一に混和する。	土壌混和は1回のみ
タチガレエースM 液剤	苗立枯病（ピシウム菌、フザリウム菌）、ムレ苗防止、根の生育促進、移植時の発根及び活着促進	500～1000倍 (500ml／1箱)	播種時又は発芽後	本 剤 の 所 定 量 を 土 壌 灌 注 する。	育苗箱への灌注は1回のみ
エバーゴルフォルテ 箱粒剤	いもち病、紋枯病、イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、白葉枯病、ウンカ類、ツマグロヨコバイ	50g／1箱	播種時(覆土前)～移植当日	育苗箱の苗の上から均一に散布する。	散布量は育苗箱1箱当たり50gを守ってください。 50g以下では、効果が劣ります。
<small>ドクター</small> Dr.オリゼリディア 箱粒剤 <div>いもち病 初期害虫 予防対策 イナゴ類</div>	いもち病、白葉枯病、イネドロオイムシ、イネミズゾウムシ、ウンカ類、ツマグロヨコバイ、ニカメイチュウ、イネヒメハモグリバエ、イネカラバエ、フタオビコヤガ、イナゴ類	50～100g／1箱※	移植3日前～移植当日	育苗箱の上から均一に散布する。	散布量は育苗箱1箱当たり使用量を守ってください。 50g以下では、効果が劣ります。
オリゼメート 1キロ粒剤	いもち病、もみ枯細菌病、白葉枯病	1～1.3kg／10a	収穫14日前まで	散布	箱施薬した方は不要
ビームトレ モンセレン粉剤DL	いもち病、紋枯病、ごま葉枯れ病、ウンカ類、カメムシ類、コブノメイガ、ツマグロヨコバイ、イネツトムシ	4kg／10a	収穫21日前まで	散布	散布適期は、出穂7～3日前
ラブサイド スタークル粉剤DL	いもち病、ツマグロヨコバイ、ウンカ類、カメムシ類、イナゴ類、ニカメイチュウ	4kg／10a	収穫7日前まで	散布	散布適期は、出穂7～10日後
スタークル粉剤DL	カメムシ類、イナゴ類、ウンカ類、ツマグロヨコバイ、イネドロオイムシ、ニカメイチュウ、フタオビコヤガ	3kg／10a	収穫7日前まで	散布	散布適期は、出穂2週間後頃
モンガリット粒剤	稲こうじ病、紋枯病、疑似紋枯症（褐色紋枯病菌、赤色菌核病菌、灰色菌核病菌、褐色菌核病菌）、墨黒穂病	3～4kg／10a	収穫30日前まで	湛水散布	散布適期は、出穂21～14日前
	穂枯れ（ごま葉枯病菌、すじ葉枯病菌）	4kg／10a			

※10a当たりの投下薬量が1kgを超えないようにご留意下さい。

薬剤名	適用病害虫	使用量	使用時期	使用方法	使用上のポイント
イモチエース スタークル粒剤	いもち病、穂枯れ(ごま葉枯病菌)、紋枯病、墨黒穂病、ウンカ類、カメムシ類、変色米(アルタナリア菌、カーブラリア菌)、ツマグロヨコバイ、フタオビコヤガ	3kg／10a	収穫35日前まで	散布	散布適期は、出穂14～10日前
スタークル粒剤	カメムシ類、ウンカ類、ニカメイチュウ、ツマグロヨコバイ、イネドロオイムシ	3kg／10a	収穫7日前まで	散布	散布適期は、出穂7～10日後頃
スタークル豆つぶ	カメムシ類	250g/10a	収穫7日前まで	散布	散布適期は、出穂7～10日後頃
	ウンカ類、ツマグロヨコバイ	250g～500g／10a			
トレボン粒剤	イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、イネゾウムシ、イネヒメハモグリバエ、イナゴ類、ウンカ類、ツマグロヨコバイ	2～3kg／10a	収穫21日前まで	散布	初期害虫防除。箱施薬した方は不要。
	ニカメイチュウ（第一世代）	3kg／10a			
リンバー粒剤	紋枯病、疑似紋枯症（褐色菌核病菌、赤色菌核病菌）	3～4kg／10a	収穫30日前まで	散布	散布適期は、出穂14～10日前
ブラシン粉剤DL	いもち病・ごま葉枯病、穂枯れ、変色米	3～4kg／10a	収穫7日前まで	散布	発病初期を逃さず散布する
	もみ枯細菌病、稲こうじ病、内穎褐変病	4kg／10a			
Zボルドー 粉剤DL	稲こうじ病	3～4kg／10a	出穂10日前まで	散布	前年発生圃場は必ず散布
トレボン粉剤DL	イネツトムシ	4kg／10a	収穫7日前まで	散布	コブノメイガ、イナゴの多発時に散布する
	カメムシ類、イネミズゾウムシ成虫、ツマグロヨコバイ、ウンカ類、コブノメイガ、アザミウマ類、イナゴ類、イネドロオイムシ、ニカメイチュウ	3～4kg／10a			
	イネヒメハモグリバエ、フタオビコヤガ	3kg／10a			

## 倒伏軽減剤の使用 方法

使用目的・・・節間短縮による倒伏の軽減（倒伏が予想される場合のみ散布、使用時期厳守）

薬剤名	使用時期	10a当たり使用量		使用方法
ロミカ粒剤	出穂25～10日前	2～3kg		湛水散布
スマレクト粒剤	出穂20～7日前	2～3kg		湛水散布
ビビフル粉剤DL	出穂10～5日前	3～4kg		散布
ビビフルフロアブル	出穂10～2日前	75～100ml	通常散布量50～150 ℓ	茎葉散布
			少量散布量25～50 ℓ	



# 本田除草剤の登録内容

令和7年10月登録現在

## <初期除草剤>

除草剤名	成 分	HRACコード	使用量/10a	使用時期	使用方法	適用雑草
ソルネット 1キロ粒剤	プレチラクロール	15	1kg	植代後～移植前7日まで 移植直後～ノビエ1葉期まで (田植同時登録あり) (移植後30日まで)	湛水散布	水田1年生雑草、マツバイ、 ホタルイ、ヘラオモダカ、 ミズカヤツリ
先陣 ジャンボ	ジメタメトリン ピラクロニル	5・14	20g ×10個	植代後～移植7日前まで 移植直後～ノビエ1葉期まで (移植後30日まで)	水田に小包装 (パック)のまま ま投げ入れる	一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、 ヘラオモダカ、ウリカワ、ミズガヤツリ、 ヒルムシロ、オモダカ、コウキヤガラ、 アオミドロ・藻類による表層はく離
メテオ フロアブル	ベントキサゾン	14	500ml	植代後～移植前7日まで 移植直後～ノビエ1葉期まで (田植同時登録あり) (移植後30日まで)	湛水散布	水田1年生雑草、マツバイ、 ホタルイ

## <一発除草剤>

除草剤名	成 分	HRACコード	使用量/10a	使用時期	使用方法	適用雑草
サラブレッドGO 1キロ粒剤 <div>抵抗性雑草対策</div>	イマゾスルフロン オキサジクロメホン ピラクロニル プロモブチド	2・14・30・ 30	1kg	移植直後～ ノビエ2.5葉期まで※ (田植同時登録あり) (移植後30日まで) ＜直播登録あり＞	湛水散布 又は 無人航空機に よる散布	一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、 ウリカワ、ミズガヤツリ、ヘラオモダカ、 ヒルムシロ、セリ、オモダカ、クログワイ、 コウキヤガラ、アオミドロ・藻類による表層はく離
アシュラ 1キロ粒剤 <div>抵抗性雑草対策</div>	ピラクロニル トリアファモン ベンゾビシクロン	2・14・27	1kg	移植直後～ノビエ4葉期まで (田植同時登録あり) (移植後30日まで) ＜直播登録あり＞	湛水散布	水田1年生雑草、マツバイ、ホタルイ、 ヘラオモダカ、ミズガヤツリ、ウリカワ、 ヒルムシロ、セリ、オモダカ、クログワイ、 コウキヤガラ、キシウスズメノヒエ、 アオミドロ・藻類による表層はく離
ベッカク 1キロ粒剤 <div>抵抗性雑草対策</div>	ピリミスルファン フェノキサスルホン フェンキナトリオン	2・15・27	1kg	移植直後～ ノビエ3葉期まで※ (田植同時登録あり) (移植後30日まで) ＜直播登録あり＞	湛水散布	一年生雑草、多年生雑草、 アオミドロ・藻類による表層はく離
アットウZ ジャンボ <div>抵抗性雑草対策</div>	ピラクロニル プロピリスルフロン テフリルトリオン	2・14・27	40g× 10個	移植後3日～ ノビエ4葉期まで※ (収穫60日前まで) ＜直播登録あり＞	水田に小包装 (パック)のまま 投げ入れる	一年生雑草、多年生広葉雑草、 アオミドロ・藻類による表層はく離
ゼアス ジャンボ <div>抵抗性雑草対策</div>	オキサジクロメホン ジメスルファゼット ピラクロニル	14・15・30	30g× 10個	移植直後～ ノビエ2.5葉期まで※ (移植後30日まで) ＜直播登録あり＞	水田に小包装 (パック)のまま 投げ入れる	一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、 ウリカワ、ミズガヤツリ、ヘラオモダカ、 ヒルムシロ、オモダカ、クログワイ、 コウキヤガラ
ウルティモZ ジャンボ <div>抵抗性雑草対策</div>	シクロピリモレート ピラゾレート プロピリスルフロン	2・27・33	35g× 10個	移植後5日～ノビエ3葉期 (移植後30日まで) ＜直播登録あり＞	水田に小包装 (パック)のまま 投げ入れる。 (湛水散布)	水田1年生雑草、多年生 広葉雑草、エゾノサヤヌカグサ
エンペラー フロアブル <div>抵抗性雑草対策</div>	ピラクロニル ピリミナックメチル フェンキナトリオン	2・14・27	500ml	移植直後～ノビエ3葉期 (田植同時登録あり) (移植後30日まで) ＜直播登録あり＞	原液湛水散布	水田1年生雑草、マツバイ、ホタルイ、 ウリカワ、ミズガヤツリ、ヘラオモダカ、 ヒルムシロ、セリ、オモダカ、クログワイ、 コウキヤガラ、エゾノサヤヌカグサ、 アオミドロ・藻類による表層はく離

## <中期除草剤>

除草剤名	成 分	HRACコード	使用量/10a	使用時期	使用方法	適用雑草
アトカラS ジャンボMX	アジムスルフロン ペノキススラム メソトリオン	2・27	25g ×20個	移植後14日～ ノビエ3.5葉期まで (収穫45日前まで) ＜直播登録あり＞	湛水散布	水田1年生雑草、マツバイ、ホタルイ、 ヘラオモダカ、ミズガヤツリ、 ウリカワ、オモダカ、クログワイ、 ヒルムシロ、セリ、コウキヤガラ

## <後期除草剤>

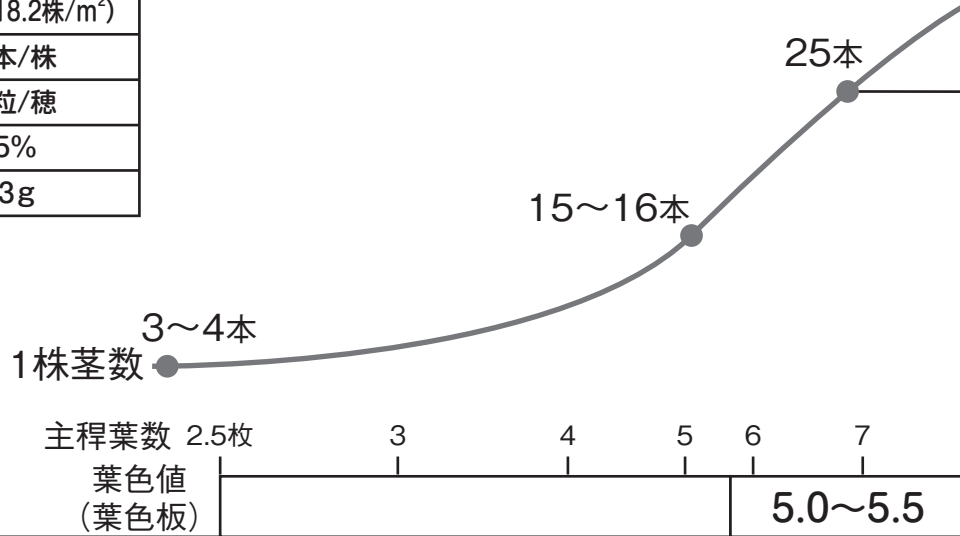
除草剤名	成 分	HRACコード	使用量/10a	使用時期	使用方法	適用雑草
ヒエクリーン 1キロ粒剤	ピリミナックメチル	2	1kg	移植後15日～ノビエ4葉期まで (収穫45日前まで) ＜直播登録あり＞	湛水散布	ノビエ
クリンチャー 1キロ粒剤	シハロホップブチル	1	1.5kg	移植後25日～ノビエ5葉期まで (収穫30日前まで) ＜直播登録あり＞	湛水散布	ノビエ、キシウスズメ ノヒエ、アゼガヤ
クリンチャー EW	シハロホップブチル	1	100ml 希釈量 100ℓ	移植後20日～ノビエ6葉期まで (収穫30日前まで) ＜直播登録あり＞	湛水散布又は 落水散布	ノビエ、キシウスズメ ノヒエ、アゼガヤ
トドメMF乳剤	メタミホップ	1	200ml 希釈量 100ℓ	移植後14日～ノビエ7葉期まで (収穫50日前まで) ＜直播登録あり＞	湛水散布又は 落水散布	ノビエ、キシウスズメ ノヒエ、アゼガヤ
バサグラン粒剤	ベンタゾン	6	3～4kg	移植後15日～ 収穫45日前まで ＜直播登録あり＞	落水散布又は ごく浅く湛水 散布	水田1年生雑草(イネ科を除く)、 マツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、 ヘラオモダカ、オモダカ、クログワイ、 シズイ、エゾノサヤヌカグサ
レブラスギア 1キロ粒剤	シクロピリモレート テフリルトリオン メタゾスルフロン	2・27・33	1kg	移植後14日～ ノビエ4葉期まで※ (移植後60日まで) ＜直播登録あり＞	湛水散布又は 無人航空機に よる散布	一年生雑草、多年生広葉 雑草
ワイドパワー 粒剤	ペノキススラム ベンタゾン	2・6	3kg	移植後20日～ ノビエ5葉期まで (収穫45日前まで) ＜直播登録あり＞	落水散布	水田1年生雑草、ウリカワ、 オモダカ、クログワイ、ヒルムシロ、 ホタルイ、マツバイ、ミズガヤツリ
ウィードコア 1キロ粒剤	70%ピリモレート ペノキススラム ベンゾビシクロン	2・4・27	1kg	移植後7日～ ノビエ4葉期まで※ (収穫60日前まで) ＜直播登録あり＞	湛水散布又は 無人航空機に よる散布	一年生雑草、キシウスズメ ノヒエ、多年生広葉雑草
クリンチャー バスME液剤	シハロホップブチル ベンタゾン	1・6	1000ml 希釈量 100ℓ	移植後15日～ ノビエ5葉期まで (収穫50日前まで) ＜直播登録あり＞	落水散布又は ごく浅く湛水 散布	水田1年生雑草、マツバイ、 ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、 ヘラオモダカ、オモダカ、クログワイ
ノミニー液剤	ビスピリバック ナトリウム塩	2	50～100ml 希釈量 100ℓ	移植後30日～ クサネムの草丈40cmまで イボクサの茎長30cmまで (収穫60日前まで) ＜直播登録あり＞	落水散布又は ごく浅く湛水 散布	クサネム、イボクサ
モゲトン粒剤	ACN	0	2～3kg	発生始～発生盛期 (収穫45日前まで) ＜直播登録あり＞	湛水散布	藻類による表層はく離、 ウキクサ類、藻類



# ゆめみづほ栽培ごよみ

目標収量

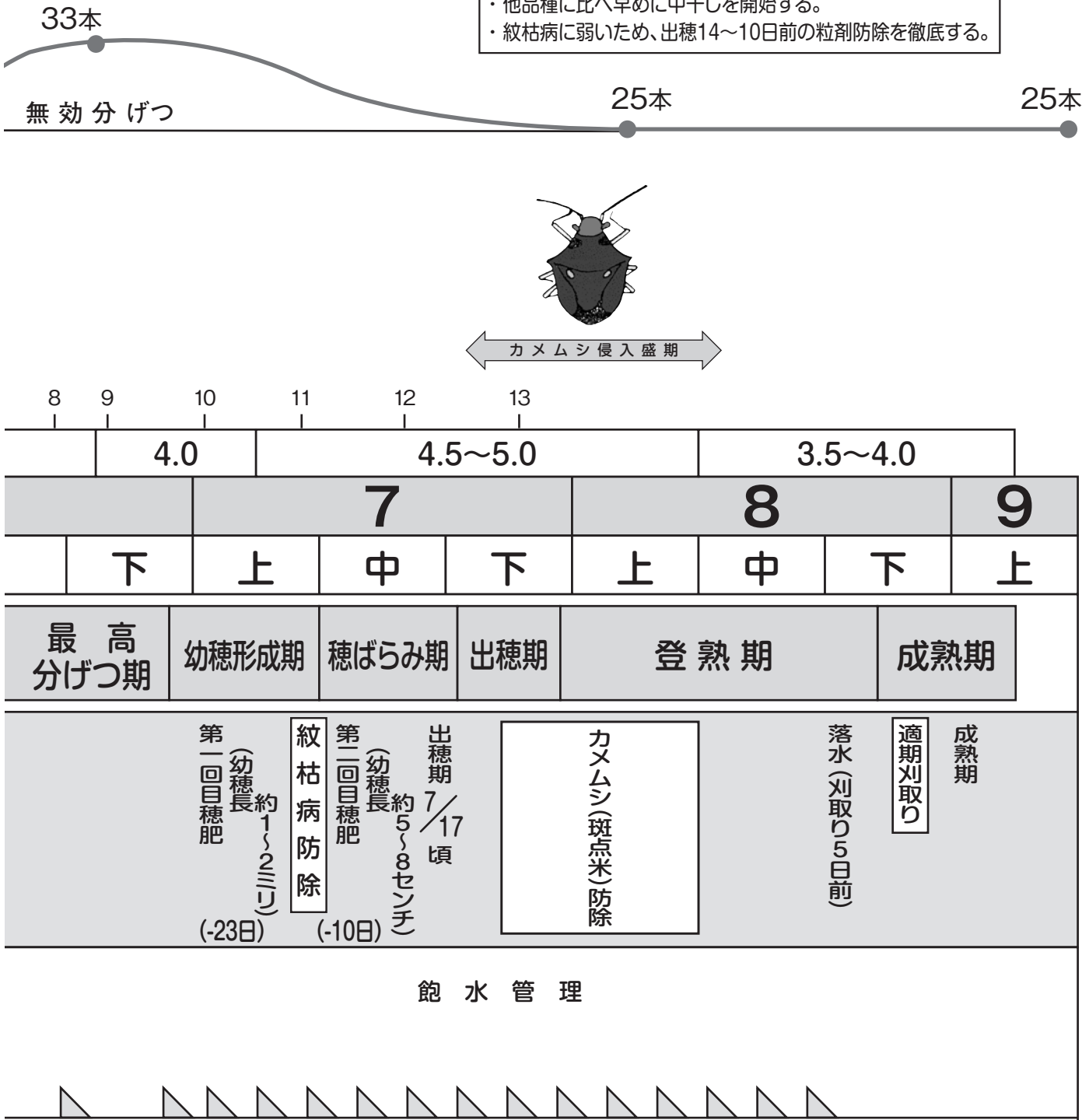
収 量	600kg/10a
株 数	60株/坪 (18.2株/m <sup>2</sup> )
穂 数	25本/株
1 穂粒数	67粒/穂
登熟歩合	85%
千 粒 重	23g



月 旬	4			5			6	
	上	中	下	上	中	下	上	中
生 育 ステージ	育苗期			移植期	活着期	分げつ期	有効分げつ 決定期	
栽培のポイント	薄播きによる健苗育成  温度および水管理 苗の成長段階に応じた 乾籾130g／箱 （適正播種量）			60株／坪植えとする 太植えをさける		根の活性化 田干しによる 分げつの促進 浅水管理による		（確保された時 茎数が15〜16本／株） 中干し開始 早めに
水 管 理				保温のため やや深水		日中浅水 夜間深水	間断通水	中 干 し
施 肥 基 準	〔一般体系〕			(kg／10a)				
	肥料名			品種		ゆ め み づ ほ		
	土づくり資材		BB パワフル大地 または BB スーパーけい酸		60			
	基 肥	BB 有機入り820 (みさと)		45～50				
		BB いしかわ有機入り056		35～40				
	中間追肥	草 木 加 里		10				
		BB P K け い さ ん		20				
		けい酸加里プレミア		20～40				
	穂 肥	BB 有機入り追肥526号		1回目		2回目		
				20		25		
※ほ場により施用量を加減して下さい。								

## 栽培上の注意点

- ・ 苗丈は短いが高温管理等で無理に伸ばさない。
- ・ 他品種に比べ早めに中干しを開始する。
- ・ 紋枯病に弱いので、出穂14~10日前の粒剤防除を徹底する。



〔基肥一発体系〕				(kg/10a)
肥料名		品種	ゆめみづほ	
土づくり資材		BB パワフル大地 または BB スーパーけい酸	60	
基 肥	BB 早生一発くんDX28 または BB スリム早生一発くん または BB 早生一発くんNEO		40~50	
	草 木 加 里		10	
中間追肥	BB P K け い さ ん		20~40	
	けい酸加里プレミア			

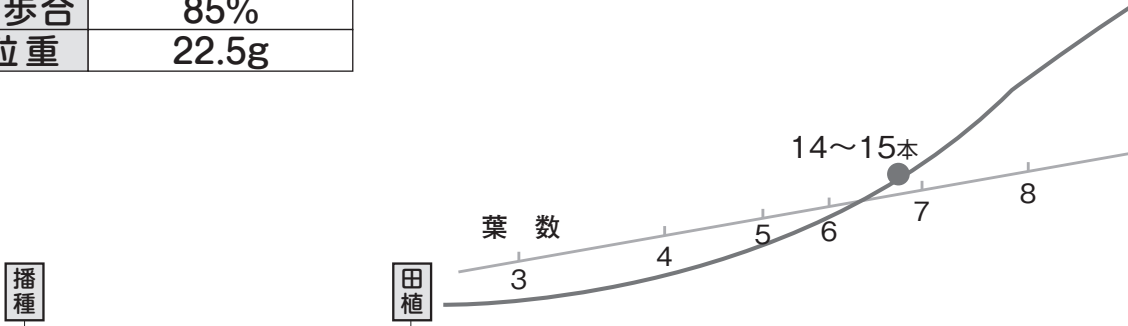
注) 穂肥の必要はありません。側条施肥が前提ですが、全層施肥でも施用できます。  
初年目は上記を上限とし、2年目以降生育や収量から判断し、ほ場にあった施肥量を決定して下さい。  
**草木加里、PKけいさん又はけい酸加里プレミアを必ず施用下さい。**



# コシヒカリ栽培ごよみ

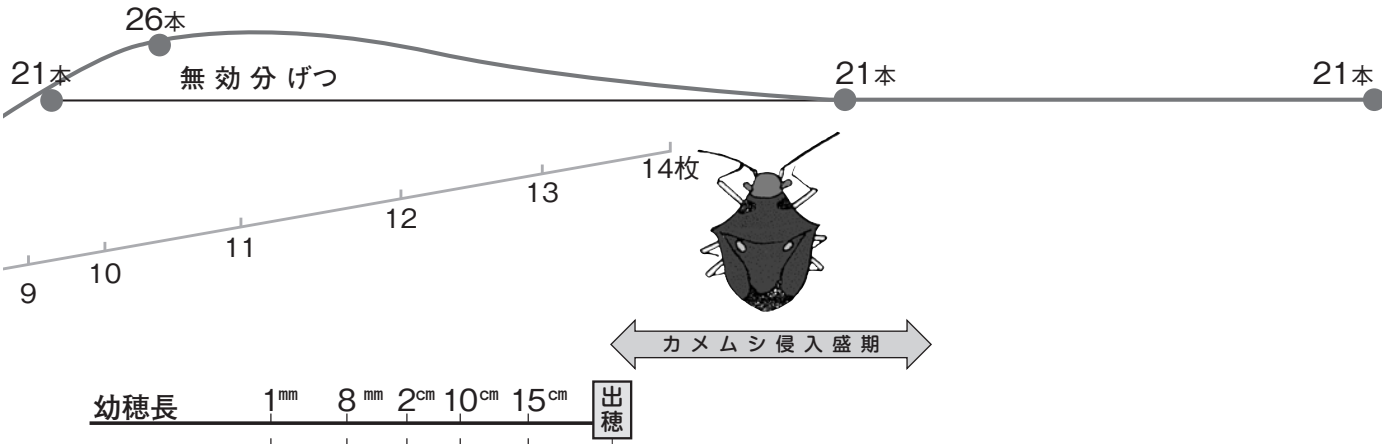
目標収量

収 量	530kg/10a
株 数	60株/坪 (18.2株/m <sup>2</sup> )
穂 数	21本/株
1穂粒数	73粒/穂
登熟歩合	85%
千粒重	22.5g



出穂前後日数									
月 旬	4			5			6		
	上	中	下	上	中	下	上	中	
生 育 ステージ	育苗期			移植期	活着期	分げつ期	有効分げつ 決定期		
栽培のポイント	薄播きによる健苗育成  温度および水管理 苗の成長段階に応じた 乾籾130g／箱 （適正播種量）			60株／坪植えとする 太植えをさける	浅水管理による 分げつの促進	田干しによる 根の活性化	（確保された時 茎数が14～15本／株 中干し開始 早めに）		
水 管 理	<div>保温のため やや深水</div> <div>日中浅水 夜間深水</div> <div>中 干 し</div> <div>間断通水</div>								
施 肥 基 準	〔一般体系〕 <span style="float:right">(kg／10a)</span>								
	肥料名		品種		コシヒカリ				
	土づくり資材		BB パワフル大地 または BB スーパーけい酸		60				
	基 肥	BB 有機入り820 (みさと)		40					
		BB いしかわ有機入り056		30					
	中間追肥	草 木 加 里		10					
		BB P K け い さ ん		20					
		けい酸加里プレミア		20～40					
穂 肥	BB 有機入り追肥526号		1回目		2回目				
			13		17				
※ほ場により施用量を加減して下さい。									

※ほ場により施用量を加減して下さい。



-23日				-18日				-15日				-11日				-6日				0日				+8日				+12日				+18日				+24日				+42日			
				7								8								9																							
下				上				中				下				上				中				下				上				中											
最高分げつ期				幼穂形成期				穂ばらみ期				出穂期				登熟期								成熟期																			
				第一回目穂肥 (幼穂長約15〜20ミリ) (-16日)				紋枯病防除 第二回目穂肥 (幼穂長約8センチ) (-8日)				出穂期 7/27頃				カメムシ(斑点米)防除								落水(刈取り5日前)				適期刈取り				成熟期											

飽水管理

<

注) 穂肥の必要はありません。側条施肥が前提ですが、全層施肥でも施用できます。  
初年目は上記を上限とし、2年目以降生育や収量から判断し、ほ場にあった施肥量を決定して下さい。  
草木加里、PKけいさん又はけい酸加里プレミアを必ず施用下さい。



# 雑草防除基準

## 除草体系

### ●基本処理

田 植

サラブレッドGO1キロ粒剤

(散布適期)

田植直後～10日散布  
(田植同時可能)

アシュラ1キロ粒剤

田植直後～10日散布  
(田植同時可能)

### ●省力タイプ

田 植

ゼアスジャンボ

田植後3日～10日散布  
(湛水散布)

ウルティモZジャンボ

田植後5日～14日散布  
(湛水散布)

エンペラーフロアブル

田植直後～10日散布  
(湛水散布)

### ●雑草が多い場合

田 植

ソルネット  
1キロ粒剤

または

メテオ  
フロアブル

または

先陣ジャンボ

田植直後～5日散布  
(田植同時可能)

サラブレッドGO1キロ粒剤 または  
アシュラ1キロ粒剤 または  
ゼアスジャンボ または  
ウルティモZジャンボ または  
エンペラーフロアブル

田植後15日～20日散布

アトカラSジャンボMX

田植後20日～25日散布

初期剤と一発剤・中期剤を組合わせることで雑草を長期間抑制することができます。

#### ①ヒエが残った場合

ヒエクリーン1キロ粒剤 田植後15日～ノビエ4葉期まで (収穫45日前まで)

クリンチャー1キロ粒剤 田植後25日～ノビエ5葉期まで (収穫30日前まで)※

クリンチャーEW 田植後20日～ノビエ6葉期まで (収穫30日前まで)

トドメMF乳剤 田植後14日～ノビエ7葉期まで (収穫50日前まで)

※クリンチャー 1.5kg/10aの場合

#### ②広葉（多年生雑草）が残った場合

バサグラン粒剤 田植後15日～収穫45日前まで

バサグラン液剤 田植後15日～収穫45日前まで

#### ③ヒエと広葉（多年生雑草）が残った場合

レブラスギア1キロ粒剤 田植後14日～ノビエ4葉期まで (収穫60日前まで)

ワイドパワー粒剤 田植後20日～ノビエ5葉期まで (収穫45日前まで)

ウィードコア1キロ粒剤 田植後 7日～ノビエ4葉期まで (収穫60日前まで)

クリンチャーバスME液剤 田植後15日～ノビエ5葉期まで (収穫50日前まで)

# 病害虫基幹防除基準

## 種子消毒

テクレードCフロアブル

いもち病・白葉枯病・**紋枯病**  
イネミズゾウムシ・  
イネドロオイムシ・その他害虫

・エバーゴルフォルテ箱粒剤  
田植3日前～田植当日箱施用

※散布注意事項は  
49ページを  
参照して下さい。

## 〔粉剤体系〕

紋枯病・穂いもち・  
(1回目) カメムシ類他

・ビームトレモンセレン粉剤DL  
出穂前7～3日  
(収穫21日前まで)

穂いもち・カメムシ類・  
(2回目) ウンカ類・ツマグロヨコバイ他

・ラブサイドスタークル粉剤DL  
出穂後7～10日  
(収穫7日前まで)

(随時) カメムシ類・ウンカ類他

・スタークル粉剤DL  
または  
・スタークル豆つぶ  
出穂後14～17日  
(収穫7日前まで)

## 〔粒剤体系〕

いもち病・紋枯病・  
(1回) ウンカ類・カメムシ類他

・イモチエーススタークル粒剤  
出穂前14～10日  
(収穫35日前まで)

カメムシ類・ウンカ類・  
(2回目) ツマグロヨコバイ他

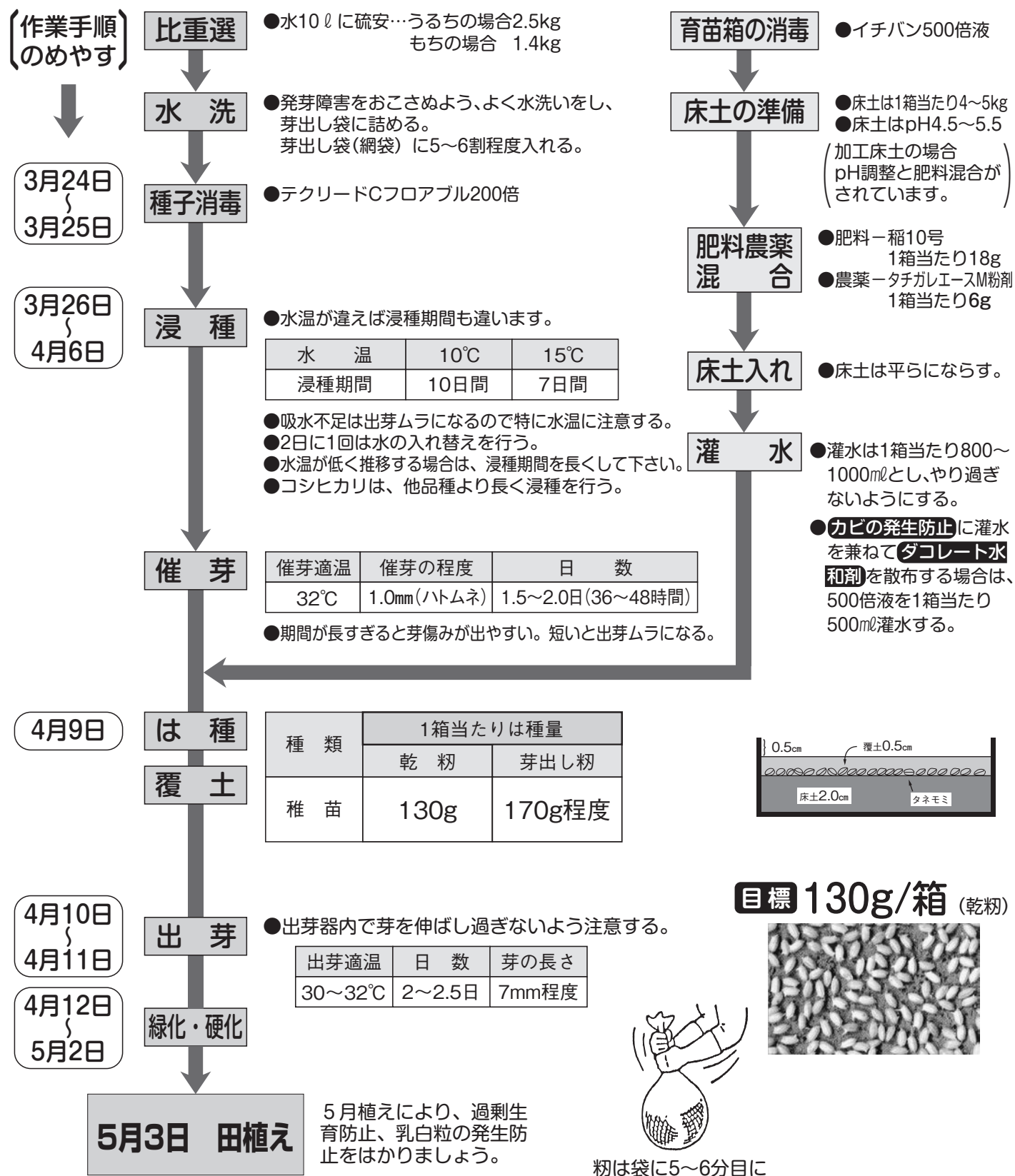
・スタークル粒剤  
または  
・スタークル豆つぶ  
出穂後7～10日  
(収穫7日前まで)



# 3月

## 5月植えを目標に種まきを行いましょう!!

うす播き、計画的なは種による、過剰生育防止、乳白粒発生防止

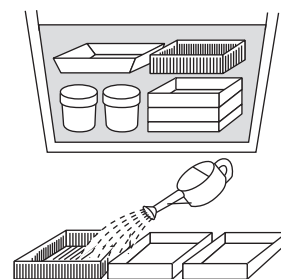


### ◎育苗箱の消毒

イチバン  
500倍液  
水100ℓに薬剤を  
200ml入れる

瞬間浸漬  
液の中で箱をゆさぶる

ジョウロで散布



### ◎種子消毒

薬 剤 名	希釈倍率 (水10ℓ 当たり薬量)	浸漬時間	水温
テクリードCフロアブル	200倍 (50ml)	24時間	10～20℃

種粃量に対する水量及び薬量

種粃重量 (kg)	5	10	15	20	50	100
水 量 (ℓ)	10	20	30	40	100	200
薬 量 (ml)	50	100	150	200	500	1000

- 10℃以下にならぬよう対応する。
- 樹脂性のラベルは字が消えるので木製の札を使用する。
- 消毒中に2～3回袋を動かし液を攪拌する。
- ※消毒後の廃液は河川等へ絶対に流さないで下さい。

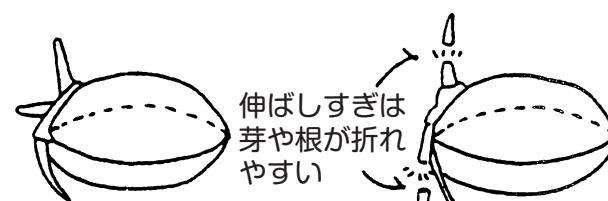
### ◎催芽の状態

〈80%以上ハトムネ状態に!〉

ハトムネ



良



悪

### 《農作業メモ》

令和8年 3月

1	日	
2	月	
3	火	
4	水	
5	木	
6	金	
7	土	
8	日	
9	月	
10	火	
11	水	
12	木	
13	金	
14	土	
15	日	
16	月	
17	火	
18	水	
19	木	
20	金	春分の日
21	土	
22	日	
23	月	
24	火	
25	水	
26	木	
27	金	
28	土	
29	日	
30	月	
31	火	



4月

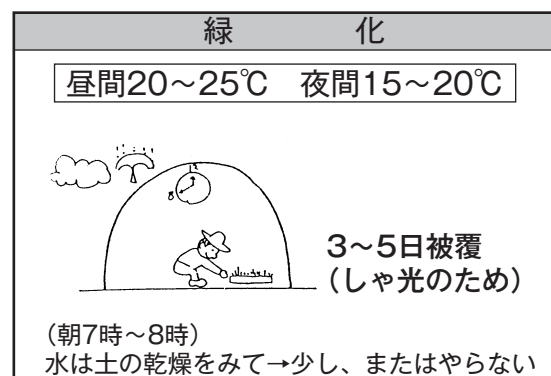
## 水と温度管理でガッチリ苗！！

## 緑化期

## ◎保温が第一、苗の素質が決まる

## 1日目

- 1 灌水は覆土の持ち上がりがある場合のみ軽く行う。  
また、種籾の見えるところは軽く覆土する。
- 2 夜間は温度が15℃以下にならないように保温する。
- 3 出芽直後の白い芽は、直射日光に当たると白化現象を起こすので、直ちにラブリシートや寒冷紗で被覆する。



## 2日目～

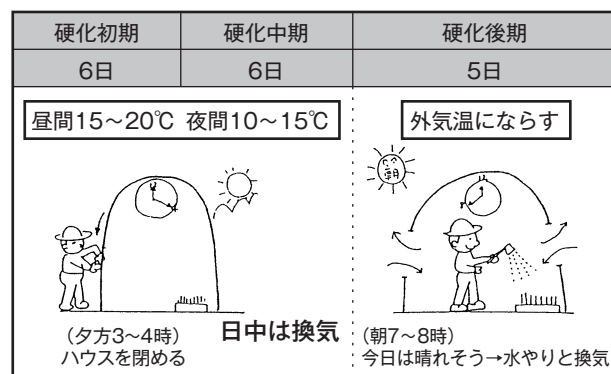
- 1 晴れた日は、高温障害（ヤケ）にならないように日中ビニールをすかして換気を行う。  
※シルバーポリトウ使用の場合または、ハウスビニールを更新した場合は特に注意する。
- 2 夜温が15℃を下回るときは、十分な被覆を行い保温に努める。
- 3 床土表面が白く乾いた場合、灌水する。
- 4 緑化終了の目安は、葉が緑色になり、苗の長さが3cm程度になった時点とし、日中はラブリシートや寒冷紗の被覆をとる。

## 硬化期

## ◎きめ細かな水・温度管理で丈夫な苗づくり

## 初中期 (本葉1.0～2.0葉期)

- 1 徒長防止のため、日中は高温に注意し、換気につとめる。
- 2 夜間の温度が10℃以下になる場合は、被覆等を行い保温する。
- 3 土の乾き具合を見て、午前中に灌水する。雨天時の灌水は控える。
- 4 カビの早期発見・防除に努めること。(タチガレエースM液剤)

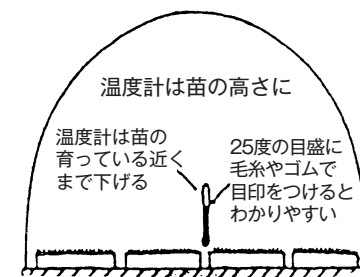


## 後期 (本葉2.0葉以降)

- 1 昼夜の温度差が大きいとムレ苗が出やすくなるので、日中の高温に注意し換気に努める。
- 2 水は1日に1～2回、たっぷりとかける。但し、夕方以降は行わない。
- 3 田植4～5日前からは極端な低温の恐れがない限り、夜間もビニールを開け外気にならし、硬い苗に仕上げる。
- 4 苗の葉色低下が著しい場合、田植3～4日前に、弁当肥を与える。

## 《温度管理と被覆資材使用の目安》

ハウスを閉めきったままにしておくと  
室温が50度程度まで上がるので上がり  
過ぎないように換気する。



ステージ	緑化期	硬化初期	硬化中期	硬化後期	注意事項
日数	3～5日間	6日間	6日間	6日間	※育苗日数 20～25日 ※緑化期は30℃ 硬化期は25℃ 以上に上げない ※最低8℃以下に 下げない
昼	温度	20～25℃	15～20℃	15～20℃	
	被覆資材	○	△	×	
夜	温度	15～20℃	10～15℃	10～15℃	
	被覆資材	○	△	×	

注) ○は常時必要、△は状況に応じて必要、×は不要

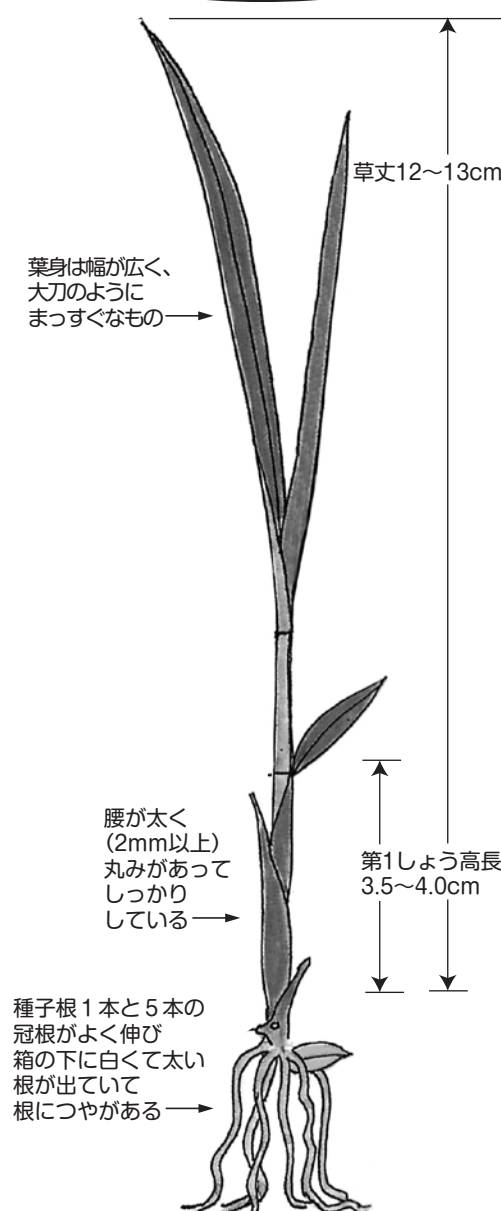
## 箱育苗の生育障害と対策

病害名	使用時期	薬剤名 (使用回数)	使用量	備考
苗立枯病 (かび)	播種時～ 緑化期 (但し播種 14日後 まで)	ダコレート 水和剤 (播種時含み 2回以内)	500倍液を 1箱当たり 500ml灌注	●白カビ、青カビ 発生時
	播種時 または 発芽後	タチガレ エースM 液剤 (1回)	<水50ℓに 100ml(1本) で100箱分>	●赤カビ発生時 ●ムレ苗防止 根の生育促進にも 効果あり
ムレ苗	硬化期 (1.5～2葉 期が出や すい)	●pH5.0前後にし、通 気性のある床土を使用 する ●低温時は保温資材を かける ●夜間冷えて晴天の日 には早めにビニール をあけるようにする		●葉身が針状に巻き、 しだいに黄褐色に 変わる ●夜間8℃以下の低温 と日中の高温によ る地上部と地下部 のバランスがとれ なくなり発生する

## 弁当肥の施用法 (稀釈液の使用量は500ml／箱)

肥料名	施用法 (100箱当たり)
硫安	500gを50ℓの水にとかして施用 (100倍)
液肥10号	250mlを50ℓの水に薄めて施用 (200倍)

・施用後は、軽く灌水し葉についた肥料を落とす。

比べてみましょう！《稚苗》  
原寸大の苗です

土づくり

○秋に土づくり資材を施用できなかった場合は必ず春に施用しましょう。  
※詳しくは64ページをご覧ください。

荒 耕

- 15cm以上の深耕に努める(深耕は根の伸びる範囲を広げ、養分吸収を良くする)
- 均平は耕起前に高い所から低い所に土を運び、高低差を修正しましょう。

基肥施用基準 (10a当たり)

施肥方法	肥料名	コシヒカリ	ゆめみづほ
一般体系	BB 有機入り820号 (みさと)	40kg	45～50kg
	BB いしかわ有機入056号	30kg	35～40kg
基肥一発体系	BB コシー発くんDX24 または BB 新コシー発くん特号 または BB コシー発くんNEO β	35～40kg	—
	BB 早生一発くんDX28 または BB スリム早生一発くん または BB 早生一発くんNEO	—	40～50kg
基肥一発体系・ 中間追肥省力	BB けい酸パワー・コシー発くん	70～80kg	—
	BB けい酸アップ・コシー発くん	45～55kg	—

※側条施肥機を利用する場合はJAの指導に従って開度を設定して下さい。(64ページ参照)

代 か き

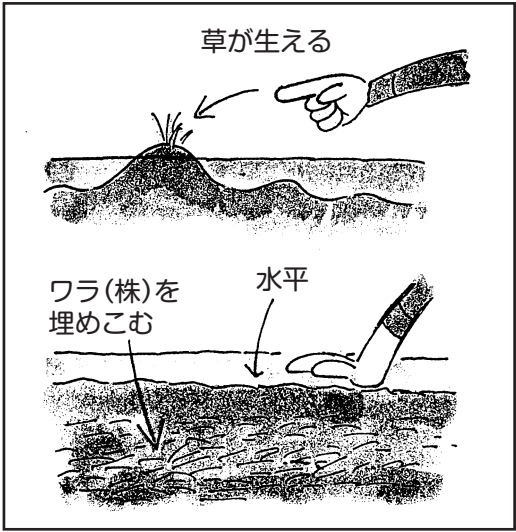
- 田植え3日前までに行い、田面の高低差をなくす。
- 代かきは水を少なめにして、稲わらを土の中に埋め込むように作業すると、田植作業の能率と精度が上がります。

●代かきはねりすぎにならないように



枕地になる所はねり込みすぎないように注意する。代かき時の水の深さに注意し、ワラが浮かないようにする。

●ほ場を均平にする



田面が露出していると除草効果が落ち、また低い部分は薬害が出やすくなるので田面を均平にする。

濁り水などが排水路に流れ込まないように水管理に注意しましょう。

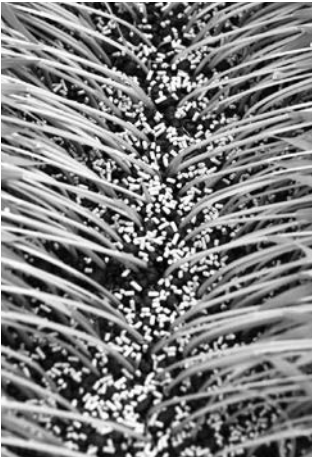
葉いもち・初期害虫防除 (育苗箱施薬)

薬 剤 名	エバーゴルフオルテ箱粒剤	Dr.オリゼリディア箱粒剤
散布時期	播種時(覆土前)～移植当日	移植3日前～移植当日
施 用 量	1箱当たり50g	50～100g／1箱※
散布方法	育苗箱の苗の上から均一に散布	育苗箱の上から均一に散布する
主な 対象病害虫	いもち病、 <b>紋枯病</b> 、イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、白葉枯病、ウンカ類、ツマグロヨコバイ	いもち病、白葉枯病、イネドロオイムシ、イネミズゾウムシ、ウンカ類、ツマグロヨコバイ、ニカメイチュウ、イネヒメハモグリバエ、イネカラバエ、フタオビコヤガ、 <b>イナゴ類</b>

※10a当たりの投下薬量が1kgを超えないようにご留意下さい。

●箱施薬剤散布においての注意事項

- 箱施薬剤は育苗ハウス使用後、後作に野菜類を栽培する場合は、必ずハウス外にて散布を行って下さい。



50g散布

- 必ず1箱当たり50gの施用量を守りましょう。

※間違えて水稻除草剤を使用しないで下さい。

畦畔および農道等の除草

使用時期	薬剤名	薬量	水量	散布面積	使用回数
雑草発生前～ 生育初期	カーメックスD水和剤	80g	40L	400㎡	2回以内
	ダイロンゾル	80ml	40L	400㎡	
4月～6月 雑草発生盛期	ラウンドアップマックスロード	200ml	20L	400㎡	3回以内
	バスタ液剤	400ml	40L	400㎡	
	ザクサ液剤				

注) 風の強い日は稲やその他作物にかからないよう注意して下さい。  
※バスタ液剤にカーメックスD水和剤またはダイロンゾルを混用して散布すると、抑草期間が長くなります。

例)

水 50L

+

バスタ液剤 500ml

または

ザクサ液剤 500ml

+

カーメックスD水和剤 100g

または

ダイロンゾル 100ml

《農作業メモ》

令和8年		4月
～ 今月の1か月対策 ～ 育苗日数(播種～田植まで)は 1か月以内(20～25日間)が目安		
1	水	
2	木	
3	金	
4	土	
5	日	
6	月	
7	火	
8	水	
9	木	
10	金	
11	土	
12	日	
13	月	
14	火	
15	水	
16	木	
17	金	
18	土	
19	日	
20	月	
21	火	
22	水	
23	木	
24	金	
25	土	
26	日	
27	月	
28	火	
29	水	昭和の日
30	木	



5月

適切な初期管理で、高品質な米の第一歩

田 植 え

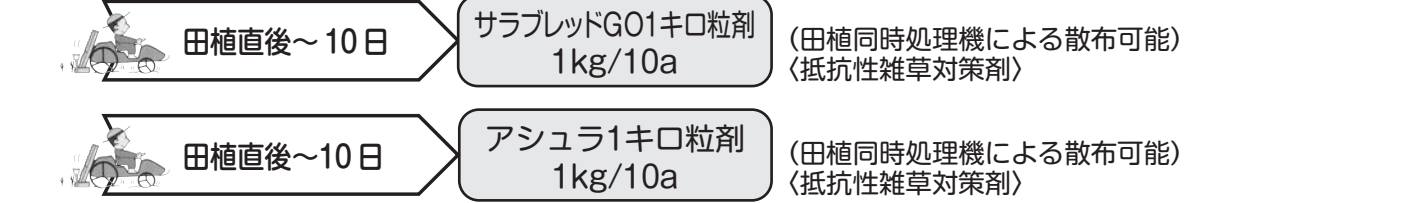
—5月植え・細植え・浅植えを心がけましょう—

- (1) 過剰生育や高温下での登熟を避けるため、5月植えを行う。
- (2) 過剰生育を抑えるため栽植密度は60株／坪とする。
- (3) 植付け本数は1株3～4本の細植えにする。植付け深さは2～3cmの浅植えにする。
- (4) 田植後5日間は、苗が水没しない程度の深水にする。

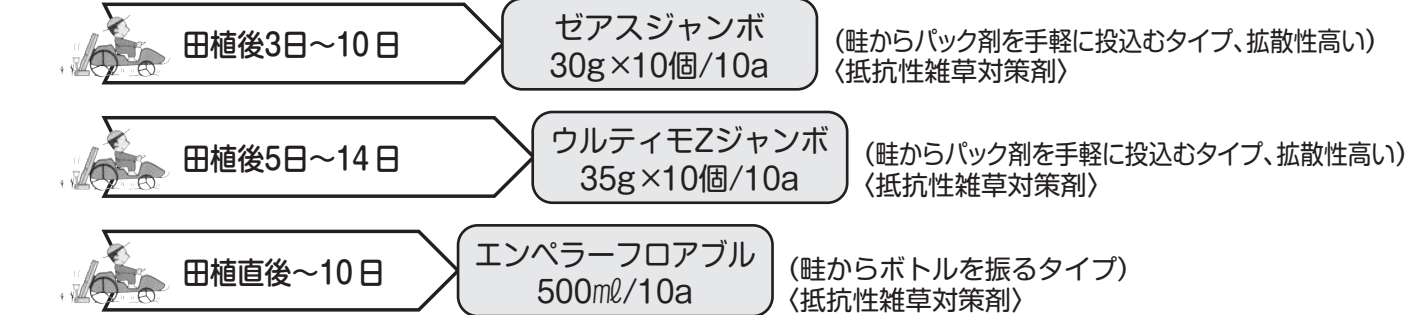
水田除草体系

—除草剤散布後は7日間止め水を徹底しましょう—

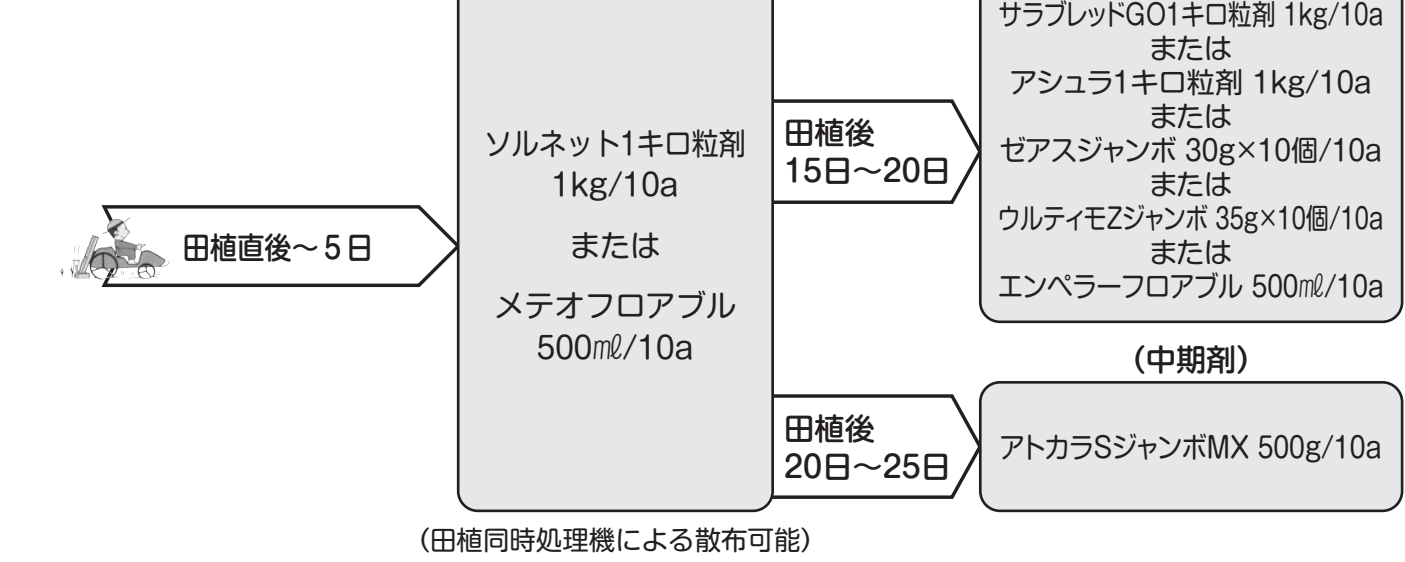
●基本処理(初・中期一発剤)



●省力化処理(初・中期一発剤)



●雑草が多い場合



※散布上の留意点

(1) フロアブル剤、ジャンボ剤は湛水散布とし、特に水持ちの良いほ場で藻の発生前に使用する。

(2) 藻の多発生したほ場では、モゲトン粒剤を2～3kg／10a散布する。

〈後期剤〉

●ノビエの取りこぼしに

薬剤名	使用時期	10a当たり 使用量	注意事項
ヒエクリーン 1キロ粒剤	田植後15日～ ノビエ4葉期まで (収穫45日前まで)	1 kg	湛水状態で散布 遅効性だが抑草期 間が長い
クリンチャー 1キロ粒剤	田植後25日～ ノビエ5葉期まで (収穫30日前まで)	1.5kg	湛水状態で散布 速効性だが抑草効 果は期待できない
クリンチャー EW	田植後20日～ ノビエ6葉期まで (収穫30日前まで)	薬量100ml 希釈水量100 ℓ	落水状態で散布 効果を高めるため、 展着剤を加用する
トドメMF 乳剤	田植後14日～ ノビエ7葉期まで (収穫50日前まで)	薬量200ml 希釈水量100 ℓ	落水状態で散布 耐雨に優れ、 展着剤不要

●広葉雑草の取りこぼしに

薬剤名	使用時期	10a当たり 使用量	注意事項
バサグラン 粒剤	田植後15日～ 収穫45日前まで	3～4 kg	落水状態で散布 3日間入水しない
バサグラン 液剤	田植後15日～ 収穫45日前まで	薬量500ml 希釈水量100 ℓ	落水状態で散布 展着剤必要なし

●ノビエも広葉も残った場合

薬剤名	使用時期	10a当たり 使用量	注意事項
レプラスギア 1キロ粒剤	移植後14日～ ノビエ4葉期まで (収穫60日前まで)	1kg	湛水状態で散布
ワイドパワー 粒剤	移植後20日～ ノビエ5葉期まで (収穫45日前まで)	3kg	落水状態で散布
ウィードコア 1キロ粒剤	移植後7日～ ノビエ4葉期まで (収穫60日前まで)	1kg	湛水状態で散布
クリンチャーバス ME液剤	田植後15日～ ノビエ5葉期まで (収穫50日前まで)	薬量1000ml 希釈水量100 ℓ	落水状態で散布 展着剤必要なし

田植後の管理

- 田植後4～5日間は、やや深水としその後は日中浅水管理とする。
- 生ワラ等による有害ガスの除去を図るため、中干しまでに2～3回の軽い田干しを繰り返すこと。(根ぐされ防止対策)
- 本田初期害虫の防除。(育苗箱施薬できなかった場合)  
箱施薬剤を散布していないほ場で、イネドロオイムシ・イネミズゾウムシの発生がみられたらトレボン粒剤を2～3kg／10a散布する。

薬剤名	対象害虫	10a当たり使用量	注意事項
トレボン粒剤	イネドロオイムシ、 イネミズゾウムシ	2～3 kg	湛水状態で散布

《農作業メモ》

令和8年 5月		
～ 今月の1か月対策 ～ 中干し開始は田植え 1か月後が目安		
1	金	
2	土	
3	日	憲法記念日
4	月	みどりの日
5	火	こどもの日
6	水	振替休日
7	木	
8	金	
9	土	
10	日	
11	月	
12	火	
13	水	
14	木	
15	金	
16	土	
17	日	
18	月	
19	火	
20	水	
21	木	
22	金	
23	土	
24	日	
25	月	
26	火	
27	水	
28	木	
29	金	
30	土	
31	日	

# 6月 中干し・溝切りで健全な稲体づくり！！

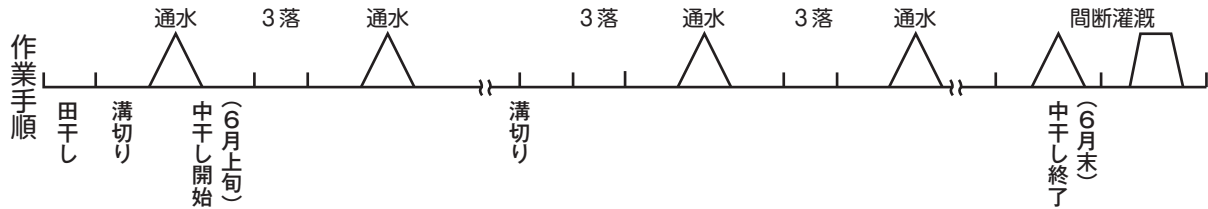
## 中 干 し

—中干しは根の健全化と、過剰生育を抑える大切な作業です。—

### ◎中干しの方法

- 中干しは14～15本／株程度が確保されたら開始する。（6月初旬）
- 中干しの程度は、土中に「小ひび」が入るのを目安にし、湿田では程度を強める。
- 高温乾燥が続く場合は、落水期間を短くしたり、土壌に応じた水管理を行う。
- 中干しやその後の間断通水を実施しやすくするために溝切り（ネキカキ）を行う。

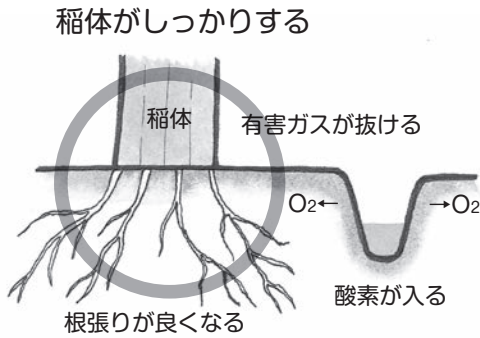
### 《中干しのやり方（3日落水、1日通水）》



※乾田や地力の低いほ場では3日程度落水、1日通水。  
 ※湿田や過繁茂になりやすいほ場では5日程度落水、1日通水。  
 ※中干しの期間は早生で6月末まで、中生で7月上旬までとし、その後は飽水管理を行う。

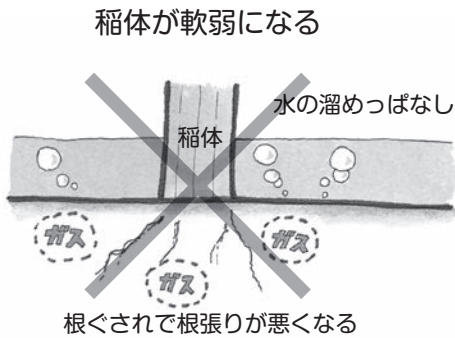
### ◎中干しの効果

- |             |                         |           |
|-------------|-------------------------|-----------|
| 1. 元気な根づくり  | ➡ 根腐れ・倒伏防止              | ➡ 登熟・食味向上 |
| 2. 余分な窒素を抜く | ➡ 過剰生育抑制                | ➡ 乳白粒発生防止 |
| 3. 田面を固くしめる | ➡ 収穫直前まで通水してもコンバイン作業は楽々 |           |



#### 中干しをした稲体

- 水管理が良かったため根が健全。
- 下葉の枯れ上りが少ない。



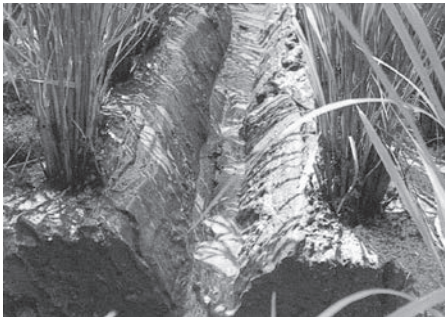
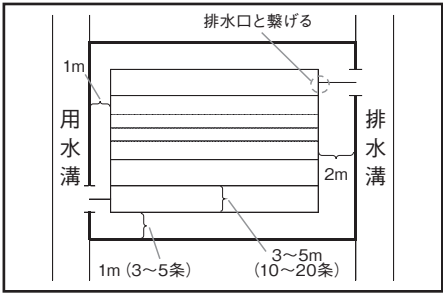
#### 中干しをしない稲体

- 水管理が悪いため根ぐされを生じる。
- 下葉の枯れ上りが多い。

## 溝 切 り

### ◎溝切り（ネキカキ）の方法

- 中干し開始直前あるいは中干し開始3日後を目安に行う。
- 溝切りは3～5m間隔に1本の割合を目安に行う。



## 中間追肥の施用

### —健全な稲づくりのため必ず施用しよう—

資材名	施用量	施用時期
草木加里	10Kg／10a	6月1～15日
BB PKけいさん	20～40Kg／10a	(早生) 6月10～20日 (中生) 6月15～30日
けい酸加里プレミア		

### ＜草木加里・PKけいさん・けい酸加里プレミアの効果＞

○登熟向上 ○根張り促進 ○耐病性向上 ○耐倒伏性向上

※基肥一発肥料を使用の方は、必ず施用して下さい。

## 着色粒発生防止対策

### —カメムシ斑点米や褐色粒の発生を防止しよう—

#### ◆カメムシ防除をかねた畦畔沿い除草の4つのポイント

- **ポイント1** 畦畔・農道等の雑草は5～6月にかけて除草し、更に7月上旬に追加除草する。
- **ポイント2** 除草は、刈取るか除草剤(ラウンドアップマックスロードまたはバスタ液剤)を散布する。
- **ポイント3** 休耕田には、6月下旬にスミチオン乳剤1000倍を散布し、カメムシの生息密度を下げる。
- **ポイント4** 長く伸びた雑草を7月中旬以降に刈取るとカメムシを水田に追い込むので注意する。

## 《農作業メモ》

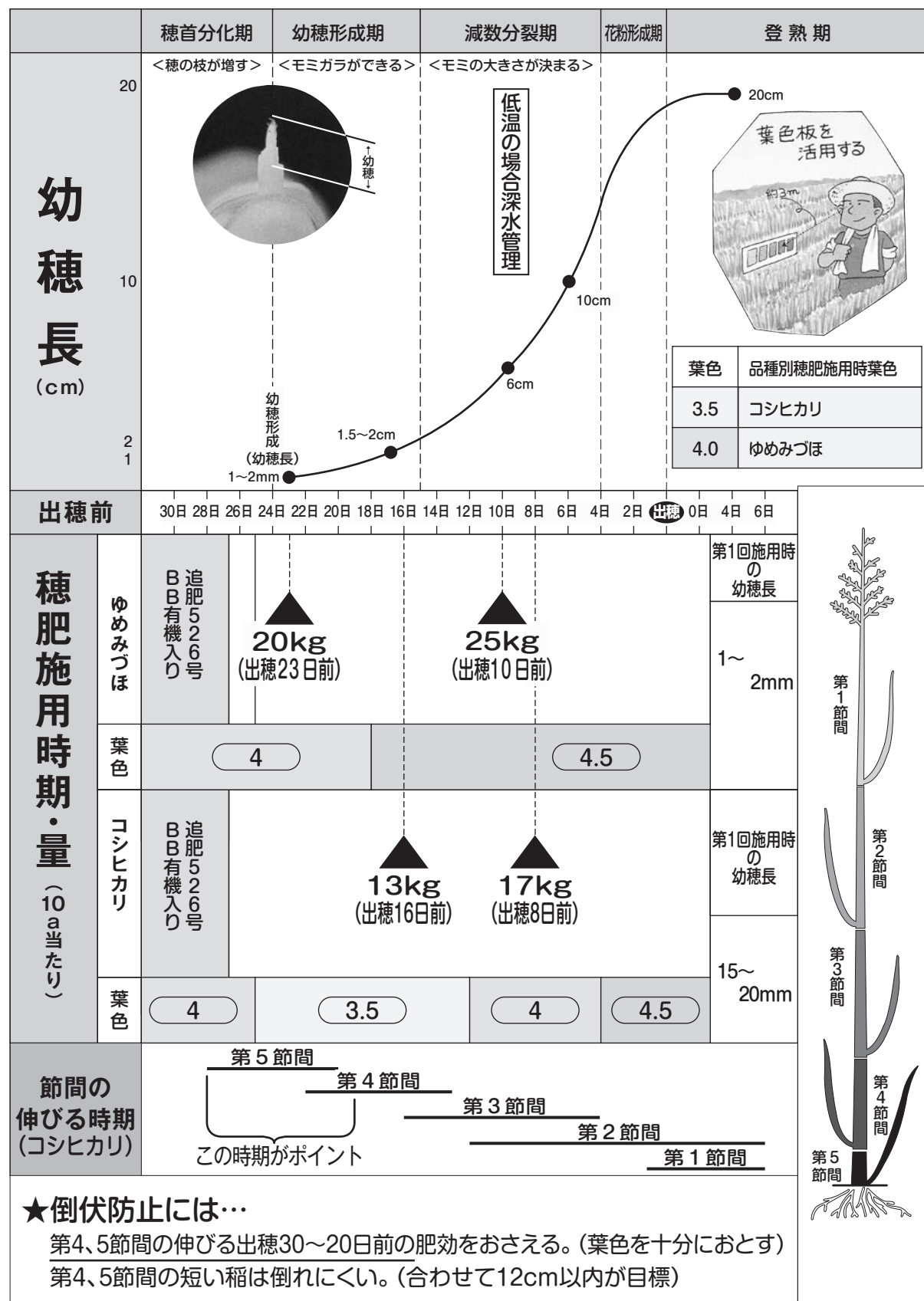
令和8年 6月		
～ 今月の1か月対策 ～		
中干し期間は約1か月間		
1	月	
2	火	
3	水	
4	木	
5	金	
6	土	
7	日	
8	月	
9	火	
10	水	
11	木	
12	金	
13	土	
14	日	
15	月	
16	火	
17	水	
18	木	
19	金	
20	土	
21	日	
22	月	
23	火	
24	水	
25	木	
26	金	
27	土	
28	日	
29	月	
30	火	



7月

## 適切な穂肥で高品質米生産を!!

## 穂肥の施用

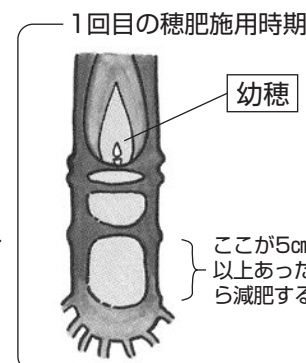


※葉色は、裏表紙の葉色見本を参考にして下さい。

## 穂肥施用時の注意点

## 1. 施用する前に、幼穂長と葉色を必ず確認

## 【幼穂の確認方法】

平均的な株の一番背の高い茎を  
根元から抜き取るカッターで  
茎のまん中を切る

## 2. 最終の穂肥は、出穂7日前までに

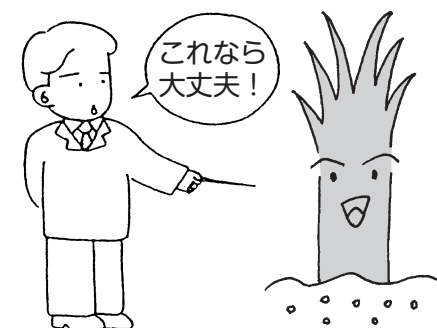
食味（玄米タンパク含有率）と穂肥（施肥窒素）には密接な関係があるので、施用する時期が遅いほど、また量が多いほど玄米中のタンパク含有率が高まり、食味が低下する。

## 3. 生育、地力に応じた施肥量、時期を判断

特にコシヒカリで茎数が多く葉色が濃い場合は、倒伏させないために1回目の穂肥の施肥時期を基準より遅らせたり、施肥量を減らすなどの対応が必要です。

## 稲の姿による診断

## 十分穂肥を施用できる稲



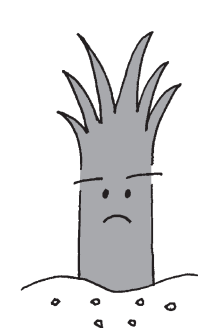
- ・茎揃いが良く、茎数少なめ
- ・稲が硬い
- ・葉色が淡く、直立ぎみ

## 穂肥を施用できない稲



- ・茎数が多い
- ・葉が垂れている
- ・葉色が濃い

## 穂肥時期を遅らせる稲



- ・茎揃いが良く、茎数少なめ
- ・直立ぎみの稲
- ・葉色が濃い

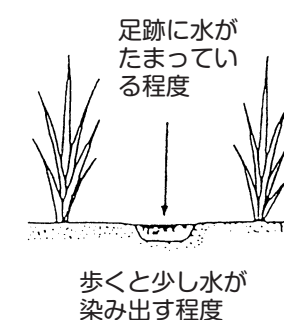
## 水管理

…飽水管理で高品質化

## ●中干し終了後の水管理

- 中干し後から刈取り5日前まで飽水管理に努め、常に土壤に水分を与え乾き過ぎないようにする。
- 穂ばらみ期に極端な低温が予想される場合は、深水管理とする。
- この時期は稲体の水分蒸散量が最も多くなるので、特に飽水管理を徹底する。
- 台風等によるフェーン現象時には、事前に通水する。
- 通水する場合、可能な限り夜間通水に努め、根の活力低下を防ぐ。

## ●飽水状態とは



出穂期とは…茎から穂の先端部が抽出することを出穂といいます。水田全体の40～50%が出穂した日が出穂期です。出穂10日前とは出穂期の10日前のことをいいます。

## 基幹防除

……きれいな金沢米づくりは防除の完全実施から……

〈粉剤体系〉  基幹防除  随時防除

	7 月			8 月	
	上 旬	中 旬	下 旬	上 旬	中 旬
ゆめみづほ	<div>出穂前20～10日 Zボルドー 粉剤DL 4kg／10a</div> <div>稲こうじ病</div>	<div>出穂前7～3日 ビームトレモン セレン粉剤DL 4kg／10a</div> <div>いもち病・紋枯病 カメムシ類他 (収穫21日前まで)</div>	<div>出穂後7～10日 ラブサイド スタークル粉剤DL 4kg／10a</div> <div>いもち病・カメム シ類・ウンカ類他 (収穫7日前まで)</div>	<div>出穂後14～17日 スタークル 粉剤DL 3kg／10a</div> <div>カメムシ類他 (収穫7日前まで)</div>	
コシヒカリ		<div>出穂前20～10日 Zボルドー 粉剤DL 4kg／10a</div> <div>稲こうじ病</div>	<div>出穂前7～3日 ビームトレモン セレン粉剤DL 4kg／10a</div> <div>いもち病・紋枯病 カメムシ類他 (収穫21日前まで)</div>	<div>出穂後7～10日 ラブサイド スタークル粉剤DL 4kg／10a</div> <div>いもち病 カメムシ類他 (収穫7日前まで)</div>	<div>出穂後14～17日 スタークル 粉剤DL 3kg／10a</div> <div>カメムシ類他 (収穫7日前まで)</div>

〈粒剤体系〉  基幹防除  随時防除

	7 月			8 月	
	上 旬	中 旬	下 旬	上 旬	中 旬
ゆめみづほ	<div>出穂前14～10日 イモチエース スタークル粒剤 3kg／10a</div> <div>いもち病・紋枯病 ウンカ類・カメムシ類 (収穫35日前まで)</div>		<div>出穂後7～10日 スタークル粒剤 3kg／10a または スタークル豆つぶ 250g／10a</div> <div>カメムシ類他 (収穫7日前まで)</div>		
コシヒカリ		<div>出穂前21～14日 モンガリット 粒剤 3kg／10a</div> <div>稲こうじ病 紋枯病・他 (収穫30日前まで)</div>	<div>出穂前14～10日 イモチエース スタークル粒剤 3kg／10a</div> <div>いもち病・紋枯病 ウンカ類・カメムシ類 (収穫35日前まで)</div>	<div>出穂後7～10日 スタークル粒剤 3kg／10a または スタークル豆つぶ 250g／10a</div> <div>カメムシ類他 (収穫7日前まで)</div>	

## ポジティブリスト制度に対応した農薬飛散防止対策を

水稻ほ場の近くに他の作物（なし、なす、きゅうり等）がある場合は、水稻の防除薬剤がこれらの作物にかからないように、飛散防止対策をとって下さい。

- ① 散布時の風力、風向き、散布機の圧力調整などに注意する。
- ② 飛散しにくい粒剤に切り替える。

## 異常発生時の防除

（随時防除）

（10a当たり）

対象病害虫	薬剤名	防除時期	使用量
紋枯病	リンバー粒剤	出穂14～10日前 (収穫30日前まで)	3～4kg
紋枯病 稲こうじ病	モンガリット粒剤	出穂14～10日前 (収穫30日前まで)	3～4kg
いもち病	ブラシン粉剤DL	発 生 時 (収穫7日前まで)	3～4kg
稲こうじ病	Zボルドー粉剤DL	出穂20～10日前	3～4kg
コブノメイガ	トレボン粉剤DL	多 発 時 (収穫7日前まで)	3～4kg

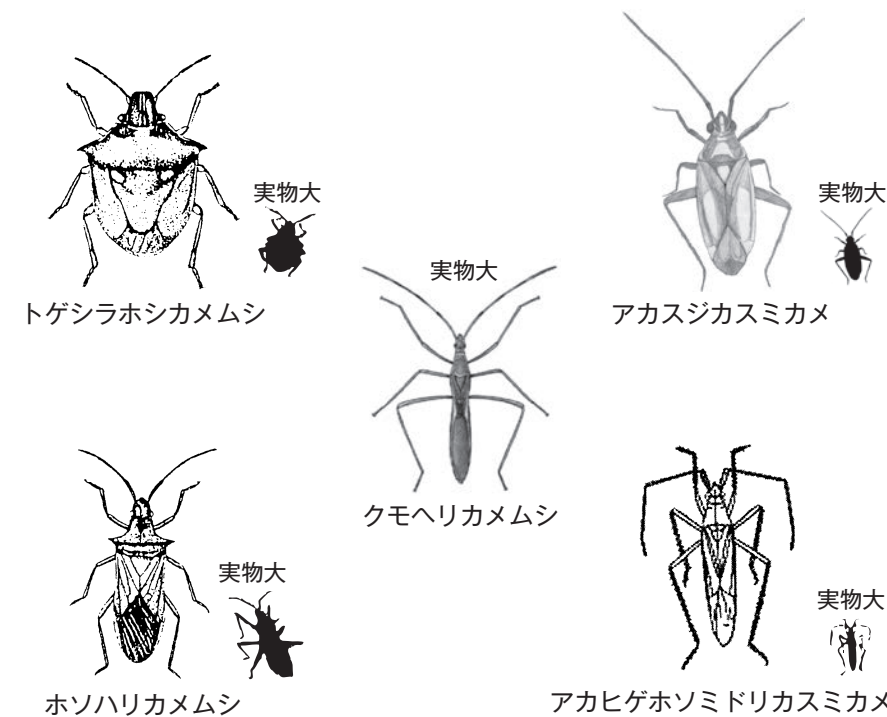
### 《稲こうじ病防除》

- 前年度、稲こうじ病の発生したほ場は必ずZボルドー粉剤DLを散布する。
- 発生したほ場では3年間継続して防除する。
- 穂ばらみ期に雨の多い場合は発生を助長するので、晴れ間をみて防除する。
- Zボルドー粉剤DLは薬害の恐れがあるため、出穂10日前以降の散布はしない。また、散布量(4kg／10a)を守り、均一に散布する。

## 追加除草の実施

カメムシの生息密度を下げるため、追加除草を実施する。

○畦畔・農道等の雑草は7月上旬にもう1回、追加除草を行う。



## 《農作業メモ》

令和8年 7 月

～ 今月の1か月対策 ～  
中干し後（幼穂形成期以降）から  
出穂までの約1か月間は飽水管理

1	水	
2	木	
3	金	
4	土	
5	日	
6	月	
7	火	
8	水	
9	木	
10	金	
11	土	
12	日	
13	月	
14	火	
15	水	
16	木	
17	金	
18	土	
19	日	
20	月	海の日
21	火	
22	水	
23	木	
24	金	
25	土	
26	日	
27	月	
28	火	
29	水	
30	木	
31	金	



# 8月

# きめ細かな水管理と防除の徹底できれいなお米!!

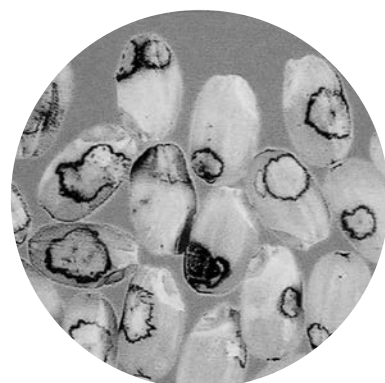
## カメムシ等害虫防除の徹底!!

### ◆粉剤散布の場合

防除時期	3回目防除	
	ゆめみづほ：8月上旬	コシヒカリ：8月中旬
薬剤名	スタークル粉剤DL	
使用量	3kg／10a	

### ◆粒剤散布の場合（粉剤散布できない所）

防除時期	ゆめみづほ：7月下旬	コシヒカリ：8月上旬
	スタークル粒剤 3kg／10a	スタークル粒剤 3kg／10a
使用量	または スタークル豆つぶ 250g／10a	



カメムシによる斑点米

### カメムシ粒剤防除におけるスタークル粒剤・豆つぶの使い方

- 散布適期…穂が出揃った時～穂が傾き始めた頃
- 散布方法…湛水状態（3～5cm）で均一に散布し、3～4日間は水の出し入れをしない。

## 品質向上のための水管理

- 刈取り5日前まで、飽水管理を継続する。
- 台風等によるフェーン現象時には、事前に通水する。
- 高温時は可能な限り、夜間の通水に努める。

気象条件 等  
日中の高温・高夜温  
(最高気温32℃以上、  
最低気温23℃以上)

+

水不足

乳白粒

胴割粒

品質・収量の低下

稲体の急激な消耗

出穂後の高温  
(平均気温27℃以上)  
成熟期の多照による  
急激な乾燥

乳白粒・胴割粒の発生を防止するために、きめ細かな水管理に努めましょう!!

## 適期刈取りで品質向上

- 籾数の85～90%が黄化した時期を目安とする(平年)。
- 出穂後の日数での目安

ゆめみづほ	34～38日頃
コシヒカリ	37～42日頃

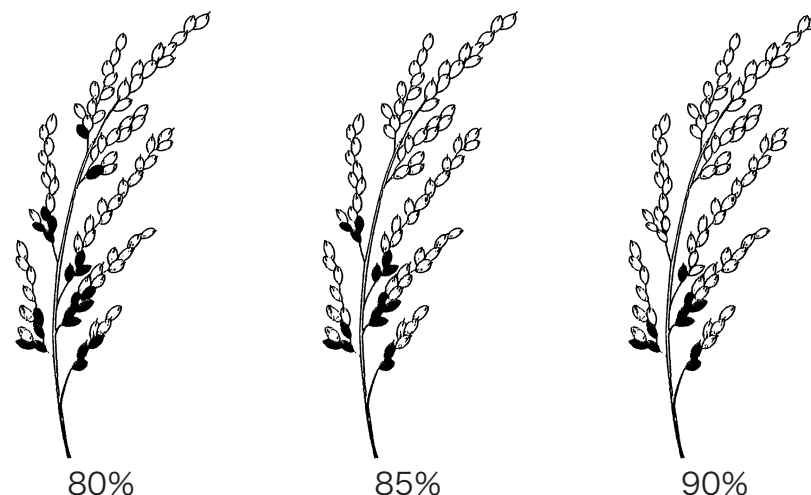
飽水管理で良好な稲体  
根元が健全であり、登熟も良い。



水不足の稲体  
根元が不健全であり、乳白粒や着色粒が発生しやすい。また、早期落水で胴割粒が発生しやすい。



## ☆籾黄化率の目安



## 〈刈取り適期の目安〉

籾黄化率

平 年	85～90%
高温年	80～85%

裏表紙に写真記載してありますので参考にして下さい。

- ◎最終防除後すみやかに、水稻生産履歴記録簿を提出しましょう。(営農ごよみ添付)

## 《農作業メモ》

令和8年 8月	
～ 今月の1か月対策 ～ 出穂から刈取直前までの1か月以上は ①乾かさない ②ずっと溜めない ③すぐ落とさない	
1	土
2	日
3	月
4	火
5	水
6	木
7	金
8	土
9	日
10	月
11	火 山の日
12	水
13	木
14	金
15	土
16	日
17	月
18	火
19	水
20	木
21	金
22	土
23	日
24	月
25	火
26	水
27	木
28	金
29	土
30	日
31	月

9月

適期収穫、適正な乾燥調製できれいなお米！！

## ◆万全な仕上げ6つのポイント

仕上乾燥は、ゆっくりと  
行う（毎時0.8%以下の  
乾減率が最適）▼

粳すりをしていねいに行う▼

穀温が常温に戻って  
から粳すりをする▼

胴割米防止

粳混入防止

肌ズレ米防止

整粒歩合向上

ライスグレーダーの網目は  
1.90mm以上（LL網）。  
適正流量を守ろう！！▼

未熟米防止

過乾燥米防止

▲  
ライスグレーダーの網  
目は品種に応じたもの  
を使用する  
粳すり機的能力に合わ  
せ、適正流量で流す

仕上げ水分は15%を  
目標とする▼

お米は、全量JAに出荷しましょう。

## 乾 燥

- ・生粳は3時間以内に乾燥する。
- ・水分計の調整・点検は事前に行う。
- ・水分測定はこまめに行い、水分過多・過乾燥にならないよう15.0%（14.5～15.0%）に仕上げる。
- ・もち米は、一旦17%程度の状態で5～8時間おいてから、15%に仕上げる2段乾燥を行う。
- ・急激乾燥や高温乾燥は胴割米の発生原因になるので注意する。

## 粳 す り

- ・肌ズレ米は、2度すり・水分過多・粳温が高いときに発生し易くなるので注意する。
- ・粳すり前の水分点検や機械の調整（ロール間隔・選別部）を行う。また、水分計の事前点検も必ず行う。
- ・品種にあった適正網目のライスグレーダーを使い、整粒歩合を80%以上に調製する。

網目	サイズ	品 種 名
LL	1.90mm	コシヒカリ、ゆめみづほ、もち類

※例年、もみ混入が目立ちます。調製はじめは、もみの混入が多いため、確認して多い場合は、最初の1袋に関しては、2度摺りを行って下さい。調製中は、2～3袋に1回はもみ混入の確認を行って下さい。

## 出 荷

- ・包装は正しく行うこと。しっかり縛らないと、破袋・荷崩れの原因になる。また記載事項は明確に記入する。
- ・生産年度の訂正はできないので注意する。
- ・JAに出荷される場合は、皆掛け重量（30.5kg）の量目不足にならないように調整する。
- ・くず米、規格外米も全量JAに出荷しましょう。

## 注意！！

稲わら等の「野焼き」は原則として禁止されています。  
やむを得ず焼却する場合は最寄りの消防署へ連絡してください。

問い合わせ先:最寄りの消防署、または金沢市農業水産振興課 220-2213  
金沢市ごみ減量推進課 220-2302

## 《農作業メモ》

令和8年 9月

1	火	
2	水	
3	木	
4	金	
5	土	
6	日	
7	月	
8	火	
9	水	
10	木	
11	金	
12	土	
13	日	
14	月	
15	火	
16	水	
17	木	
18	金	
19	土	
20	日	
21	月	敬老の日
22	火	国民の休日
23	水	秋分の日
24	木	
25	金	
26	土	
27	日	
28	月	
29	火	
30	水	



# 異品種・異物混入防止を徹底しましょう

石川の米をご愛顧いただく

消費者・取引先の

信頼に応えていくために

使用前、品種が変わる際、使用後には

コンバイン・乾燥機・粳すり機を清掃し

異品種や異物の混入を防止しましょう

## 作業をする際の注意点

### コンバイン

- 必ずエンジンを停止し、メインスイッチキーを抜いてください
- エンジン、マフラーが冷えてから作業してください
- 取り外したカバー類は、必ず元の位置に取り付けてください

### 乾燥機

- 必ず元電源のコネクタを抜いてください
- はずしたカバー、点検フタは、必ず元どおりに取り付けてください

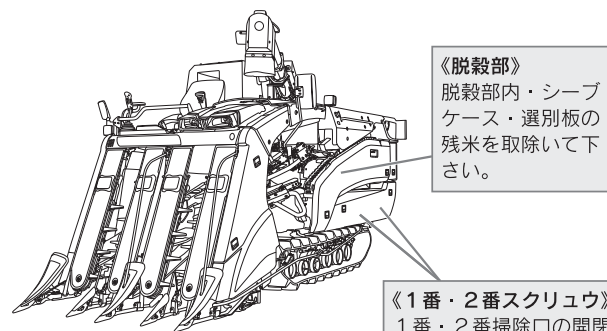
### 粳すり機

- 各部の掃除は、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてから行ってください
- はずしたカバー、点検フタは、必ず元どおりに取り付けてください

# 適正な乾燥・調製を行いましょ

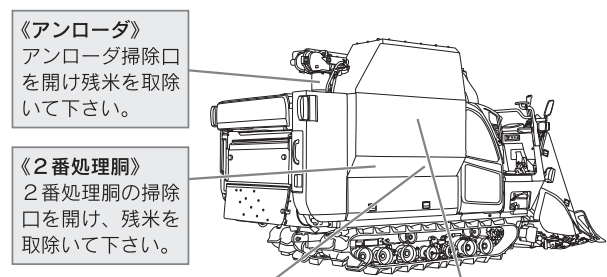
- 玄米水分値は、14.5～15.0%に仕上げましょう
- 選別機の網目は、LL 網（1.90mm）以上を使い、適正な流量で調製しましょう

## コンバイン



《脱穀部》  
脱穀部内・シーブケース・選別板の残米を取除いて下さい。

《1番・2番スクリュウ》  
1番・2番掃除口の開閉レバーを開いて残米を取除いて下さい。



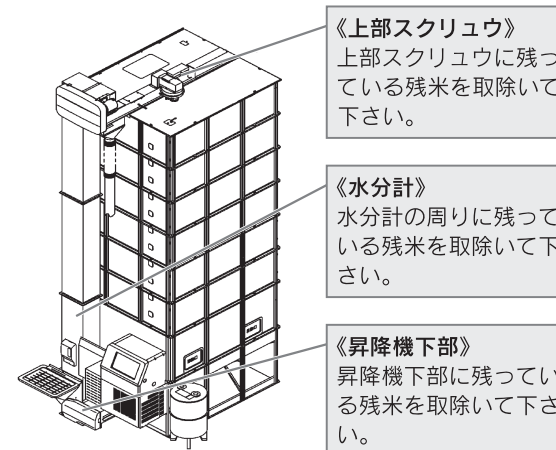
《アンローダ》  
アンローダ掃除口を開け残米を取除いて下さい。

《2番処理胴》  
2番処理胴の掃除口を開け、残米を取除いて下さい。

《2番縦スクリュウ》  
2番縦スクリュウの掃除口を開け残米を取除いて下さい。

《グレンタンク内》  
グレンタンク内に残っている残米を取除いて下さい。

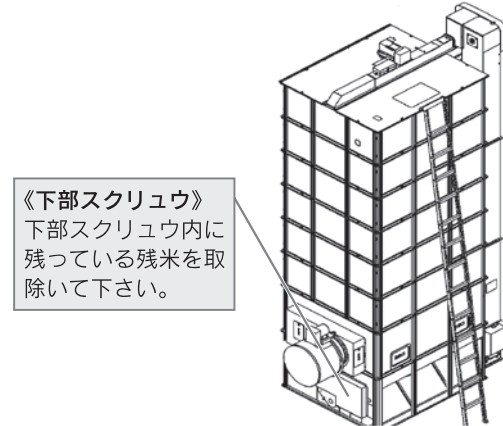
## 乾燥機



《上部スクリュウ》  
上部スクリュウに残っている残米を取除いて下さい。

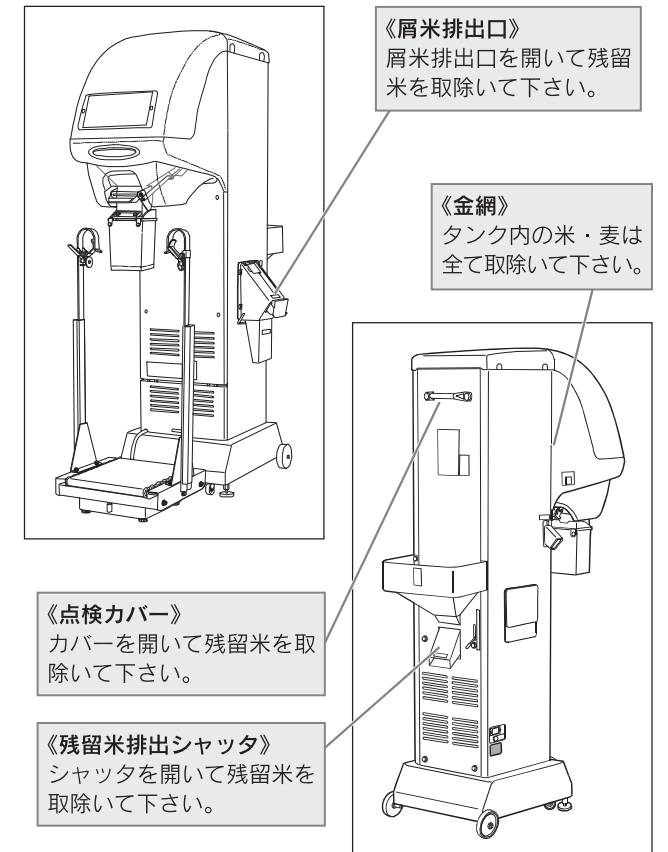
《水分計》  
水分計の周りに残っている残米を取除いて下さい。

《昇降機下部》  
昇降機下部に残っている残米を取除いて下さい。



《下部スクリュウ》  
下部スクリュウ内に残っている残米を取除いて下さい。

## 選別計量機



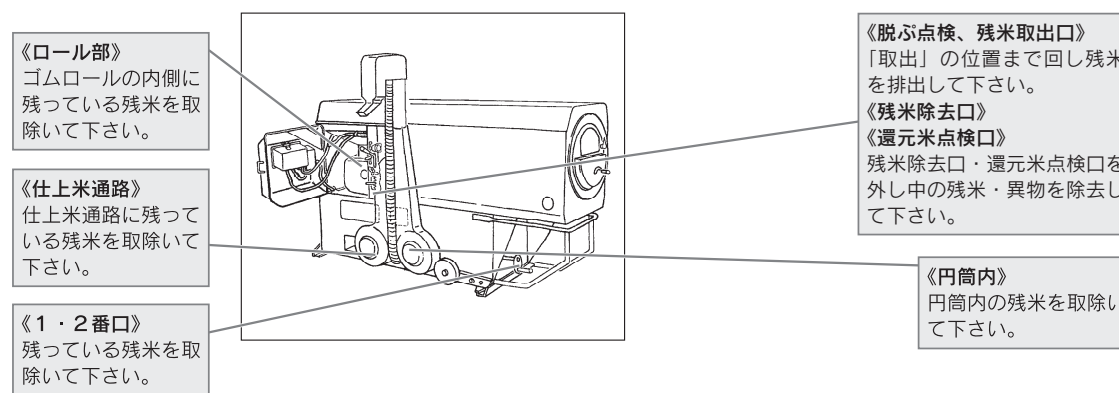
《屑米排出口》  
屑米排出口を開いて残留米を取除いて下さい。

《金網》  
タンク内の米・麦は全て取除いて下さい。

《点検カバー》  
カバーを開いて残留米を取除いて下さい。

《残留米排出シャッタ》  
シャッタを開いて残留米を取除いて下さい。

## 粳すり機（回転式）



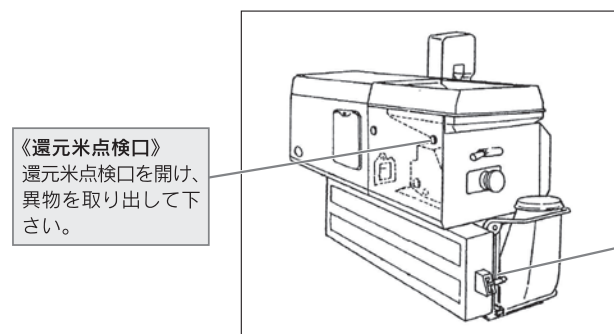
《ロール部》  
ゴムロールの内側に残っている残米を取除いて下さい。

《仕上米通路》  
仕上米通路に残っている残米を取除いて下さい。

《1・2番口》  
残っている残米を取除いて下さい。

《脱ぶ点検、残米取出口》  
「取出」の位置まで回し残米を排出して下さい。  
《残米除去口》  
《還元米点検口》  
残米除去口・還元米点検口を外し中の残米・異物を除去して下さい。

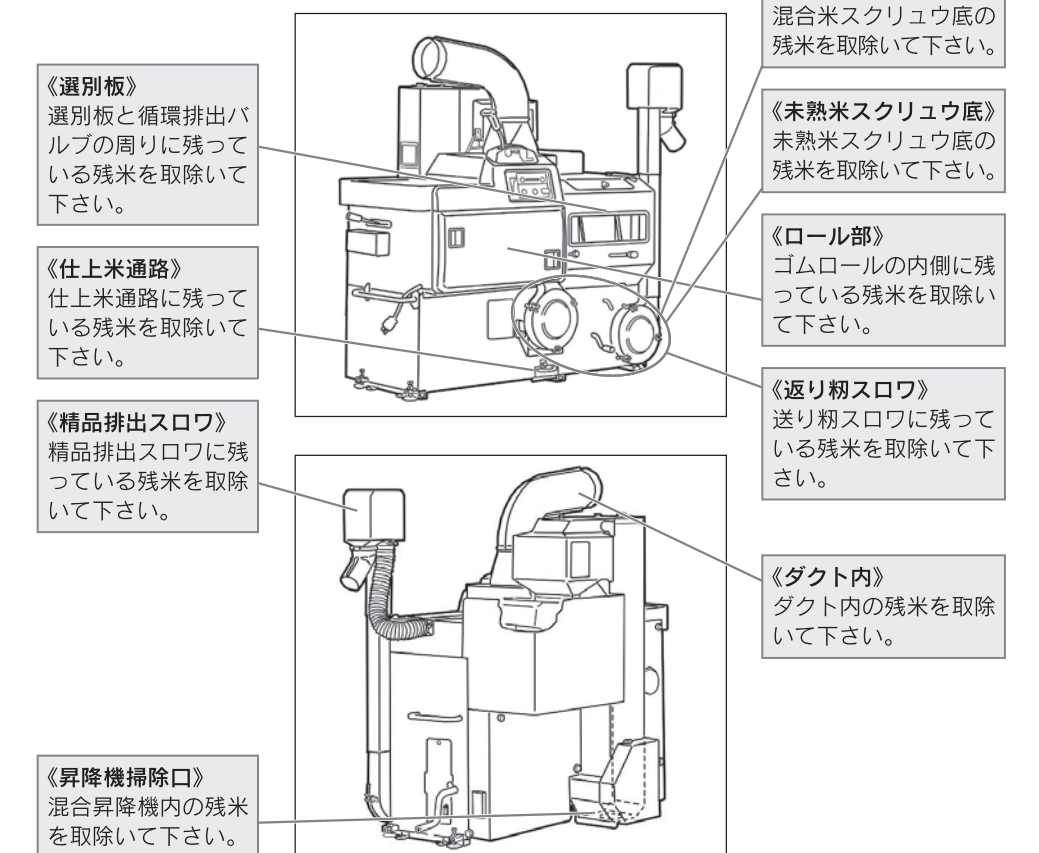
《円筒内》  
円筒内の残米を取除いて下さい。



《還元米点検口》  
還元米点検口を開け、異物を取り出して下さい。

《ラセン底開閉レバー》  
ラセン底開閉レバーを回転させ、「取出」の位置にしてください。

## 粳すり機（揺動式）



《選別板》  
選別板と循環排出バルブの周りに残っている残米を取除いて下さい。

《仕上米通路》  
仕上米通路に残っている残米を取除いて下さい。

《精品排出スロワ》  
精品排出スロワに残っている残米を取除いて下さい。

《昇降機掃除口》  
混合昇降機内の残米を取除いて下さい。

《混合米スクリュウ底》  
混合米スクリュウ底の残米を取除いて下さい。

《未熟米スクリュウ底》  
未熟米スクリュウ底の残米を取除いて下さい。

《ロール部》  
ゴムロールの内側に残っている残米を取除いて下さい。

《返り粗スロワ》  
送り粗スロワに残っている残米を取除いて下さい。

《ダクト内》  
ダクト内の残米を取除いて下さい。

# 米づくりの基本は土づくり!!

## 翌年産の米づくりのスタートは土づくりから！

金沢全域で土壌分析を実施した結果、全域で土壌の保肥力を高める腐植や、生育に重要なリン酸が不足しています。また、稲体を強くするために必要なケイ酸分も不足しています。これら不足成分を補うため、土づくりを実践し良質米競争に打ち勝ちましょう！！

土づくりの基本は、稲わらの全量還元と土づくり資材の秋施用です。  
下記の図表を参考に積極的に継続して取り組もう!!

土壌分析の結果、良質米生産に重要な腐植・有効態リン酸・有効態ケイ酸・遊離酸化鉄が下記マップのとおり不足しています。

\*Aランク ☐

現時点では目標値を上回っている地区  
(金沢市街、粟五、大野は除く)

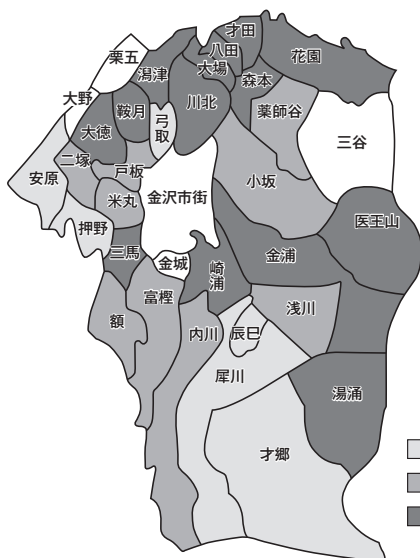
\*Bランク ☐

不足している地区

\*Cランク ☐

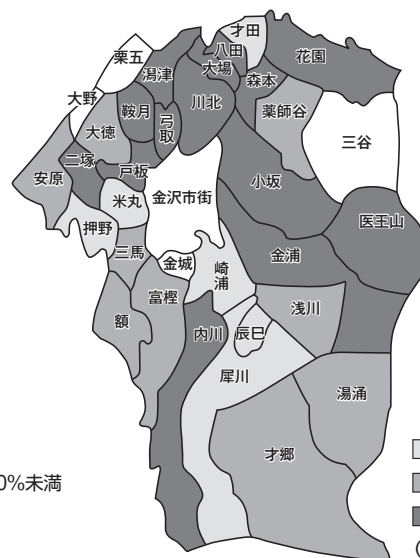
極端に不足している地区。早急に補給が必要。

## 〈腐植〉



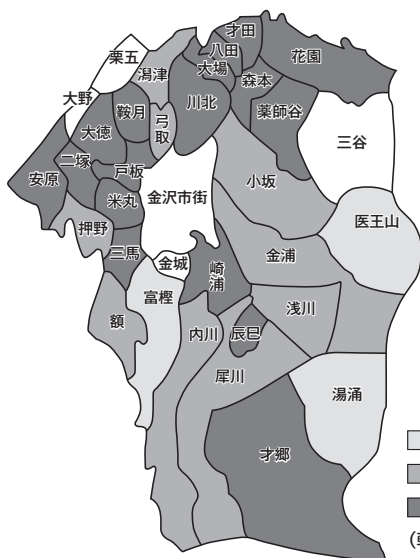
☐ Aランク 3.0%以上  
☐ Bランク 2.5%以上 3.0%未満  
☐ Cランク 2.5%未満

## 〈有効態リン酸〉



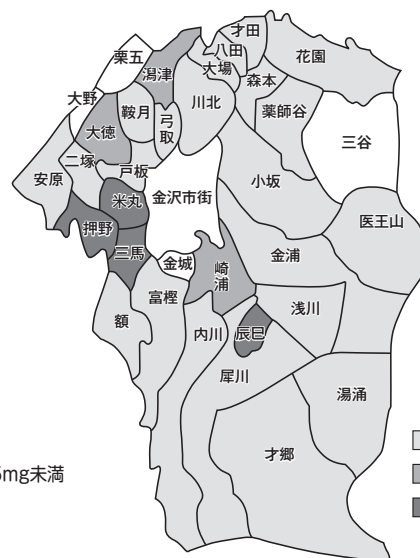
Aランク 20mg以上  
 Bランク 15mg以上 20mg未満  
 Cランク 15mg未満  
 (乾土100g中)

## 〈有効態ケイ酸〉



Aランク 25mg以上  
 Bランク 20mg以上 25mg未満  
 Cランク 20mg未満  
 (乾土100g中)

### 〈遊離酸化鉄〉



Aランク 0.8%以上  
 Bランク 0.5%以上 0.8%未満  
 Cランク 0.5%未満

(令和6年度 分析点数155点)

**土づくりを継続して実施しましょう!!**

※秋に施用し秋耕すること。できない場合は春施用しましょう。

	地 区 名	土づくり資材
腐植重点地区	鞍月、医王山、花園、湯津、金浦、才田、崎浦、三馬、森本、川北、大場、大徳、湯涌、八田	コンポストエース 100kg/10a
リン酸重点地区	鞍月、医王山、花園、湯津、弓取、金浦、戸板、小坂、森本、川北、大場、内川、二塚、八田	BB良米健土 60kg/10a または BBひゃくまん馬力 60kg/10a
ケイ酸重点地区	安原、鞍月、花園、戸板、才郷、才田、細田、崎浦、三馬、森本、川北、大場、大徳、辰巳、二塚、八田、米丸、薬師	BBスーパーけい酸 60kg/10a または BB良米健土 60kg/10a または BBひゃくまん馬力 60kg/10a
遊離酸化鉄重点地区	押野、三馬、辰巳、米丸	BB 鉄腕ソイル 60kg/10a

## 土づくり対策

### (1) 有機物の還元・土づくり資材の秋施用

①稲わらは燃やさず、全量すき込む。

(10a分の稲わらは、堆肥1トンに相当します)

※稲わらの腐熟促進に、アグリ革命2kg/10aを同時施用すると効果的です。

## ②土づくり資材等の10a当たり施用の目安

資材名	基本施用量	備 考
BB スーパーけい酸 (リン酸・ケイ酸)	60kg	ケイ酸分は、稲体に吸収されやすいケイ酸を含んでいますので、茎・葉・根を丈夫にし耐倒伏性、耐病性を増大する効果があります。
BB パワフル大地 (リン酸・ケイ酸・腐植酸)	60kg	腐植酸・リン酸・ケイ酸・加里・苦土をバランスよく配合しており、10a当たり60kg（3袋）の施用で、堆肥150kg相当の効果が得られる省力施肥型水稻土づくり肥料
BB 鉄腕ソイル (ケイ酸・鉄)	60kg	高溶出（可溶性）ケイ酸を含むほか、鉄を多く含みガス湧きから根を保護するので「秋落ち現象」を予防します。
ようりん (リン酸・ケイ酸)	60kg	土壌の酸性をゆるやかに矯正する。根張りをよくし初期生育の促進、また有効分けつを多くする。健全な稲を育て多収の効果がある。
ケイカル (ケイ酸・カルシウム)	100kg	茎や葉がかたくなり、節間が徒長しないで倒伏しにくくなる。下葉の枯れ上がりが少なくなり登熟がよくなる。病害虫に対して強くなる。根が強くされ、秋落ちを防ぎます。
アグリ革命	2kg	稲わらを腐熟化し、地力の増強に役立たせます。ワラエースの代替品

## (2) 秋耕と排水対策

①有機物、土づくり資材施用後、速やかに耕起(5cm程度の浅耕)する。

②稲わら等有機物の分解を促進するため、排水溝を設置し、ほ場内に水が溜まらないようにする。

環境に配慮して、稲わら等は燃やさないようにしましょう。

## 《農作業メモ》

令和8年 10月

1	木	
2	金	
3	土	
4	日	
5	月	
6	火	
7	水	
8	木	
9	金	
10	土	
11	日	
12	月	スポーツの日
13	火	
14	水	
15	木	
16	金	
17	土	
18	日	
19	月	
20	火	
21	水	
22	木	
23	金	
24	土	
25	日	
26	月	
27	火	
28	水	
29	木	
30	金	
31	土	

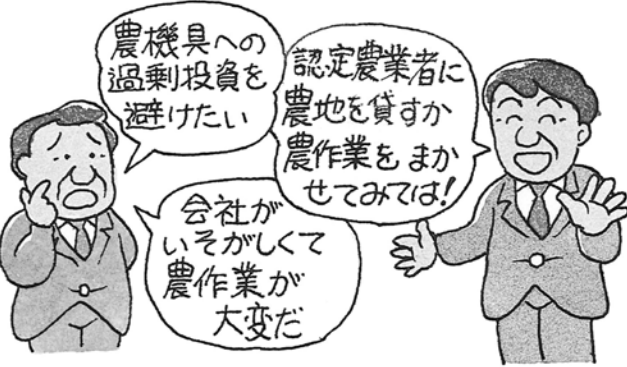


# 明日の農業をめざして、農地の有効利用を応援します

(参考)  
令和7年度 農作業基本料金 (平坦地基準) アグリサポートセンター

区 分		金額(円) 消費税込	備 考
☆ 荒 起 し		6,600	10a当たり
☆ 代 か き		8,800	10a当たり
☆ 田 植	普 通	9,350	10a当たり(肥料・農薬を同時散布しない田植のみ単価)
	側 条	10,450	10a当たり(肥料を同時散布する単価)
苗 運 搬		66	1箱当たり
箱 洗 い ・ 乾 燥		55	1箱当たり
散布作業(防除、施肥)		2,200	10a当たり(農薬、肥料、資材は実費負担が必要です)
散布作業(防除)		11,000	10a当たり(薬剤等は実費負担が必要です ほ場内からの動力噴霧機による散布単価)
☆コンバイン刈取り		24,200	10a当たり
ば ら 粳 運 搬		2,970	10a当たり(ライスセンターへの粳搬入)
機 械 畦 塗 り		8,800	100m当たり(四隅は塗れません)
除 草 剤 散 布		13,200	10a当たり(畦畔、農道は散布できません)
草刈(手作業)		16,500	10a当たり(刈払による作業)
		33,000	10a当たり(作業難易度が高い場合)
草刈(乗用機械)		11,000	10a当たり(運搬費として、別途5,500円(税込)が必要です)

注・☆印の作業については、ほ場条件等によって割増料金をいただきます。  
・作業機械(トラクター、田植機、コンバイン等)の運搬代金として、別途5,500円(税込)が必要です。



## ほ場条件による割増

▼面積によるもの

区画の大きさ	加算率
4a～5a未満	30%
4a未満	50%

▼作業難易度によるもの

区 分	加算率
A	20%
B	35%
C	50%

# 稲作作業省力化を目指して！

## JAが提案する今後の稲作省力体系

肥料施用	従 来	基肥 → 田植 → 穂肥① → 穂肥② →
	省 力	一発肥料 田植同時 →
水稻除草	従 来	田植 → 一発除草剤 →
	省 力	一発除草剤 田植同時 →
防除散布	従 来	播種 → 田植 → 初期害虫 → いもち予防 → 基 幹 防 除
	省 力	長期箱薬剤 田植前処理 → 田植 → 基 幹 防 除
		長期箱薬剤 播種時処理 → 基 幹 防 除

## 施肥省力化

- ①基肥施用  
田植同時側条施肥機による、基肥一発肥料施用(基肥一発肥料は、穂肥施用を省力化します。)
- ②省力土づくり資材  
BB パワフル大地…10a当たり60kg(3袋)施用で、堆肥150kg相当の効果が得られます。
- ③水稻育苗マット  
育苗箱の軽量化(特に田植時の運搬労力軽減)

## 畦畔除草の省力化

- カソロン粒剤6.7の秋冬散布により畦畔の長期抑草が図れます。
- ・ザクサ液剤+ダイロンゾルの混用  
ザクサ液剤のすばやく枯らす力とダイロンゾルの再生を抑える力で長期抑草防除が図れます。これにより、夏場の除草から解放され、カメムシ被害の軽減にもつながります。



カソロン粒剤6.7散布風景



直播のは種作業

## 直播栽培

苗づくり、苗の運搬等が省けます。

## 除草剤散布省力化

田植同時除草剤散布機による除草剤の散布

散布方法	散布機名	区分	主な処理可能除草剤名	規格
粒剤散布	こまきちゃん 及び イノベーター	初・中期一発剤	サラブレッドGO1キロ粒剤	1kg・10kg
			アシュラ1キロ粒剤	1kg・10kg

※田植機によって取付け出来ない散布機がありますので、JAにご相談下さい。  
※散布機及び除草剤によって開度が異なりますので、JAにご確認下さい。

## 防除省力化

- ①田植同時箱施薬剤施用  
専用散布機(箱まきちゃん)による箱施薬剤の田植同時処理
- ②基幹防除の粒剤散布処理(動散で一人で処理可能、粉剤処理不可能地区)  
〈紋枯病・いもち病・ウンカ類・カメムシ類〉……………イモチエーススタークル粒剤  
〈カメムシ類〉……………スタークル粒剤
- ③基幹防除の豆つぶ散布処理(動散を使わずに、畦から手またはひしゃくで散布可能。)  
〈カメムシ類〉……………スタークル豆つぶ



田植同時除草剤散布

# BB肥料側条基肥開度目安表

1. 調節は肥料を入れる前に行い、開度は最初小さめに設定し、多肥にならないよう注意してください。
2. この開度はあくまでも目安を示したもので、車輪のスリップ率などにより施肥量が変わりますので、実際に施肥作業を行い、施肥量を確認し、目標に合うよう再度施肥量を調整してください。

主なBB水稻基肥側条銘柄の仮比重

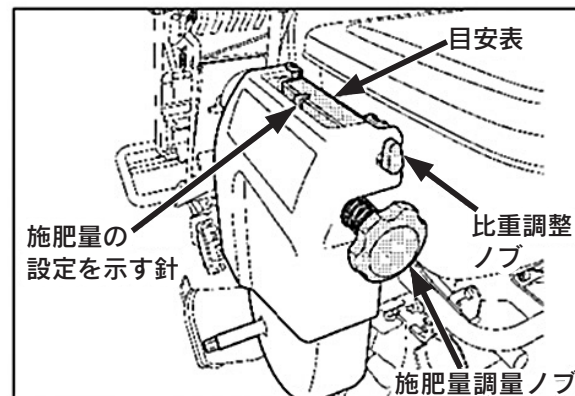
対象銘柄	仮比重	目安表での参照
BB コシー発くんDX24	0.85	各コシー発くん
BB コシー発くんNEO β	0.85	
BB 新コシー発くん特号	0.92	
BB けい酸パワー・コシー発くん	0.96	
BB けい酸アップ・コシー発くん	0.91	
BB 有機入り820号（みさと）	0.83	各コシ基肥
BB いしかわ有機入り056号	0.90	
BB 早生一発くんDX28	0.84	早生一発くん
BB 早生一発くんNEO	0.85	
BB スリム早生一発くん	0.84	
BB 有機入りコシー発くん	0.80	有機入りコシー発くん
BB 003-40号（側条用）	0.95	側条用003-40号

※「基肥一発肥料」は、樹脂でコーティングした肥料を配合しているため、一般の肥料に比べ粒径は大きく、仮比重が小さくなっています。そのため側条施肥の場合、開度調整に注意が必要です。全量一括施肥という特性も踏まえ、必ず目盛りと実際の施肥量をチェックしてください。

## クボタ田植機用

■機種名 WDシリーズ、EPシリーズ、ZPシリーズ

■開度調節ツマミ



比重区分ラベル

10回転 繰出し量(g)	~359	360~420	421~
使用目盛り	区分(比重) 小	区分(比重) 標準	区分(比重) 大

施肥量調節目安表

10回転 繰出し量(g)	~359	360~420	421~
使用目盛り	区分(比重) 「小」	区分(比重) 「標準」	区分(比重) 「大」
	70	75	85
	65	70	80
	60	65	75
	55	60	70
	50	55	65
	45	50	60
	40	45	55
	35	40	50
	30	35	45
	25	30	40
	20	25	35
	15	20	30
	10	15	25
	5	10	20
	0	5	15
	施肥量 (kg/10a)	施肥量 (kg/10a)	施肥量 (kg/10a)

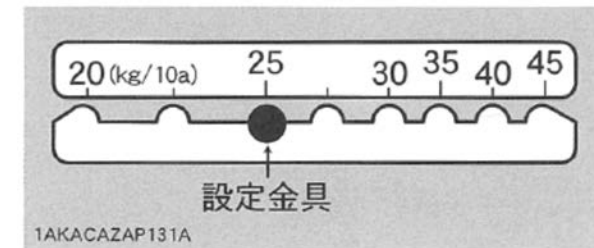
■開度目安

各コシー発くん、各コシ基肥、早生一発くん、有機入りコシー発くん、側条用003-40号  
→比重区分を「区分(比重)小」に合わせ、施肥量を調整する。

## クボタ田植機用

■機種名 SPUタイプ、SPDタイプ、NSUタイプ、WPタイプ

■開度調節ツマミ



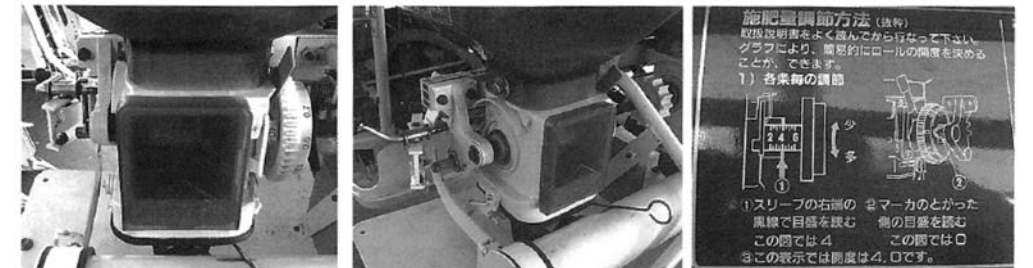
■開度目安

各コシー発くん、各コシ基肥、早生一発くん、有機入りコシー発くん、側条用003-40号  
→ふたつ多めの目盛を使用 (例) 25kg/10a施肥の場合、30の目盛を使用

## クボタ田植機用

■機種名 SPA(ミッド施肥)タイプ

■開度調節ツマミ



■開度目安表 ~10a当たり施肥量(kg)の目安~

●60株の場合

ロール開度	駆動ロッドA								駆動ロッドB			
	2.5	3.0	3.5	4.0	4.5	5.0	5.5	6.0	3.5	4.0	4.5	5.0
標準	17	21	24	28	31	35	39	42	41	48	54	60
各コシー発くん 各コシ基肥 早生一発くん 有機入りコシー発くん 側条用003-40号	14	16	19	21	24	28	30	32	32	37	42	48

●50株の場合

ロール開度	駆動ロッドA								駆動ロッドB			
	2.5	3.0	3.5	4.0	4.5	5.0	5.5	6.0	3.5	4.0	4.5	5.0
標準	15	18	21	24	27	30	33	36	36	41	46	53
各コシー発くん 各コシ基肥 早生一発くん 有機入りコシー発くん 側条用003-40号	12	13	16	18	20	23	25	27	27	31	35	40

※標準は田植機に記載の標準的な開度目盛

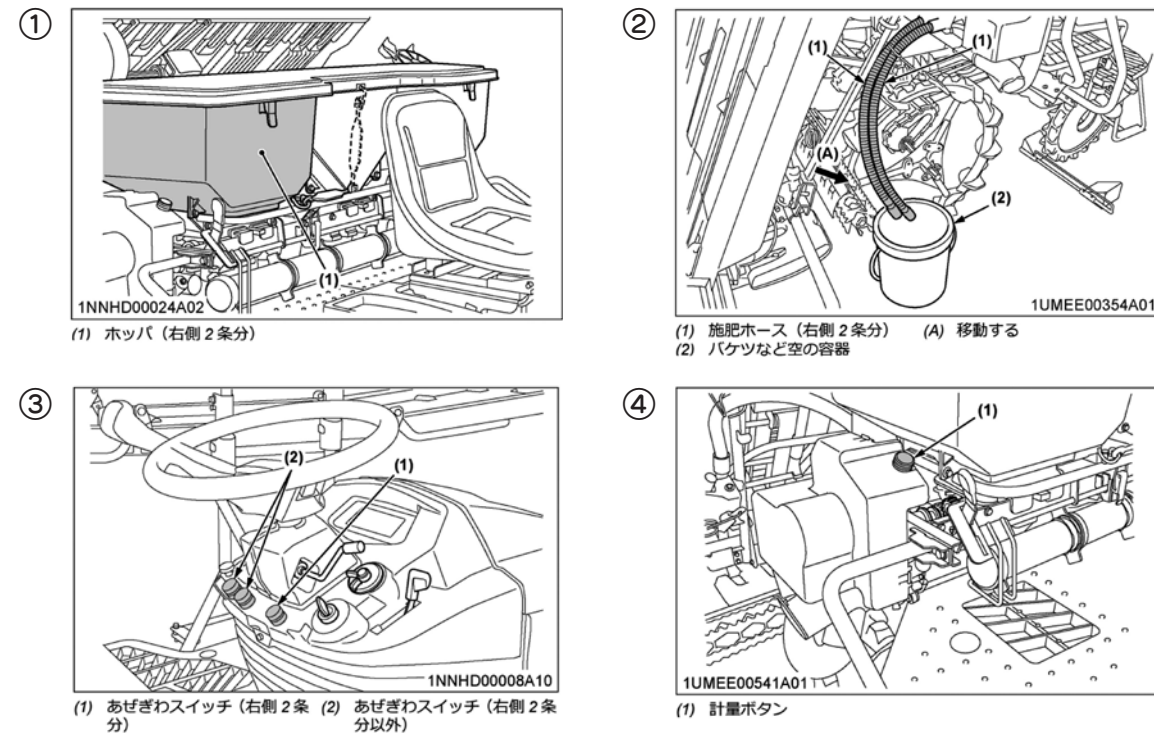


# クボタ田植機用

■機種名 NWシリーズ

## ■施肥量調節

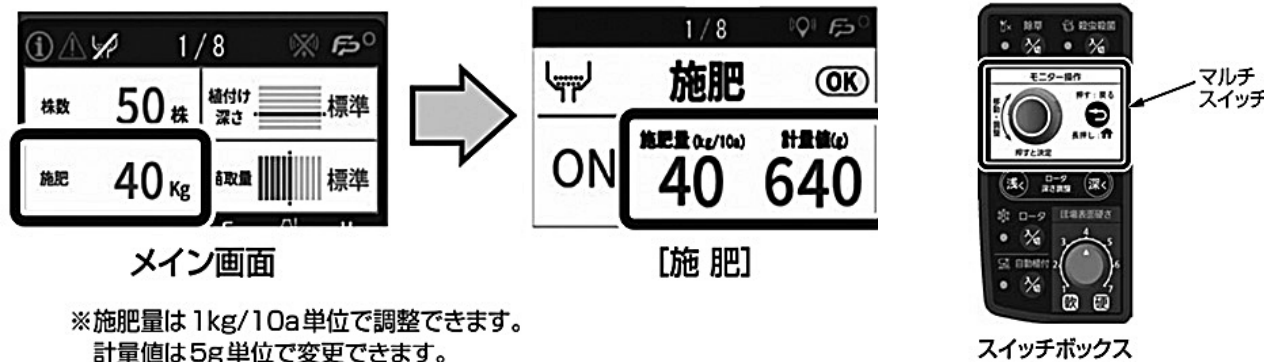
- 計量**
- ①平たんな場所に機械を止め、植え付け部を最上昇位置から少し下げた位置でエンジン停止。
  - ②右側2条分(ブローと反対側)のホッパ内に肥料を入れ、施肥ホースを取り外しバケツ等空の容器に移動。
  - ③エンジンを始動し、右側のあぜぎわスイッチのみ「入」(ライト点灯)状態にします。
  - ④ホッパ右側にある計量ボタンを押すと、施肥ホースから肥料が排出されます。  
※1回目の計量データはロールの溝に肥料が十分に溜まっていない恐れがあるので、2回目の計量データを参照することを推奨します。



計量方法の詳細につきましては、取り扱い説明書の「施肥量調節」の項目をご覧ください。

## 施肥量設定

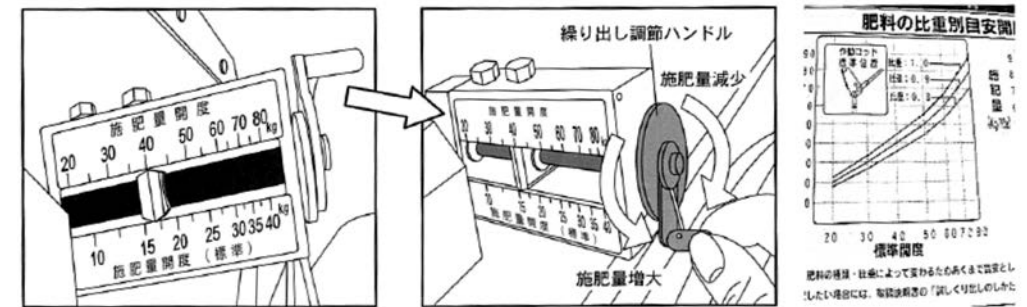
パネルのメイン画面「施肥」の項目を選択いただき、計量結果と施肥量を入力してください。



# クセキ田植機用

■機種名 PG53/63/73/83、PZ50/60/70/80/100

## ■開度調節ツマミ (田植機の背中にツマミがある)



■開度目安表 ~10a当たり施肥量(kg)の目安~

●60株/50株の場合

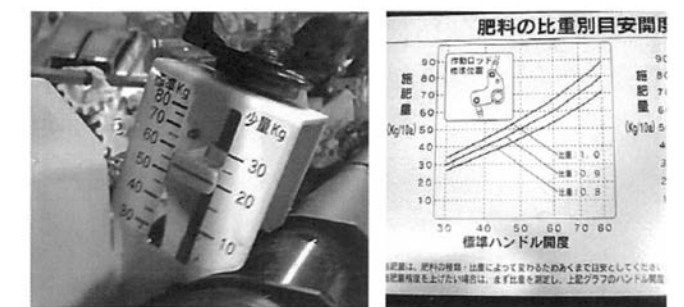
施肥量開度(kg)	20	25	30	35	40	45	50	55	60
標準	20	25	30	35	40	45	50	55	60
各コシ一発くん 各コシ基肥 早生一発くん 有機入りコシ一発くん 側条用003-40号	17	20	23	27	31	36	40	44	48

※標準は田植機に記載の標準的な目盛(作動ロッドは標準位置)

# クセキ田植機用

■機種名 PQ4/5、PQZ4/5

## ■開度調節ツマミ (田植機の背中に開度調節ツマミがある)



■開度目安表 ~10a当たり施肥量(kg)の目安~

●60株/50株の場合

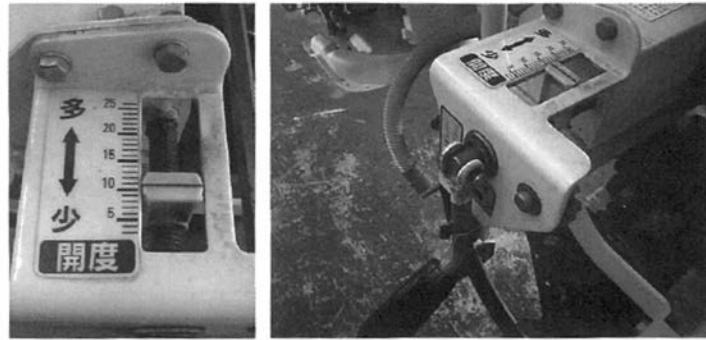
施肥量開度(kg)	作動ロッド少量位置		作動ロッド標準位置						
	20	25	30	35	40	45	50	55	60
標準	20	25	30	35	40	45	50	55	60
各コシ一発くん 各コシ基肥 早生一発くん 有機入りコシ一発くん 側条用003-40号	20	25	29	34	39	44	49	54	58

※標準は田植機に記載の標準的な目盛(30kg/10a以下で施肥する場合は作動ロッドを少量位置に切替えて作業してください)

## ワセキ田植機用

■機種名 PA(F1)53／63／83、PG(F1)5／6／8

■開度調節ツマミ  
(田植機のサイドに  
開度調節ツマミがある)



■開度目安表 ～10a当たり施肥量(kg)の目安～

●60株の場合

開度(mm)	4	6	8	10	12	14	16	18
標準	14	19	21	26	33	39	44	47
各コシ一発くん 各コシ基肥 早生一発くん 有機入りコシ一発くん 側条用003-40号	15	20	24	27	30	33	36	39

●50株の場合

開度(mm)	4	6	8	10	12	14	16	18
標準	13	17	20	24	27	30	35	38
各コシ一発くん 各コシ基肥 早生一発くん 有機入りコシ一発くん 側条用003-40号	13	17	20	23	25	28	30	33

※標準は田植機に記載の標準的な目盛(比重0.9未満の肥料)

## ワセキ田植機用

■機種名 NPシリーズ、PRシリーズ(ガソリン仕様)

■開度調整ツマミ



■開度目安表 ～10a当たり施肥量(kg)の目安～

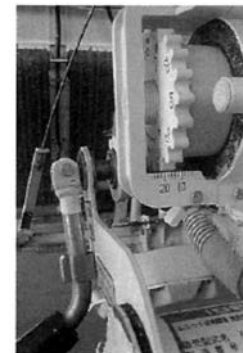
●60株／50株の場合

開度	開度								
	30	35	40	45	50	55	60	65	70
標準	30	35	40	45	50	55	60	65	70
BB各一発	24	28	32	36	41	45	49	53	57
BB分施肥	28	32	37	41	46	51	55	60	64

## ワセキ田植機用

■機種名 PA50／60／80、PG(MF)5／6／8

■開度調節ツマミ  
(田植機のサイドに  
開度調節ツマミがある)



■開度目安表 ～10a当たり施肥量(kg)の目安～

●60株の場合

開度(mm)	10	12	14	16	18	20	22
標準	25	30	35	40	45	50	54
各コシ一発くん 各コシ基肥 早生一発くん 有機入りコシ一発くん 側条用003-40号	19	22	26	30	34	35	42

●50株の場合

開度(mm)	10	12	14	16	18	20	22
標準	21	25	29	33	38	42	45
各コシ一発くん 各コシ基肥 早生一発くん 有機入りコシ一発くん 側条用003-40号	16	18	22	25	28	29	35

※標準は田植機に記載の標準的な目盛(比重0.9未満の肥料)

## ワセキ田植機用

■機種名 PR・PRJ(DF)

■調節方法 今回の田植機では、従来の田植機と異なり比重or試し繰出量を入力しますと、設定した施肥量に合わせて自動で施肥量を調節します。



比重or試し繰出量  
を入力

■試し繰出量参考値

仮比重	BB各一発				BB分施
	0.9～0.94	0.85～0.9	0.8～0.85	～0.8	0.94～1.05
試し繰出量	178	168	160	152	192

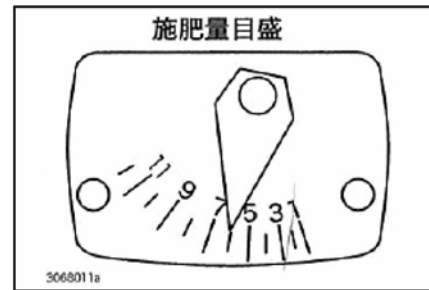
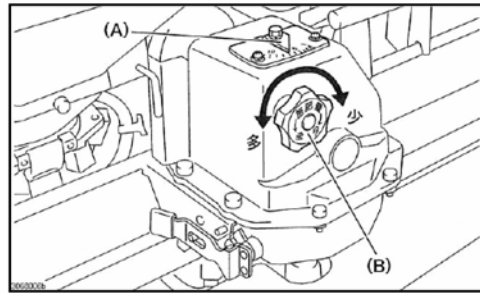
※施肥量を調節する際は、比重もしくは試し繰出量を入力ください。



## ヤンマー田植機用

■機種名 RJタイプ、RGタイプ、YRタイプ

■開度調節ツマミ



■開度目安表 ～10a当たり施肥量(kg)の目安～

●60株の場合

施肥量目盛	少量ギヤ(黒)			標準ギヤ(白)		
	5	8	11	3	5	7
標準	20	27	35	39	52	64
各コシ一発くん 各コシ基肥 早生一発くん 有機入りコシ一発くん 側条用003-40号	17	24	32	37	48	60

●50株の場合

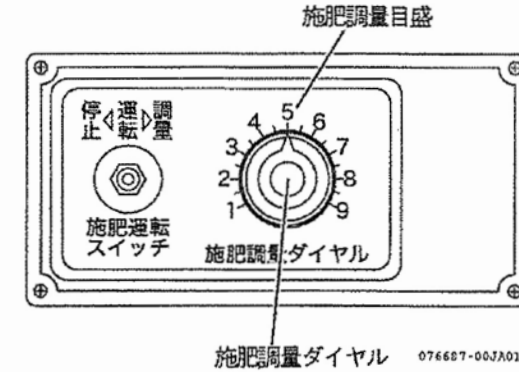
施肥量目盛	少量ギヤ(黒)			標準ギヤ(白)		
	5	8	11	3	5	7
標準	17	23	29	33	43	53
各コシ一発くん 各コシ基肥 早生一発くん 有機入りコシ一発くん 側条用003-40号	14	20	27	31	40	50

※標準は田植機に記載の標準的な目盛(肥料のかさ比重が0.9の場合)

## ヤンマー田植機用

■機種名 YR-Dタイプ

■開度調節ツマミ



■開度目安表 ～10a当たり施肥量(kg)の目安～

●60株/50株の場合

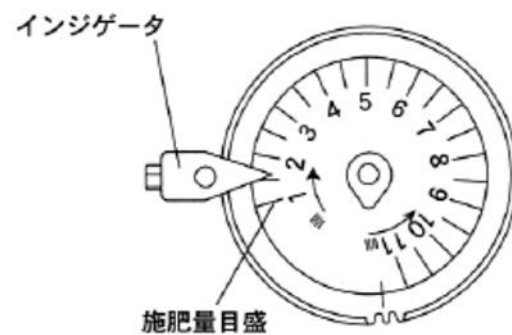
施肥量目盛	2.2	3.3	4.4	5.4	6.5	7.5
標準	20	30	40	50	60	70
各コシ一発くん 各コシ基肥 早生一発くん 有機入りコシ一発くん 側条用003-40号	18	27	36	45	54	63

※標準は田植機に記載の標準的な目盛(肥料のかさ比重が0.9の場合)

## ヤンマー田植機用

■機種名 VP40～80C・X・D、VP4～8・VPD・VP5～6C等、VP(ミッド施肥)タイプ

■開度調節ツマミ



■開度目安表 ～10a当たり施肥量(kg)の目安～

●60株の場合

施肥量目盛	2	3	4	5	6	7	8	9
標準	9	13	20	26	31	40	48	56
各コシ一発くん 各コシ基肥 早生一発くん 有機入りコシ一発くん 側条用003-40号	5	11	18	25	31	38	44	50

●50株の場合

施肥量目盛	2	3	4	5	6	7	8	9
標準	8	11	17	22	26	33	40	47
各コシ一発くん 各コシ基肥 早生一発くん 有機入りコシ一発くん 側条用003-40号	4	9	15	21	26	32	37	42

※標準は田植機に記載の標準的な目盛(肥料のかさ比重が0.9の場合)

× ₪

× ₪



消費者・実需者から選ばれる産地になるために

ギャップ

# GAPに取り組みましょう

## 1. GAP (Good Agricultural Practice) って何？

GAPとは、直訳すると「**良い農業の実践**」となり、**未来に渡って持続的な農業生産活動を行うために必要な取組みのこと**で、「**適正農業規範**」と称しています。

この良い農業を実践するためには農業者等は、「**安全な農産物の生産**」や「**環境の保全**」、「**農業者の安全確保**」などを目標として、生産から出荷までの生産工程における危害を未然に防ぐための持続的な改善活動に取り組むことが求められています。

また、GAPについては、グローバルGAPやJGAP等専門的な知識を持った第三者が認証するGAP認証取得の取組みがありますが、農家の皆様におかれましては、まずご自身の経営改善に資する取組みとしてGAP実践活動のご協力をお願いします。

## 2. GAPの目的と効果



GAPは、すでに、生産者の皆さんが実践していることがほとんどです。  
しかし、これまでの農業生産活動では経験や勘に頼り、客観的に確認できない（見えない）部分が多く、より良い農業を目指すためには、生産工程に応じた危害防止のための点検を行い、対策をルール化し、必要な場合は文書に残すことが大切です。

## 3. 具体的に何をすればいいの？

“GAP”を決定づけるのは、**不適切な農業行為である“BAP”**です。

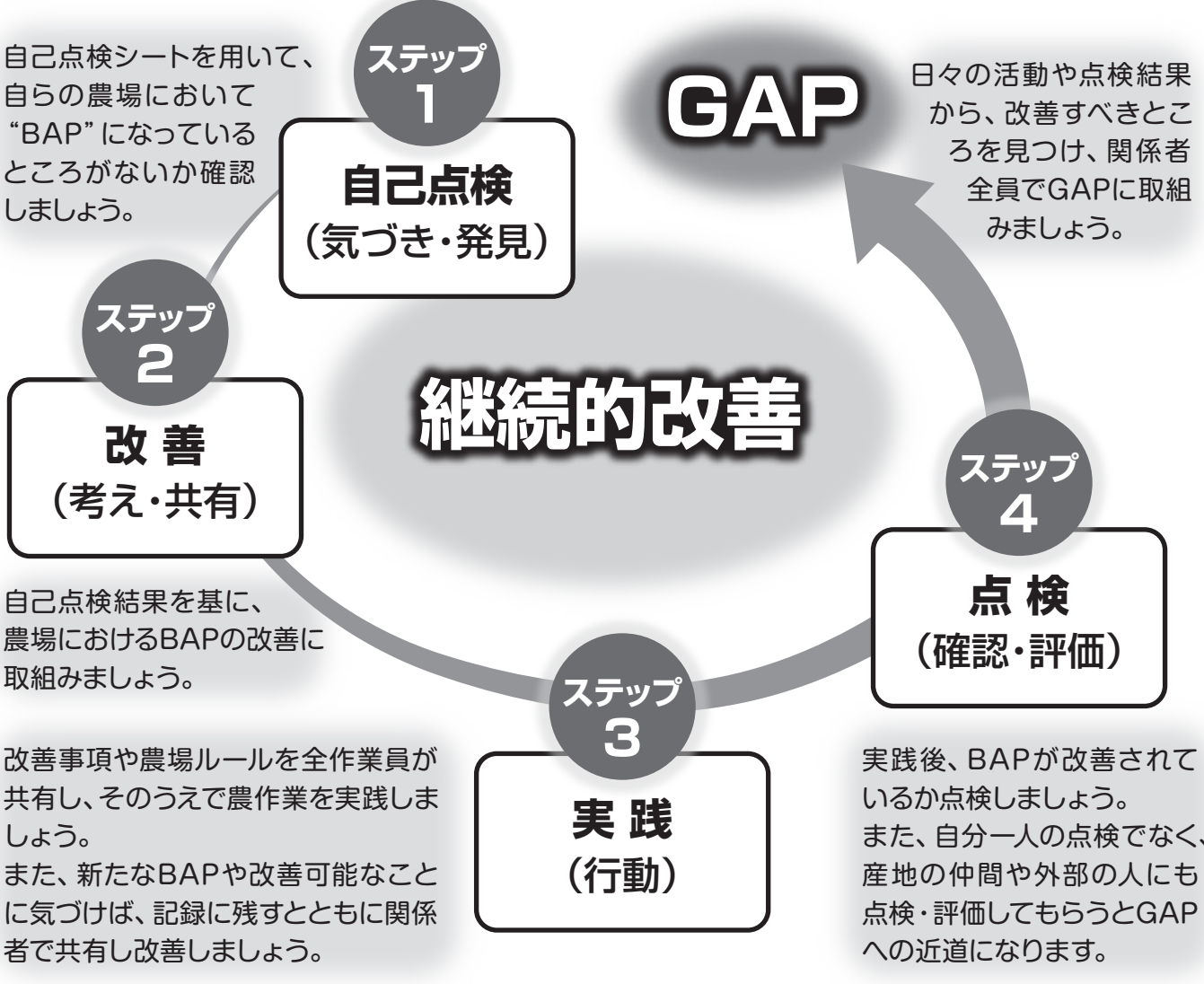
実践している農業生産活動の中に問題がある（悪い）部分を改善（正しく）することが必要で、どこが問題なのか、なぜ問題なのか、どうすれば良いのかを明らかにすることが重要です。

そのためにも、まずは、JAから配布される自己点検シートを用いて、自らの農場において**BAP（不適切な農業行為）**になっているところがないか自己点検することから始めましょう。

（自己点検シートの例）

区分	番号	点検項目	チェック時期の目安	対象	自己点検チェック	二重点検チェック	取組効果	クロスコンプライアンスチェックシート対応番号（①～⑯）
営農計画	1	営農座談会への参加や栽培暦の活用等今年の栽培（作付）計画を立てている。	3月	全生産者	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	安全な農産物の生産並びに、情報の把握や共有ができる。	③
	2	「安心・安全な農産物づくり」を意識して農業に取り組んでいる。	随時	全生産者	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	安全な農産物が生産できる。	—
J A 米	3	J A 米の要領をよく理解している。（品種のはっきりした種子、農産物検査受検、栽培履歴記帳、水分15.5%以下）	3月	全生産者	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	安全な農産物が生産できる。	—
栽培準備	4	納屋や作業場の清掃は徹底している。	随時	全生産者	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	安全な農産物の生産、異物混入の防止が図れる。	—
	5	農業機械等の装置・車両の適切な整備と管理の実施に努めている。	随時	全生産者	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	安全な農産物が生産できる。	⑯
	6	今年の栽培暦、営農情報はいつでも見られるようにしている。			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		—
	7	作物特性やデータに基づく施肥設計を検討している。	随時	全生産者	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	安全な農産物が生産できる。	③
	8	肥料は整理整頓し適正に保管している。	随時	全生産者	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	安全な農産物が生産できる。	①
	9	農薬は整理整頓し適正に保管している。	随時	全生産者	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	安全な農産物の生産ができる。	⑧
					<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		

## 4. GAPの取組みの実践ステップ



令和8年産

石川県産 米 GAP(農業生産工程管理)に向けた自己点検チェックシート

町名: **〇〇町** 氏名: **金沢 太郎**

JAグループ石川

※設問に該当する場合はチェック欄にチェックしてください。

区分	番号	点検項目	チェック 時期の 目安	対象	自己点検 チェック ☑	二重点検 チェック ☑	取組効果	クロスコンプライアンス チェックシート対応番号 (①～⑱)
営農計画	1	営農座談会への参加や栽培暦の活用等今年の栽培（作付）計画を立てている。	3月	全生産者	☑		安全な農産物の生産並びに、情報の把握や共有ができる。	③
	2	「安心・安全な農産物づくり」を意識して農業に取り組んでいる。	随時	全生産者			安全な農産物が生産できる。	—
J A 米	3	J A 米の要領をよく理解している。(品種のはっきりした種子、農産物検査受検、栽培履歴記帳、水分15.5%以下)	3月	全生産者	☑		安全な農産物が生産できる。	—
栽培準備	4	納屋や作業場の清掃は徹底している。	随時	全生産者			安全な農産物の生産、異物混入の防止が図れる。	—
	5	農業機械等の装置・車両の適切な整備と管理の実施に努めている。	随時	全生産者	☑		安全な農産物が生産できる。	⑱
	6	今年の栽培暦、営農情報はいつでも見られるようにしている。						—
	7	作物特性やデータに基づく施肥設計を検討している。	随時	全生産者			安全な農産物が生産できる。	③
	8	肥料は整理整頓し適正に保管している。	随時	全生産者			安全な農産物が生産できる。	①
	9	農薬は整理整頓し適正に保管している。	随時	全生産者			安全な農産物の生産ができる。	⑧
	10	ガソリン、混合油は専用の容器を使用するとともに、火気のない場所で保管している。	随時	全生産者			安全な農産物の生産ができる。	—
	11	納屋や作業場にネズミ駆除剤を使用せず、適正な対策を行っている。	随時	全生産者			安全な農産物の生産、異物混入の防止が図れる。	—
	12	被覆殻の圃場外流出防止にむけ、自然落水や水尻ネット設置を行っている。	随時	全生産者			安全な農産物の生産ができる。	—
土づくり	13	有機物や土壌改良資材の施用、深耕、排水性の改良等の土づくりを実施し、施肥改善に努めている。	～4月	全生産者	☑		安全な農産物の生産、環境負荷の低減が図れる。	④⑤
育苗	14	購入した種子および苗の品種・数量を確認している。	3月	全生産者			安全な農産物の生産、品質間違いの防止が図れる。	—
	15	種子消毒済みの余った種子や消毒液は適正に処分している。	3月	自家育苗の方			安全な農産物の生産、環境負荷の低減が図れる。	—
	16	育苗ハウスの苗は、品種がわかるように管理している。	4～5月	全生産者			安全な農産物の生産、品質間違いの防止が図れる。	—
栽培	17	今年の栽培暦、営農情報はいつでも見られるようにしている。	5月	全生産者	☑		安全な農産物の生産、情報の把握や共有ができる。	—
	18	田植の際には、品種確認をしっかり行っている。	5月	全生産者	☑		安全な農産物の生産、品質間違いの防止が図れる。	—
	19	水稻除草剤を使用後、基準の期間は止め水管理を行っている。	5月	全生産者	☑		安全な農産物の生産、環境負荷が低減できる。	⑤
	20	肥料は、施肥基準を確認し、生育に合わせて適正に施用している。	随時	全生産者	☑		安全な農産物の生産、環境負荷が低減できる。	③
	21	農薬の飛散・流出防止の観点から、圃場周辺の作付け状況を確認している。	随時	全生産者			安全な農産物の生産、環境負荷が低減できる。	—
	22	農薬は、営農情報やラベルを確認し、使用量、時期、回数を遵守している。	随時	全生産者	☑		安全な農産物の生産、環境負荷が低減できる。	—
	23	農薬の使用にあたっては、病害虫・雑草の発生状況を把握した上で、防除の要否の判断及びタイミングの判断をしている。	随時	全生産者	☑		安全な農産物の生産、環境負荷の低減が図れる。	⑥⑭
	24	防除を行う際は、多様な方法の活用を検討している。	随時	全生産者			安全な農産物の生産、環境負荷の低減が図れる。	⑦⑮
	25	農薬散布は、近隣に影響が少ない天候の日や時間帯に行っている。	随時	全生産者			安全な農産物の生産、環境負荷が低減できる。	—
	26	農薬を使用する前に風の強さや向きを確認し、適正な散布圧力や風量で住宅や周辺作物等への飛散防止に努めている。	随時	全生産者	☑		安全な農産物の生産、環境負荷が低減できる。	—

※実際のチェック項目は 1 ～ 53 まであります。(裏面につづく)



町 名: 氏 名: JAグループ石川

※設問に該当する場合はチェック欄にチェックしてください。

区 分	番号	点 検 項 目	チェック 時期の 目 安	対 象	自己点検 チェック ☑	二重点検 チェック ☑	取 組 効 果	クロスコンプライアンスチェック シート対応番号 (①～⑭)
営農計画	1	営農座談会への参加や栽培暦の活用等今年の栽培（作付）計画を立てている。	3月	全生産者			安全な農産物の生産並びに、情報の把握や共有ができる。	③
	2	「安心・安全な農産物づくり」を意識して農業に取り組んでいる。	随時	全生産者			安全な農産物が生産できる。	—
J A 米	3	J A 米の要領をよく理解している。(品種のはっきりした種子、農産物検査受検、栽培履歴記帳、水分15.5%以下)	3月	全生産者			安全な農産物が生産できる。	—
栽培準備	4	納屋や作業場の清掃は徹底している。	随時	全生産者			安全な農産物の生産、異物混入の防止が図れる。	—
	5	農業機械等の装置・車両の適切な整備と管理の実施に努めている。	随時	全生産者			安全な農産物が生産できる。	⑮
	6	今年の栽培暦、営農情報はいつでも見られるようにしている。						—
	7	作物特性やデータに基づく施肥設計を検討している。	随時	全生産者			安全な農産物が生産できる。	③
	8	肥料は整理整頓し適正に保管している。	随時	全生産者			安全な農産物が生産できる。	①
	9	農薬は整理整頓し適正に保管している。	随時	全生産者			安全な農産物の生産ができる。	⑧
	10	ガソリン、混合油は専用の容器を使用するとともに、火気のない場所で保管している。	随時	全生産者			安全な農産物の生産ができる。	—
	11	納屋や作業場にネズミ駆除剤を使用せず、適正な対策を行っている。	随時	全生産者			安全な農産物の生産、異物混入の防止が図れる。	—
	12	被覆殻の圃場外流出防止にむけ、自然落水や水尻ネット設置を行っている。	随時	全生産者			安全な農産物の生産ができる。	—
土づくり	13	有機物や土壌改良資材の施用、深耕、排水性の改良等の土づくりを実施し、施肥改善に努めている。	～4月	全生産者			安全な農産物の生産、環境負荷の低減が図れる。	④⑤
育 苗	14	購入した種子および苗の品種・数量を確認している。	3月	全生産者			安全な農産物の生産、品質間違いの防止が図れる。	—
	15	種子消毒済みの余った種子や消毒液は適正に処分している。	3月	自家育苗の方			安全な農産物の生産、環境負荷の低減が図れる。	—
	16	育苗ハウスの苗は、品種がわかるように管理している。	4～5月	全生産者			安全な農産物の生産、品質間違いの防止が図れる。	—
栽 培	17	今年の栽培暦、営農情報はいつでも見られるようにしている。	5月	全生産者			安全な農産物の生産、情報の把握や共有ができる。	—
	18	田植の際には、品種確認をしっかりと行っている。	5月	全生産者			安全な農産物の生産、品質間違いの防止が図れる。	—
	19	水稻除草剤を使用後、基準の期間は止め水管理を行っている。	5月	全生産者			安全な農産物の生産、環境負荷が低減できる。	⑤
	20	肥料は、施肥基準を確認し、生育に合わせて適正に施用している。	随時	全生産者			安全な農産物の生産、環境負荷が低減できる。	③
	21	農薬の飛散・流出防止の観点から、圃場周辺の作付け状況を確認している。	随時	全生産者			安全な農産物の生産、環境負荷が低減できる。	—
	22	農薬は、営農情報やラベルを確認し、使用量、時期、回数を遵守している。	随時	全生産者			安全な農産物の生産、環境負荷が低減できる。	—
	23	農薬の使用にあたっては、病害虫・雑草の発生状況を把握した上で、防除の要否の判断及びタイミングの判断をしている。	随時	全生産者			安全な農産物の生産、環境負荷の低減が図れる。	⑥⑭
	24	防除を行う際は、多様な方法の活用を検討している。	随時	全生産者			安全な農産物の生産、環境負荷の低減が図れる。	⑦⑮
	25	農薬散布は、近隣に影響が少ない天候の日や時間帯に行っている。	随時	全生産者			安全な農産物の生産、環境負荷が低減できる。	—
	26	農薬を使用する前に風の強さや向きを確認し、適正な散布圧力や風量で住宅や周辺作物等への飛散防止に努めている。	随時	全生産者			安全な農産物の生産、環境負荷が低減できる。	—

(裏面につづく)

町 名: 氏 名: JAグループ石川

※設問に該当する場合はチェック欄にチェックしてください。

区 分	番号	点 検 項 目	チェック 時期の 目 安	対 象	自己点検 チェック ☑	二重点検 チェック ☑	取 組 効 果	クロスコンプライアンスチェック シート対応番号 (①～⑭)
営農計画	1	営農座談会への参加や栽培暦の活用等今年の栽培（作付）計画を立てている。	3月	全生産者			安全な農産物の生産並びに、情報の把握や共有ができる。	③
	2	「安心・安全な農産物づくり」を意識して農業に取り組んでいる。	随時	全生産者			安全な農産物が生産できる。	—
J A 米	3	J A 米の要領をよく理解している。(品種のはっきりした種子、農産物検査受検、栽培履歴記帳、水分15.5%以下)	3月	全生産者			安全な農産物が生産できる。	—
栽培準備	4	納屋や作業場の清掃は徹底している。	随時	全生産者			安全な農産物の生産、異物混入の防止が図れる。	—
	5	農業機械等の装置・車両の適切な整備と管理の実施に努めている。	随時	全生産者			安全な農産物が生産できる。	⑮
	6	今年の栽培暦、営農情報はいつでも見られるようにしている。						—
	7	作物特性やデータに基づく施肥設計を検討している。	随時	全生産者			安全な農産物が生産できる。	③
	8	肥料は整理整頓し適正に保管している。	随時	全生産者			安全な農産物が生産できる。	①
	9	農薬は整理整頓し適正に保管している。	随時	全生産者			安全な農産物の生産ができる。	⑧
	10	ガソリン、混合油は専用の容器を使用するとともに、火気のない場所で保管している。	随時	全生産者			安全な農産物の生産ができる。	—
	11	納屋や作業場にネズミ駆除剤を使用せず、適正な対策を行っている。	随時	全生産者			安全な農産物の生産、異物混入の防止が図れる。	—
	12	被覆殻の圃場外流出防止にむけ、自然落水や水尻ネット設置を行っている。	随時	全生産者			安全な農産物の生産ができる。	—
土づくり	13	有機物や土壌改良資材の施用、深耕、排水性の改良等の土づくりを実施し、施肥改善に努めている。	～4月	全生産者			安全な農産物の生産、環境負荷の低減が図れる。	④⑤
育 苗	14	購入した種子および苗の品種・数量を確認している。	3月	全生産者			安全な農産物の生産、品質間違いの防止が図れる。	—
	15	種子消毒済みの余った種子や消毒液は適正に処分している。	3月	自家育苗の方			安全な農産物の生産、環境負荷の低減が図れる。	—
	16	育苗ハウスの苗は、品種がわかるように管理している。	4～5月	全生産者			安全な農産物の生産、品質間違いの防止が図れる。	—
栽 培	17	今年の栽培暦、営農情報はいつでも見られるようにしている。	5月	全生産者			安全な農産物の生産、情報の把握や共有ができる。	—
	18	田植の際には、品種確認をしっかりと行っている。	5月	全生産者			安全な農産物の生産、品質間違いの防止が図れる。	—
	19	水稻除草剤を使用後、基準の期間は止め水管理を行っている。	5月	全生産者			安全な農産物の生産、環境負荷が低減できる。	⑤
	20	肥料は、施肥基準を確認し、生育に合わせて適正に施用している。	随時	全生産者			安全な農産物の生産、環境負荷が低減できる。	③
	21	農薬の飛散・流出防止の観点から、圃場周辺の作付け状況を確認している。	随時	全生産者			安全な農産物の生産、環境負荷が低減できる。	—
	22	農薬は、営農情報やラベルを確認し、使用量、時期、回数を遵守している。	随時	全生産者			安全な農産物の生産、環境負荷が低減できる。	—
	23	農薬の使用にあたっては、病害虫・雑草の発生状況を把握した上で、防除の要否の判断及びタイミングの判断をしている。	随時	全生産者			安全な農産物の生産、環境負荷の低減が図れる。	⑥⑭
	24	防除を行う際は、多様な方法の活用を検討している。	随時	全生産者			安全な農産物の生産、環境負荷の低減が図れる。	⑦⑮
	25	農薬散布は、近隣に影響が少ない天候の日や時間帯に行っている。	随時	全生産者			安全な農産物の生産、環境負荷が低減できる。	—
	26	農薬を使用する前に風の強さや向きを確認し、適正な散布圧力や風量で住宅や周辺作物等への飛散防止に努めている。	随時	全生産者			安全な農産物の生産、環境負荷が低減できる。	—

(裏面につづく)

提出用

区 分	番号	点 検 項 目	チェック 時期の 目 安	対 象	自己点検 チェック ☑	二重点検 チェック ☑	取 組 効 果	クロスコンプライアンスチェック シート対応番号 (①～⑱)
栽 培	27	栽培にあたっては、悪臭・害虫の発生防止低減に努めている。	随時	全生産者			安全な農産物の生産、消費者等の信頼が確保できる。	⑫
	28	農薬散布前後には、防除器具を十分に洗浄し、破損個所がないか点検している。	随時	全生産者			安全な農産物の生産、環境負荷が低減できる。	—
履歴管理	29	種子や苗・肥料・農薬の購入伝票を保存し、使用状況を栽培履歴簿に記入している。	随時	全生産者			安全な農産物の生産、消費者等からの情報開示に対応できる。	②⑨
収 穫 前	30	収穫前に、乾燥機や粃すり機の清掃と点検をしっかりと行っている。	8月	自家乾燥の方			安全な農産物の生産、異物混入の防止が図れる。	—
	31	出穂期以降散布する農薬は収穫前使用可能日数を必ず確認している。	8月	全生産者			安全な農産物の生産、環境負荷が低減できる。	—
	32	品種の切替時には、コンバインの清掃をしっかりと行っている。	9月	全生産者			安全な農産物の生産、異品種混入の防止が図れる。	⑱
収 穫 後 の 管 理	33	収穫及び乾燥調製作業時に異種穀粒や石、金属等の異物が混入しないように注意して作業している。	9月	全生産者			安全な農産物の生産、異物混入の防止が図れる。	—
	34	適期刈取りに努めるとともに、収穫後は、速やかに施設に搬入している。	9月	施設利用の方			安全な農産物の生産、発酵による変質事故の防止が図れる。	—
	35	適期刈取りに努めるとともに、収穫後は速やかに乾燥機に張り込み、適切な温度管理で乾燥している。	9月	自家乾燥の方			安全な農産物の生産、発酵による変質事故の防止が図れる。	—
	36	乾燥機、粃摺り機、選別機は品種の切り替えごとに清掃している。	9月	自家乾燥の方			安全な農産物の生産、異品種混入の防止が図れる。	—
	37	粃摺、選別等の作業は、作業着、帽子、履物等清潔な衣類を着て行っている。	9月	自家乾燥の方			安全な農産物の生産、異物混入の防止が図れる。	—
	38	ネズミや野鳥、部外者等が作業場及び米穀の保管場所に入らないようにしている。	9月～	自家乾燥の方			安全な農産物の生産、異物混入の防止が図れる。	—
	39	収穫後の稲わらは焼却せず、有機物の補給として圃場にすき込んでいる。	9月～	全生産者			安全な農産物の生産、持続的な農地の保全が図れる。	④
情報の記録・保管	40	J A出荷契約を結んだ米は確実にJ Aに出荷している。	9月	全生産者			安定販売の取組、消費者等の信頼が確保できる。	—
	41	出荷に関して、米穀の名称、産地、数量、年月日、相手方の氏名又は名称等きちんと整理し、その記録を原則3年間保存している。	9月	自家乾燥の方			法令が遵守できるとともに、消費者等への信頼が確保できる。	—
	42	米は用途（加工用、飼料用、非食用等）や品種ごとに明確に区分して保管・販売・処分している。	9月	自家乾燥の方			法令が遵守できるとともに、消費者等の信頼が確保できる。	—
労働安全	43	作業場や圃場等の危険な箇所（高所、段差等）を把握し、ケガや事故が起こらないよう対策している。	随時	全生産者			ケガや事故を防止し、安全な農作業を行うことができる。	⑱
	44	安全に農作業を行うために日頃から作業手順の確認を行い、機械・器具類の使用にあたっては使用方法を理解し適切に使用している。	随時	全生産者			ケガや事故を防止し、安全な農作業を行うことができる。	⑱
環境保全	45	廃棄物の削減に努めるとともに、使用済み薬剤の空き容器や、不要になったビニール等は適切に廃棄している。	随時	全生産者			環境への負荷を軽減できる。	⑬
	46	代かき後等の濁った水が、圃場外に流れないようにしている。	随時	全生産者			環境への負荷を軽減できる。	—
	47	省エネを意識し、不必要・非効率なエネルギー消費をしないように努める。	随時	全生産者			環境への負荷を軽減できる。	⑪
	48	農機・ハウス等の電気・燃料の使用状況の記録・保存に努めている。	随時	全生産者			環境への負荷を軽減できる。	⑩
全 般	49	G A Pに関して時期毎に点検を実施し、改善の必要な部分の見直しを行っている。	随時	全生産者			安全な農産物の生産、消費者等の信頼が確保できる。	—
	50	今年の米づくりの反省点をまとめている。	随時	全生産者			安全な農産物の生産、消費者等の信頼を確保できる。	—
	51	「みどりの食料システム戦略」について理解し、取組を意識した栽培を行っている。	随時	全生産者			安心な農産物の生産、消費者等の信頼が確保できる。	⑯
	52	関係法令の遵守を徹底している。	随時	全生産者			安心な農産物の生産、消費者等の信頼が確保できる。	⑰
	53	従業員や作業員と当チェックシートの点検項目を共有している。	随時	作業者が複数いる方			安全な農産物の生産、消費者等の信頼が確保できる。	—

※チェック項目全てを達成することが目的ですが、現段階において出来ていない項目には、チェック☑をしないでください。  
※チェックシートを点検することで、翌年度の生産に向けて改善点を見つけることも大きな目的のひとつです。  
※今年出来なかったことを、翌年度には実行、改善するように心がけてください。  
※チェック欄については、自己点検は生産者で行い、JAの営農指導員等が二重点検を行う等して活用ください。  
二重点検を行うことで、より正確に改善点を見つけることができます。

生産者控

区 分	番号	点 検 項 目	チェック 時期の 目 安	対 象	自己点検 チェック ☑	二重点検 チェック ☑	取 組 効 果	クロスコンプライアンスチェック シート対応番号 (①～⑱)
栽 培	27	栽培にあたっては、悪臭・害虫の発生防止低減に努めている。	随時	全生産者			安全な農産物の生産、消費者等の信頼が確保できる。	⑫
	28	農薬散布前後には、防除器具を十分に洗浄し、破損個所がないか点検している。	随時	全生産者			安全な農産物の生産、環境負荷が低減できる。	—
履歴管理	29	種子や苗・肥料・農薬の購入伝票を保存し、使用状況を栽培履歴簿に記入している。	随時	全生産者			安全な農産物の生産、消費者等からの情報開示に対応できる。	②⑨
収 穫 前	30	収穫前に、乾燥機や粃すり機の清掃と点検をしっかりと行っている。	8月	自家乾燥の方			安全な農産物の生産、異物混入の防止が図れる。	—
	31	出穂期以降散布する農薬は収穫前使用可能日数を必ず確認している。	8月	全生産者			安全な農産物の生産、環境負荷が低減できる。	—
	32	品種の切替時には、コンバインの清掃をしっかりと行っている。	9月	全生産者			安全な農産物の生産、異品種混入の防止が図れる。	⑱
収穫後の 管 理	33	収穫及び乾燥調製作業時に異種穀粒や石、金属等の異物が混入しないように注意して作業している。	9月	全生産者			安全な農産物の生産、異物混入の防止が図れる。	—
	34	適期刈取りに努めるとともに、収穫後は、速やかに施設に搬入している。	9月	施設利用の方			安全な農産物の生産、発酵による変質事故の防止が図れる。	—
	35	適期刈取りに努めるとともに、収穫後は速やかに乾燥機に張り込み、適切な温度管理で乾燥している。	9月	自家乾燥の方			安全な農産物の生産、発酵による変質事故の防止が図れる。	—
	36	乾燥機、粃摺り機、選別機は品種の切り替えごとに清掃している。	9月	自家乾燥の方			安全な農産物の生産、異品種混入の防止が図れる。	—
	37	粃摺、選別等の作業は、作業着、帽子、履物等清潔な衣類を着て行っている。	9月	自家乾燥の方			安全な農産物の生産、異物混入の防止が図れる。	—
	38	ネズミや野鳥、部外者等が作業場及び米穀の保管場所に入らないようにしている。	9月～	自家乾燥の方			安全な農産物の生産、異物混入の防止が図れる。	—
	39	収穫後の稲わらは焼却せず、有機物の補給として圃場にすき込んでいる。	9月～	全生産者			安全な農産物の生産、持続的な農地の保全が図れる。	④
情報の記録・ 保 管	40	J A出荷契約を結んだ米は確実にJ Aに出荷している。	9月	全生産者			安定販売の取組、消費者等の信頼が確保できる。	—
	41	出荷に関して、米穀の名称、産地、数量、年月日、相手方の氏名又は名称等きちんと整理し、その記録を原則3年間保存している。	9月	自家乾燥の方			法令が遵守できるとともに、消費者等への信頼が確保できる。	—
	42	米は用途（加工用、飼料用、非食用等）や品種ごとに明確に区分して保管・販売・処分している。	9月	自家乾燥の方			法令が遵守できるとともに、消費者等の信頼が確保できる。	—
労働安全	43	作業場や圃場等の危険な箇所（高所、段差等）を把握し、ケガや事故が起こらないよう対策している。	随時	全生産者			ケガや事故を防止し、安全な農作業を行うことができる。	⑱
	44	安全に農作業を行うために日頃から作業手順の確認を行い、機械・器具類の使用にあたっては使用方法を理解し適切に使用している。	随時	全生産者			ケガや事故を防止し、安全な農作業を行うことができる。	⑱
環境保全	45	廃棄物の削減に努めるとともに、使用済み薬剤の空き容器や、不要になったビニール等は適切に廃棄している。	随時	全生産者			環境への負荷を軽減できる。	⑬
	46	代かき後等の濁った水が、圃場外に流れないようにしている。	随時	全生産者			環境への負荷を軽減できる。	—
	47	省エネを意識し、不必要・非効率なエネルギー消費をしないように努める。	随時	全生産者			環境への負荷を軽減できる。	⑪
	48	農機・ハウス等の電気・燃料の使用状況の記録・保存に努めている。	随時	全生産者			環境への負荷を軽減できる。	⑩
全 般	49	G A Pに関して時期毎に点検を実施し、改善の必要な部分の見直しを行っている。	随時	全生産者			安全な農産物の生産、消費者等の信頼が確保できる。	—
	50	今年の米づくりの反省点をまとめている。	随時	全生産者			安全な農産物の生産、消費者等の信頼を確保できる。	—
	51	「みどりの食料システム戦略」について理解し、取組を意識した栽培を行っている。	随時	全生産者			安心な農産物の生産、消費者等の信頼が確保できる。	⑯
	52	関係法令の遵守を徹底している。	随時	全生産者			安心な農産物の生産、消費者等の信頼が確保できる。	⑰
	53	従業員や作業員と当チェックシートの点検項目を共有している。	随時	作業者が複数いる方			安全な農産物の生産、消費者等の信頼が確保できる。	—

※チェック項目全てを達成することが目的ですが、現段階において出来ていない項目には、チェック☑をしないでください。  
※チェックシートを点検することで、翌年度の生産に向けて改善点を見つけることも大きな目的のひとつです。  
※今年出来なかったことを、翌年度には実行、改善するように心がけてください。  
※チェック欄については、自己点検は生産者で行い、JAの営農指導員等が二重点検を行う等して活用ください。  
二重点検を行うことで、より正確に改善点を見つけることができます。



JA金沢中央 ～しっかり記帳、安全・安心の米づくり～

令和8年産 水稻生産履歴記録簿

(記入例)

※ 記入上の注意事項

■ 品種・栽培方法(移植・直播など)で、別々に1枚ずつ記入して下さい。

■ 何筆かあるほ場のうち、1筆でも使用したものは記入して下さい。

■ この用紙を汚したり、折り曲げたり、穴を開けたりしないで下さい。

■ コンピュータ処理を行いますので、シャープペンシル(0.5mm HB)で、丁寧に記入して下さい。

■ 不明な点はJAまでお問い合わせ下さい。

住所

金沢市〇〇町〇〇番地

生産者名

金沢 太郎

電話番号

076-〇〇〇-〇〇〇〇

品種名

コシヒカリ

作付面積

30

a

筆数

2

筆

秋耕(令和7年わらの鋤込み)

前年始期

10

月

1

日

前年終期

10

月

2

日

種 苗

育 苗 方 法

☐ 自家※1

☒ JAから苗購入

☐ その他から苗購入※2

※1自家の場合に  
は種日を記入

月

日

～

月

日※2その他の場合に  
農家名等をカタカナで記入※ ☐ 種子保証票・農薬履歴あり

種子調達先

(数量)

☐ JA

☐ 自家採種

☐ その他※

(kg)(kg)(kg)※その他の場合に  
農家名等をカタカナで記入※ ☐ 種子保証票あり

床 土

☐ 加工床土☐ 原土

→

肥料名  
(床土銘柄)

PH調整剤

栽 培

栽 培 方 法

☒ 移植

☐ 直播

☐ 晩植

☐ 農特

☐ 全指

田植(直播)日

5

月

3

日

～

5

月

4

日

出穂時確認

☒ 異品種の混入が見られなかった

→

確認日

8

月

5

日

管 理

田干しの実施

☒ 有

☐ 無

中干し期間

6

月

5

日

～

7

月

5

日

溝 切 り

☒ 有

☐ 無

間 断 通 水

☒ 有

☐ 無

刈 取

刈取(予定)日

9

月

12

日

～

9

月

13

日

乾燥・調製

☐ 自家

☒ JA施設

☐ 農家委託等※

※農家委託等の場合に  
農家名等をカタカナで記入

秋耕(当年作わらの鋤込み)

始期(予定)

10

月

1

日

( J A 使 用 欄 )

支 店 名

組合員コード

品種コード

一次確認

二次確認

/

/

2025版

【肥 料】

-  - 1

■ 使用した肥料に○をつけ、最終施肥日および10a当たり使用量を記入します。

■ 掲載していない肥料を使用した場合、「その他」欄にカタカナで品名と単位欄を記入します。

分類	肥 料 名	施肥基準	チェック	最終施肥日 月 日	10a当たり使用量	単位
土づくり	BB スーパーけい酸	60kg／10a	○	1010	60	kg
	BB パワフル大地	60kg／10a				kg
	BB 鉄腕ソイル	60kg／10a				kg
	ようりん(粒)	60kg／10a				kg
	ケイカル	100kg／10a				kg
	その他1					
基肥(活着肥含む)	その他2					
	BB 有機入り820号(みさと)	40～50kg／10a	○	420	40	kg
	BB いしかわ有機入り056号	30～40kg／10a				kg
	BB コシー発くんDX24	35～40kg／10a				kg
	BB コシー発くんNEO β	35～40kg／10a				kg
	BB 有機入りコシー発くん	35～40kg／10a				kg
	BB 新コシー発くん特号	35～40kg／10a				kg
	BB けい酸パワー・コシー発くん	70～80kg／10a				kg
	BB けい酸アップ・コシー発くん	45～55kg／10a				kg
	BB 早生一発くんDX28	40～50kg／10a				kg
	BB 早生一発くんNEO	40～50kg／10a				kg
	BB スリム早生一発くん	40～50kg／10a				kg
	その他1					
	その他2					
中間追肥	BB PKけいさん	20～40kg／10a	○	620	20	kg
	草木加里	10kg／10a				kg
	けい酸加里プレミア	20～40kg/10a				kg
	その他1					
	その他2					
分類	肥 料 名	施肥基準	チェック	施肥日①	施肥日②	施肥日③
穂肥	BB 有機入り追肥526号	30～45kg／10a	○	717	725	
	その他1					
肥	その他2					

農薬はウラ面に記入します。

【農 薬】

- 使用した農薬に○をつけ、最終使用日および10a当たり使用量（苗箱消毒・箱施薬の場合は1箱当たり使用量）を記入します。
- 掲載していない農薬を使用した場合、「その他」欄にカタカナで品名と単位欄を記入します。

分類	農 薬 名	使用量・使用時期	チェック	最終使用日 月 日	10a当たり 1箱当たり 使用量	単位
収穫後防除	ラウンドアップマックスロード	200～1000ml／10a	○	1 0 2 0	5 0 0	ml
	その他					
種子消毒	消毒済種子購入					
	テクリードCフロアブル	200倍				
	その他					
苗箱消毒	ダコレート水和剤	400～600倍				ml
	タチガレエースM液剤	500～1000倍（500ml／箱）				ml
	その他					
箱施薬	薬剤処理済苗購入					
	エバーゴルフオルテ箱粒剤	50g／箱	○	5 3	5 0	g
	Dr.オリゼリディア箱粒剤	50～100g／箱				g
	その他					
本田随時防除	リンバー粒剤	3～4kg／10a 収穫 30日前まで			●	kg
	ブラシン粉剤DL	3～4kg／10a 収穫 7日前まで			●	kg
	Zボルドー粉剤DL	3～4kg／10a 出穂 10日前まで	○	7 1 7	4.0	kg
	トレボン粉剤DL	3～4kg／10a 収穫 7日前まで			●	kg
	モンガリット粒剤	3～4kg／10a 収穫 30日前まで			●	kg
	その他				●	
	その他液剤					倍
本田仕上防除	ビームトレモンセレン粉剤DL	3～4kg／10a 収穫 21日前まで	○	7 2 5	4.0	kg
	ラブサイドスタークル粉剤DL	3～4kg／10a 収穫 7日前まで	○	8 6	4.0	kg
	スタークル粉剤DL	3kg／10a 収穫 7日前まで			●	kg
	イモチエーススタークル粒剤	3kg／10a 出穂14～10日前 収穫35日前まで			●	kg
	スタークル粒剤	3kg／10a 収穫 7日前まで	○	8 1 3	3.0	kg
	スタークル豆つぶ	250g／10a 収穫 7日前まで			●	g
					●	
					●	
					●	
	その他1				●	
	その他2				●	

- ★「苗箱消毒」では、使用基準欄に希釈倍率を記入して下さい。
- ★「その他液剤」を使用した場合は、使用量欄には希釈倍率を記入して下さい。

品種名 **コシヒカリ**

- - 2

分類	農 薬 名	使用量・使用時期	チェック	最終使用日 月 日	10a当たり使用量	単位
初期除草剤	ソルネット1キロ粒剤	1kg／10a 移植直後 ～30日まで			●	kg
	先陣ジャンボ	200g／10a 移植直後 ～30日まで			●	ml
	メテオフロアブル	500ml／10a 移植直後 ～30日まで			●	ml
					●	
	その他1				●	
	その他2				●	
一発除草剤	サラブレッドGO1キロ粒剤	1kg／10a 移植直後 ～30日まで			●	kg
	アシュラ1キロ粒剤	1kg／10a 移植直後 ～30日まで	○	5 1 0	1.0	kg
	ゼアスジャンボ	300g／10a 移植直後 ～30日まで			●	g
	ウルティモZジャンボ	350g／10a 移植後5日 ～30日まで			●	g
	エンペラーフロアブル	500ml／10a 移植直後 ～30日まで			●	ml
					●	
	その他1				●	
	その他2				●	
中・後期除草剤	アトカラSジャンボMX	500g／10a 移植後14日～ 収穫45日前まで			●	g
	ヒエクリーン1キロ粒剤	1kg／10a 移植後15日～ 収穫45日前まで			●	kg
	バサグラン粒剤	3kg／10a 移植後15日～ 収穫45日前まで			●	kg
	レブラスギア1キロ粒剤	1kg／10a 移植後14日～ 収穫60日前まで			●	kg
	ウィードコア1キロ粒剤	1kg／10a 移植後7日～ 収穫60日前まで			●	kg
	ワイドパワー粒剤	3kg／10a 移植後20日～ 収穫45日前まで			●	kg
					●	
	その他1				●	
	その他2				●	
分類	農 薬 名	使用量・使用時期	チェック	使用日①	使用日②	使用日③
畦畔除草剤	ラウンドアップマックスロード(3回まで)	200～500ml／10a 収穫前日 まで	○	6 1 0		
	グリホエキス	250～500ml／10a 草丈30cm以下 収穫14日前まで				2回まで
	バスタ液剤(3回まで)	500～1000ml／10a 収穫 7日前まで				
	ザクサ液剤(3回まで)	500～1000ml／10a 収穫 7日前まで				
	プリグロックスL(5回まで)	600～1000ml／10a				
	カーメックスD	150～300g／10a				2回まで
	ダイロンゾル	200～250ml／10a 雑草発生前～ 雑草発生初期				
	その他					

※農薬取締法を遵守し、使用基準を守って使用して下さい。※P34～の農薬登録内容を確認して下さい。

JAの点検により誤使用が発覚した場合、そのコメは『別扱い』とします。



JA金沢中央 ～しっかり記帳、安全・安心の米づくり～  
令和8年産 水稻生産履歴記録簿

※ 記入上の注意事項

- 品種・栽培方法(移植・直播など)で、別々に1枚ずつ記入して下さい。
- 何筆かあるほ場のうち、1筆でも使用したものは記入して下さい。
- この用紙を汚したり、折り曲げたり、穴を開けたりしないで下さい。
- コンピュータ処理を行いますので、シャープペンシル(0.5mm HB)で、丁寧に記入して下さい。
- 不明な点はJAまでお問い合わせ下さい。

印

住所

生産者名

電話番号

品 種 名

作付面積

a

筆数

秋耕(令和7年わらの鋤込み)

前年始期

前年終期

種 苗

育 苗 方 法

自家※1

JAから苗購入

その他から苗購入※2

※1自家の場合に  
は種日を記入

※2その他の場合に  
農家名等をカタカナで記入

種子調達先

(数量)

JA

自家採種

その他※

※その他の場合に  
農家名等をカタカナで記入

※種子保証票・農薬履歴あり

※種子保証票あり

床 土

加工床土

原土

肥料名  
(床土銘柄)

PH調整剤

栽 培

栽 培 方 法

移植

直播

晩植

農特

全指

田植(直播)日

出穂時確認

異品種の混入が見られなかった

確認日

管 理

田干しの実施

有

無

中干し期間

溝 切 り

有

無

間 断 通 水

有

無

刈 取

刈取(予定)日

乾燥・調製

自家

JA施設

農家委託等※

※農家委託等の場合に  
農家名等をカタカナで記入

秋耕(当年作わらの鋤込み)

始期(予定)

( J A 使 用 欄 )

支 店 名

組合員コード

品種コード

一次確認

二次確認

/

/

2025版

【肥 料】

- 使用した肥料に○をつけ、最終施肥日および10a当たり使用量を記入します。
- 掲載していない肥料を使用した場合、「その他」欄にカタカナで品名と単位欄を記入します。

分類

肥 料 名

施肥基準

チェック

最終施肥日

10a当たり使用量

単位

土づくり

BB スーパーけい酸

60kg／10a

kg

BB パワフル大地

60kg／10a

kg

BB 鉄腕ソイル

60kg／10a

kg

ようりん(粒)

60kg／10a

kg

ケイカル

100kg／10a

kg

その他1

その他2

基肥(活着肥含む)

BB 有機入り820号(みさと)

40～50kg／10a

kg

BB いしかわ有機入り056号

30～40kg／10a

kg

BB コシー発くんDX24

35～40kg／10a

kg

BB コシー発くんNEO β

35～40kg／10a

kg

BB 有機入りコシー発くん

35～40kg／10a

kg

BB 新コシー発くん特号

35～40kg／10a

kg

BB けい酸パワー・コシー発くん

70～80kg／10a

kg

BB けい酸アップ・コシー発くん

45～55kg／10a

kg

BB 早生一発くんDX28

40～50kg／10a

kg

BB 早生一発くんNEO

40～50kg／10a

kg

BB スリム早生一発くん

40～50kg／10a

kg

その他1

その他2

中間追肥

BB PKけいさん

20～40kg／10a

kg

草木加里

10kg／10a

kg

けい酸加里プレミア

20～40kg/10a

kg

その他1

その他2

分類

肥 料 名

施肥基準

チェック

施肥日①

施肥日②

施肥日③

穂

BB 有機入り追肥526号

30～45kg／10a

kg

肥

その他1

その他2

農薬はウラ面に記入します。

【農 薬】

- 使用した農薬に○をつけ、最終使用日および10a当たり使用量（苗箱消毒・箱施薬の場合は1箱当たり使用量）を記入します。
- 掲載していない農薬を使用した場合、「その他」欄にカタカナで品名と単位欄を記入します。

分類	農 薬 名	使用量・使用時期	チェック	最終使用日 月 日	10a当たり 1箱当たり 使用量	単位
収穫後防除	ラウンドアップマックスロード	200～1000ml／10a				ml
	その他					
種子消毒	消毒済種子購入					
	テクリードCフロアブル	200倍				
	その他					
苗箱消毒	ダコレート水和剤	400～600倍				ml
	タチガレエースM液剤	500～1000倍（500ml／箱）				ml
	その他					
箱施薬	薬剤処理済苗購入					
	エバーゴルフオルテ箱粒剤	50g／箱				g
	Dr.オリゼリディア箱粒剤	50～100g／箱				g
	その他					
本田随時防除	リンバー粒剤	3～4kg／10a 収穫 30日前まで				kg
	ブラシン粉剤DL	3～4kg／10a 収穫 7日前まで				kg
	Zボルドー粉剤DL	3～4kg／10a 出穂 10日前まで				kg
	トレボン粉剤DL	3～4kg／10a 収穫 7日前まで				kg
	モンガリット粒剤	3～4kg／10a 収穫 30日前まで				kg
	その他					
	その他液剤					倍
本田仕上防除	ビームトレモンセレン粉剤DL	3～4kg／10a 収穫 21日前まで				kg
	ラブサイドスタークル粉剤DL	3～4kg／10a 収穫 7日前まで				kg
	スタークル粉剤DL	3kg／10a 収穫 7日前まで				kg
	イモチエーススタークル粒剤	3kg／10a 出穂14～10日前 収穫35日前まで				kg
	スタークル粒剤	3kg／10a 収穫 7日前まで				kg
	スタークル豆つぶ	250g／10a 収穫 7日前まで				g
	その他1					
	その他2					

- ★「苗箱消毒」では、使用基準欄に希釈倍率を記入して下さい。
- ★「その他液剤」を使用した場合は、使用量欄には希釈倍率を記入して下さい。

品種名

- 2

分類	農 薬 名	使用量・使用時期	チェック	最終使用日 月 日	10a当たり使用量	単位
初期除草剤	ソルネット1キロ粒剤	1kg／10a 移植直後 ～30日まで				kg
	先陣ジャンボ	200g／10a 移植直後 ～30日まで				ml
	メテオフロアブル	500ml／10a 移植直後 ～30日まで				ml
	その他1					
一発除草剤	サラブレッドGO1キロ粒剤	1kg／10a 移植直後 ～30日まで				kg
	アシュラ1キロ粒剤	1kg／10a 移植直後 ～30日まで				kg
	ゼアスジャンボ	300g／10a 移植直後 ～30日まで				g
	ウルティモZジャンボ	350g／10a 移植後5日 ～30日まで				g
	エンペラーフロアブル	500ml／10a 移植直後 ～30日まで				ml
	その他1					
中・後期除草剤	アトカラSジャンボMX	500g／10a 移植後14日～ 収穫45日前まで				g
	ヒエクリーン1キロ粒剤	1kg／10a 移植後15日～ 収穫45日前まで				kg
	バサグラン粒剤	3kg／10a 移植後15日～ 収穫45日前まで				kg
	レブラスギア1キロ粒剤	1kg／10a 移植後14日～ 収穫60日前まで				kg
	ウィードコア1キロ粒剤	1kg／10a 移植後7日～ 収穫60日前まで				kg
	ワイドパワー粒剤	3kg／10a 移植後20日～ 収穫45日前まで				kg
	その他1					
	その他2					
分類	農 薬 名	使用量・使用時期	チェック	使用日①	使用日②	使用日③
畦畔除草剤	ラウンドアップマックスロード(3回まで)	200～500ml／10a 収穫前日 まで				
	グリホエキス	250～500ml／10a 草丈30cm以下 収穫14日前まで				2回まで
	バスタ液剤(3回まで)	500～1000ml／10a 収穫 7日前まで				
	ザクサ液剤(3回まで)	500～1000ml／10a 収穫 7日前まで				
	プリグロックスL(5回まで)	600～1000ml／10a				
	カーメックスD	150～300g／10a				2回まで
	ダイロンゾル	200～250ml／10a 雑草発生前～ 雑草発生初期				
	その他					

※農薬取締法を遵守し、使用基準を守って使用して下さい。※P34～の農薬登録内容を確認して下さい。

JAの点検により誤使用が発覚した場合、そのコメは『別扱い』とします。



JA金沢中央 ～しっかり記帳、安全・安心の米づくり～  
令和8年産 水稻生産履歴記録簿

※ 記入上の注意事項

- 品種・栽培方法(移植・直播など)で、別々に1枚ずつ記入して下さい。
- 何筆かあるほ場のうち、1筆でも使用したものは記入して下さい。
- この用紙を汚したり、折り曲げたり、穴を開けたりしないで下さい。
- コンピュータ処理を行いますので、シャープペンシル(0.5mm HB)で、丁寧に記入して下さい。
- 不明な点はJAまでお問い合わせ下さい。

印

住所

生産者名

電話番号

品 種 名

作付面積

a

筆数

秋耕(令和7年わらの鋤込み)

前年始期

前年終期

種 苗

育 苗 方 法

自家※1

JAから苗購入

その他から苗購入※2

※1自家の場合に  
は種日を記入

※2その他の場合に  
農家名等をカタカナで記入

種子調達先

(数量)

JA

自家採種

その他※

※その他の場合に  
農家名等をカタカナで記入

※種子保証票・農薬履歴あり

※種子保証票あり

床 土

加工床土

原土

肥料名  
(床土銘柄)

PH調整剤

栽 培

栽 培 方 法

移植

直播

晩植

農特

全指

田植(直播)日

出穂時確認

異品種の混入が見られなかった

確認日

管 理

田干しの実施

有

無

中干し期間

溝 切 り

有

無

間 断 通 水

有

無

刈 取

刈取(予定)日

乾燥・調製

自家

JA施設

農家委託等※

※農家委託等の場合に  
農家名等をカタカナで記入

秋耕(当年作わらの鋤込み)

始期(予定)

( J A 使 用 欄 )

支 店 名

組合員コード

品種コード

一次確認

二次確認

/

/

2025版

【肥 料】

- 使用した肥料に○をつけ、最終施肥日および10a当たり使用量を記入します。
- 掲載していない肥料を使用した場合、「その他」欄にカタカナで品名と単位欄を記入します。

最終施肥日

10a当たり使用量

単位

土づくり

肥 料 名

施肥基準

チェック

BB スーパーけい酸

60kg／10a

BB パワフル大地

60kg／10a

BB 鉄腕ソイル

60kg／10a

ようりん(粒)

60kg／10a

ケイカル

100kg／10a

その他1

その他2

基肥(活着肥含む)

BB 有機入り820号(みさと)

40～50kg／10a

BB いしかわ有機入り056号

30～40kg／10a

BB コシー発くんDX24

35～40kg／10a

BB コシー発くんNEO β

35～40kg／10a

BB 有機入りコシー発くん

35～40kg／10a

BB 新コシー発くん特号

35～40kg／10a

BB けい酸パワー・コシー発くん

70～80kg／10a

BB けい酸アップ・コシー発くん

45～55kg／10a

BB 早生一発くんDX28

40～50kg／10a

BB 早生一発くんNEO

40～50kg／10a

BB スリム早生一発くん

40～50kg／10a

その他1

その他2

中間追肥

BB PKけいさん

20～40kg／10a

草木加里

10kg／10a

けい酸加里プレミア

20～40kg/10a

その他1

その他2

分類

肥 料 名

施肥基準

チェック

施肥日①

施肥日②

施肥日③

穂

BB 有機入り追肥526号

30～45kg／10a

肥

その他1

その他2

農薬はウラ面に記入します。

【農 薬】

- 使用した農薬に○をつけ、最終使用日および10a当たり使用量（苗箱消毒・箱施薬の場合は1箱当たり使用量）を記入します。
- 掲載していない農薬を使用した場合、「その他」欄にカタカナで品名と単位欄を記入します。

分類	農 薬 名	使用量・使用時期	チェック	最終使用日 月 日	10a当たり 1箱当たり 使用量	単位
収穫後防除	ラウンドアップマックスロード	200～1000ml／10a				ml
	その他					
種子消毒	消毒済種子購入					
	テクリードCフロアブル	200倍				
	その他					
苗箱消毒	ダコレート水和剤	400～600倍				ml
	タチガレエースM液剤	500～1000倍（500ml／箱）				ml
	その他					
箱施薬	薬剤処理済苗購入					
	エバーゴルフオルテ箱粒剤	50g／箱				g
	Dr.オリゼリディア箱粒剤	50～100g／箱				g
	その他					
本田随時防除	リンバー粒剤	3～4kg／10a 収穫 30日前まで			●	kg
	ブラシン粉剤DL	3～4kg／10a 収穫 7日前まで			●	kg
	Zボルドー粉剤DL	3～4kg／10a 出穂 10日前まで			●	kg
	トレボン粉剤DL	3～4kg／10a 収穫 7日前まで			●	kg
	モンガリット粒剤	3～4kg／10a 収穫 30日前まで			●	kg
	その他				●	
	その他液剤					倍
本田仕上防除	ビームトレモンセレン粉剤DL	3～4kg／10a 収穫 21日前まで			●	kg
	ラブサイドスタークル粉剤DL	3～4kg／10a 収穫 7日前まで			●	kg
	スタークル粉剤DL	3kg／10a 収穫 7日前まで			●	kg
	イモチエーススタークル粒剤	3kg／10a 出穂14～10日前 収穫35日前まで			●	kg
	スタークル粒剤	3kg／10a 収穫 7日前まで			●	kg
	スタークル豆つぶ	250g／10a 収穫 7日前まで			●	g
					●	
					●	
					●	
	その他1				●	
	その他2				●	

- ★「苗箱消毒」では、使用基準欄に希釈倍率を記入して下さい。
- ★「その他液剤」を使用した場合は、使用量欄には希釈倍率を記入して下さい。

品種名

-  - 2

分類	農 薬 名	使用量・使用時期	チェック	最終使用日 月 日	10a当たり使用量	単位
初期除草剤	ソルネット1キロ粒剤	1kg／10a 移植直後 ～30日まで			●	kg
	先陣ジャンボ	200g／10a 移植直後 ～30日まで			●	ml
	メテオフロアブル	500ml／10a 移植直後 ～30日まで			●	ml
					●	
	その他1				●	
一発除草剤	その他2				●	
	サラブレッドGO1キロ粒剤	1kg／10a 移植直後 ～30日まで			●	kg
	アシュラ1キロ粒剤	1kg／10a 移植直後 ～30日まで			●	kg
	ゼアスジャンボ	300g／10a 移植直後 ～30日まで			●	g
	ウルティモZジャンボ	350g／10a 移植後5日 ～30日まで			●	g
中・後期除草剤	エンペラーフロアブル	500ml／10a 移植直後 ～30日まで			●	ml
					●	
	その他1				●	
	その他2				●	
	アトカラSジャンボMX	500g／10a 移植後14日～ 収穫45日前まで			●	g
畦畔除草剤	ヒエクリーン1キロ粒剤	1kg／10a 移植後15日～ 収穫45日前まで			●	kg
	バサグラン粒剤	3kg／10a 移植後15日～ 収穫45日前まで			●	kg
	レブラスギア1キロ粒剤	1kg／10a 移植後14日～ 収穫60日前まで			●	kg
	ウィードコア1キロ粒剤	1kg／10a 移植後7日～ 収穫60日前まで			●	kg
	ワイドパワー粒剤	3kg／10a 移植後20日～ 収穫45日前まで			●	kg
					●	
	その他1				●	
	その他2				●	
分類	農 薬 名	使用量・使用時期	チェック	使用日①	使用日②	使用日③
畦畔除草剤	ラウンドアップマックスロード(3回まで)	200～500ml／10a 収穫前日 まで				
	グリホエキス	250～500ml／10a 草丈30cm以下 収穫14日前まで				2回まで
	バスタ液剤(3回まで)	500～1000ml／10a 収穫 7日前まで				
	ザクサ液剤(3回まで)	500～1000ml／10a 収穫 7日前まで				
	プリグロックスL(5回まで)	600～1000ml／10a				
	カーメックスD	150～300g／10a				2回まで
	ダイロンゾル	200～250ml／10a 雑草発生前～ 雑草発生初期				
	その他					

※農薬取締法を遵守し、使用基準を守って使用して下さい。※P34～の農薬登録内容を確認して下さい。

JAの点検により誤使用が発覚した場合、そのコメは『別扱い』とします。



JA金沢中央 ～しっかり記帳、安全・安心の米づくり～  
令和8年産 水稻生産履歴記録簿

※ 記入上の注意事項

- 品種・栽培方法(移植・直播など)で、別々に1枚ずつ記入して下さい。
- 何筆かあるほ場のうち、1筆でも使用したものは記入して下さい。
- この用紙を汚したり、折り曲げたり、穴を開けたりしないで下さい。
- コンピュータ処理を行いますので、シャープペンシル(0.5mm HB)で、丁寧に記入して下さい。
- 不明な点はJAまでお問い合わせ下さい。

印

住所

生産者名

電話番号

品 種 名

作付面積

a

筆数

秋耕(令和7年わらの鋤込み)

前年始期

前年終期

種 苗

育 苗 方 法

自家※1

JAから苗購入

その他から苗購入※2

※1自家の場合に  
は種日を記入

※2その他の場合に  
農家名等をカタカナで記入

種子調達先

(数量)

JA

自家採種

その他※

※その他の場合に  
農家名等をカタカナで記入

※種子保証票・農薬履歴あり

※種子保証票あり

床 土

加工床土

原土

肥料名  
(床土銘柄)

PH調整剤

栽 培

栽 培 方 法

移植

直播

晩植

農特

全指

田植(直播)日

出穂時確認

異品種の混入が見られなかった

確認日

管 理

田干しの実施

有

無

中干し期間

溝 切 り

有

無

間 断 通 水

有

無

刈 取

刈取(予定)日

乾燥・調製

自家

JA施設

農家委託等※

※農家委託等の場合に  
農家名等をカタカナで記入

秋耕(当年作わらの鋤込み)

始期(予定)

( J A 使 用 欄 )

支 店 名

組合員コード

品種コード

一次確認

二次確認

/

/

2025版

【肥 料】

- 使用した肥料に○をつけ、最終施肥日および10a当たり使用量を記入します。
- 掲載していない肥料を使用した場合、「その他」欄にカタカナで品名と単位欄を記入します。

分類

肥 料 名

施肥基準

チェック

最終施肥日

10a当たり使用量

単位

土づくり

BB スーパーけい酸

60kg／10a

kg

BB パワフル大地

60kg／10a

kg

BB 鉄腕ソイル

60kg／10a

kg

ようりん(粒)

60kg／10a

kg

ケイカル

100kg／10a

kg

その他1

その他2

基肥(活着肥含む)

BB 有機入り820号(みさと)

40～50kg／10a

kg

BB いしかわ有機入り056号

30～40kg／10a

kg

BB コシー発くんDX24

35～40kg／10a

kg

BB コシー発くんNEO β

35～40kg／10a

kg

BB 有機入りコシー発くん

35～40kg／10a

kg

BB 新コシー発くん特号

35～40kg／10a

kg

BB けい酸パワー・コシー発くん

70～80kg／10a

kg

BB けい酸アップ・コシー発くん

45～55kg／10a

kg

BB 早生一発くんDX28

40～50kg／10a

kg

BB 早生一発くんNEO

40～50kg／10a

kg

BB スリム早生一発くん

40～50kg／10a

kg

その他1

その他2

中間追肥

BB PKけいさん

20～40kg／10a

kg

草木加里

10kg／10a

kg

けい酸加里プレミア

20～40kg/10a

kg

その他1

その他2

分類

肥 料 名

施肥基準

チェック

施肥日①

施肥日②

施肥日③

穂

BB 有機入り追肥526号

30～45kg／10a

kg

肥

その他1

その他2

農薬はウラ面に記入します。

【農 薬】

- 使用した農薬に○をつけ、最終使用日および10a当たり使用量（苗箱消毒・箱施薬の場合は1箱当たり使用量）を記入します。
- 掲載していない農薬を使用した場合、「その他」欄にカタカナで品名と単位欄を記入します。

分類	農 薬 名	使用量・使用時期	チェック	最終使用日 月 日	10a当たり 1箱当たり 使用量	単位
収穫後防除	ラウンドアップマックスロード	200～1000ml／10a				ml
	その他					
種子消毒	消毒済種子購入					
	テクリードCフロアブル	200倍				
	その他					
苗箱消毒	ダコレート水和剤	400～600倍				ml
	タチガレエースM液剤	500～1000倍（500ml／箱）				ml
	その他					
箱施薬	薬剤処理済苗購入					
	エバーゴルフオルテ箱粒剤	50g／箱				g
	Dr.オリゼリディア箱粒剤	50～100g／箱				g
	その他					
本田随時防除	リンバー粒剤	3～4kg／10a 収穫 30日前まで				kg
	ブラシン粉剤DL	3～4kg／10a 収穫 7日前まで				kg
	Zボルドー粉剤DL	3～4kg／10a 出穂 10日前まで				kg
	トレボン粉剤DL	3～4kg／10a 収穫 7日前まで				kg
	モンガリット粒剤	3～4kg／10a 収穫 30日前まで				kg
	その他					
	その他液剤					倍
本田仕上防除	ビームトレモンセレン粉剤DL	3～4kg／10a 収穫 21日前まで				kg
	ラブサイドスタークル粉剤DL	3～4kg／10a 収穫 7日前まで				kg
	スタークル粉剤DL	3kg／10a 収穫 7日前まで				kg
	イモチエーススタークル粒剤	3kg／10a 出穂14～10日前 収穫35日前まで				kg
	スタークル粒剤	3kg／10a 収穫 7日前まで				kg
	スタークル豆つぶ	250g／10a 収穫 7日前まで				g
	その他1					
	その他2					

- ★「苗箱消毒」では、使用基準欄に希釈倍率を記入して下さい。
- ★「その他液剤」を使用した場合は、使用量欄には希釈倍率を記入して下さい。

品種名

分類	農 薬 名	使用量・使用時期	チェック	最終使用日 月 日	10a当たり使用量	単位
初期除草剤	ソルネット1キロ粒剤	1kg／10a 移植直後 ～30日まで				kg
	先陣ジャンボ	200g／10a 移植直後 ～30日まで				ml
	メテオフロアブル	500ml／10a 移植直後 ～30日まで				ml
	その他1					
一発除草剤						
	その他2					
中・後期除草剤	サラブレッドGO1キロ粒剤	1kg／10a 移植直後 ～30日まで				kg
	アシュラ1キロ粒剤	1kg／10a 移植直後 ～30日まで				kg
	ゼアスジャンボ	300g／10a 移植直後 ～30日まで				g
	ウルティモZジャンボ	350g／10a 移植後5日 ～30日まで				g
	エンペラーフロアブル	500ml／10a 移植直後 ～30日まで				ml
	その他1					
	その他2					
中・後期除草剤	アトカラSジャンボMX	500g／10a 移植後14日～ 収穫45日前まで				g
	ヒエクリーン1キロ粒剤	1kg／10a 移植後15日～ 収穫45日前まで				kg
	バサグラン粒剤	3kg／10a 移植後15日～ 収穫45日前まで				kg
	レブラスギア1キロ粒剤	1kg／10a 移植後14日～ 収穫60日前まで				kg
	ウィードコア1キロ粒剤	1kg／10a 移植後7日～ 収穫60日前まで				kg
	ワイドパワー粒剤	3kg／10a 移植後20日～ 収穫45日前まで				kg
	その他1					
中・後期除草剤	その他2					
分類	農 薬 名	使用量・使用時期	チェック	使用日①	使用日②	使用日③
畦畔除草剤	ラウンドアップマックスロード(3回まで)	200～500ml／10a 収穫前日 まで				
	グリホエキス	250～500ml／10a 草丈30cm以下 収穫14日前まで				2回まで
	バスタ液剤(3回まで)	500～1000ml／10a 収穫 7日前まで				
	ザクサ液剤(3回まで)	500～1000ml／10a 収穫 7日前まで				
	プリグロックスL(5回まで)	600～1000ml／10a				
	カーメックスD	150～300g／10a				
	ダイロンゾル	200～250ml／10a 雑草発生前～ 雑草発生初期				2回まで
	その他					

※農薬取締法を遵守し、使用基準を守って使用して下さい。※P34～の農薬登録内容を確認して下さい。

JAの点検により誤使用が発覚した場合、そのコメは『別扱い』とします。



# 水田畦畔や農道の雑草防除に！

農林水産省登録 第14216号



## ホクコー カソロン<sup>®</sup> 粒剤6.7

- ◎農閑期の散布で雑草の発生を長期間抑える！
- ◎頑固なスギナにも良く効く！
- ◎粒剤で簡単散布！◎畦畔は崩れにくい！
- ◎忙しい春先の除草作業を軽減！

### 使用時期

11月下旬～3月中旬頃

### 使用量

4～6 kg/10a(水田畦畔)  
10～15kg/10a(農道)

### 使用方法

#### 全面土壌散布

※3kg(1袋)で  
500㎡～750㎡(水田畦畔)、  
200㎡～333㎡(農道)  
散布できます。

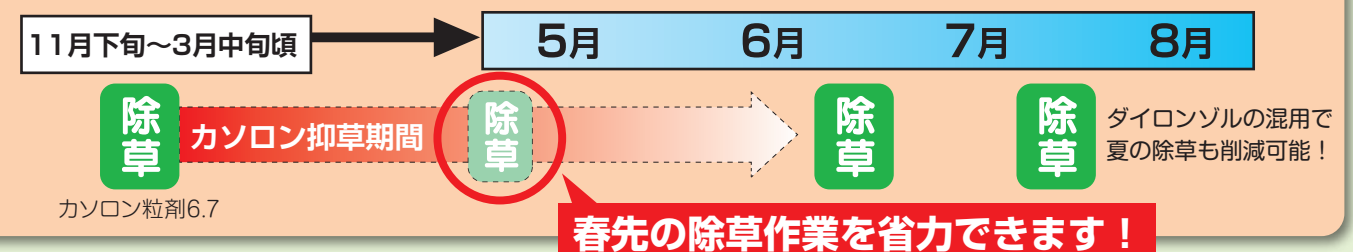


斑点米カメムシの  
増殖場所を減らし、  
密度を下げます。

◎金沢市  
散布日：平成26年 1 月13日  
撮影日：平成26年 5 月31日

## 薬剤の散布でこれだけの差がでます！

### 秋冬期雑草防除体系



### 使用上の注意

- ① 薬剤を散布する際には水田に飛散しないように注意してください。
- ② 畦塗りをする場合は畦塗りをした後に散布してください。
- ③ 土壌が乾燥していると効果が不十分となりますので、雨上がりなどの土が湿った状態で散布してください。



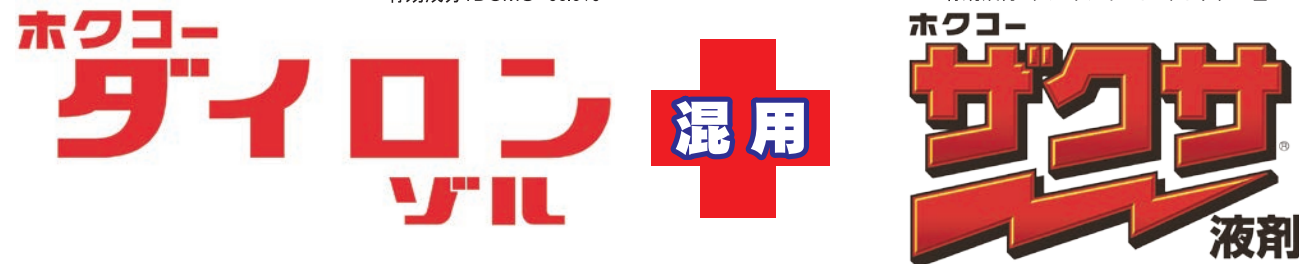
# DZ作戦 水田畦畔除草のご紹介

**DZ作戦とは**

ダイロン(D)とザクサ(Z)を混用して散布することにより、畦畔除草の省力化・コスト削減、カメムシ対策を目指した取り組みです。

農林水産省登録 第22908号  
有効成分: DCMU 50.0%

農林水産省登録 第22902号  
有効成分: グルホシネートPナトリウム塩 11.5%



®は三井化学クロップ&ライフソリューション株式会社の登録商標

**ダイロンゾル**：土壌に処理層を作り、これから発生する雑草を長期間抑えます。  
**ザクサ液剤**：すでに生えている雑草を枯らしめます。

**長期間 草刈り不要！**

## DZ作戦 おすすめポイント

### ① 畦畔除草作業の省力化

雑草の発生を長期間抑えることにより、除草作業の省力化が図れます。

### ② 除草コストの削減

茎葉処理除草剤2回散布を1回で済ませられるのでコスト削減が可能です。

### ③ 斑点米カメムシ類対策

斑点米カメムシ類の住処となる畦畔雑草を長期間抑え、斑点米発生リスクを軽減します。



ダイロンゾル  
500ml

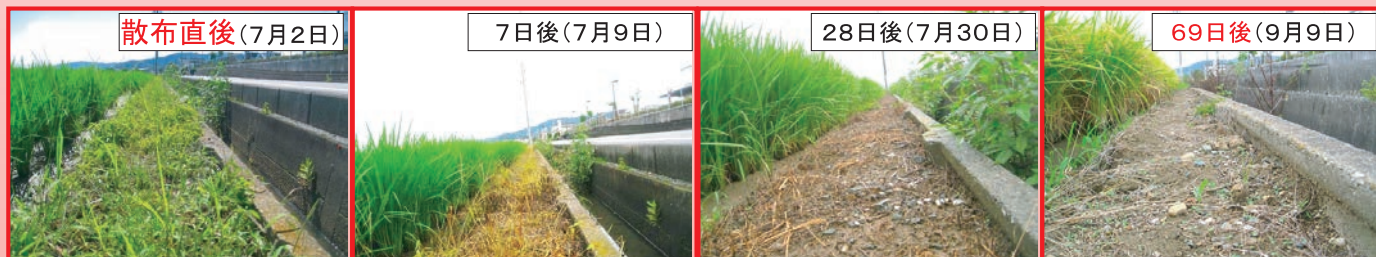


ザクサ液剤  
500ml

## DZ作戦 の試験散布事例

試験場所: 静岡県浜松市 薬剤散布日: 2020年7月2日

**ダイロンとザクサの混用散布 (DZ作戦)** (散布倍率: ダイロンゾル: 400倍、ザクサ液剤100倍)



「DZ作戦」は水田畦畔雑草を速やかに枯らし、新たな雑草の発生を長期間抑えることができます。

## ◆ 稲の病気の種類 ◆



リゾプス菌 (白カビ)



トリコデルマ菌 (青カビ)



フザリウム菌 (赤カビ)



紋枯病



葉いもち



白葉枯病



穂いもち (枝梗いもち)



穂いもち (首いもち)



稲こうじ病

## ◆ 着色粒の種類 ◆



カメムシ (斑点米)



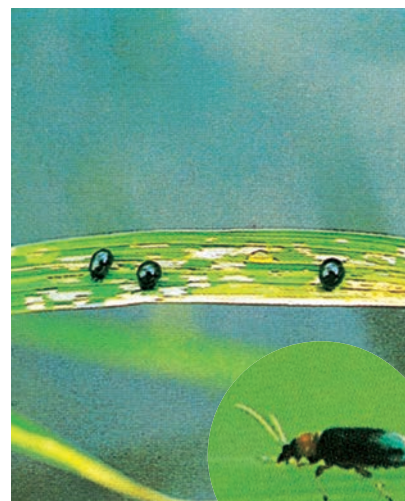
褐色米



腹黒米



◆ 害虫の種類 ◆



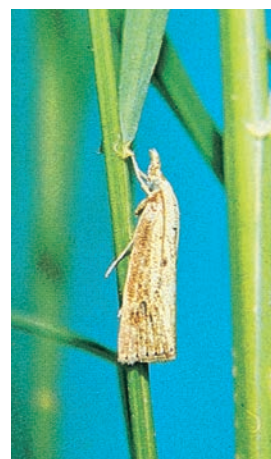
イネドロオイムシ



イネゾウムシ



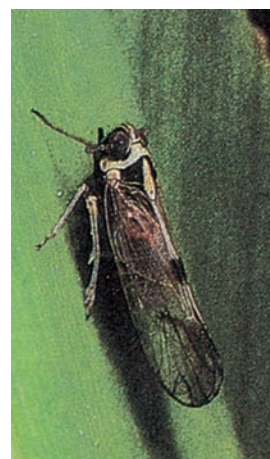
イネミズゾウムシ



ニカメイチュウ



ツマグロヨコバイ



セジロウンカ



コブノメイガ



ホソハリカメムシ



トゲシラホシカメムシ



アカスジカスミカメ



アカヒゲホソミドリ  
カスミカメ



クモヘリカメムシ

◆ 水田の主な雑草 ◆



ノビエ



キシウスズメノヒエ



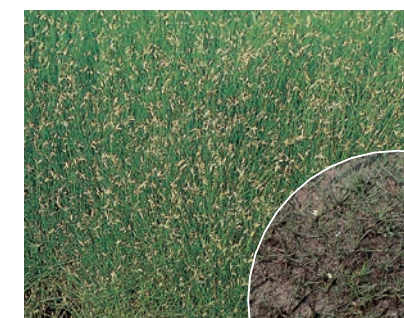
ミズガヤツリ



ホタルイ



クログワイ



マツバイ



コナギ



アゼナ



ウリカワ



オモダカ



ヘラオモダカ



セリ



ヒルムシロ



イボクサ



浮草・藻類